

令和 6 年度
横浜市男女共同参画に関する
市民意識調査

報告書

令和 7 年 3 月
横浜市政策経営局

目次

第1部 調査の概要	1
1. 調査の目的	2
2. 調査の内容	2
3. 調査設計	2
4. 回収結果	2
5. 報告書の見方	2
第2部 調査結果	3
回答者の属性	
I 男女の役割・地位に関する意識について	7
(1) 各分野での男女の地位の平等感	8
(2) 夫と妻の役割に対する意識	19
(3) 日常生活における男女の役割期待の有無、内容及び影響	26
II 家庭生活・仕事における男女共同参画について	32
(4) 家事、育児、介護の分担の実際と理想	33
(5) 男性の育児休業取得に対する意識	47
(6) 職場での女性登用における課題	51
(7) セクシュアル・ハラスメント、マタニティ・ハラスメント被害の有無	52
(8) 地域活動におけるリーダー等への女性参画に対する意識	55
III DV（配偶者等からの暴力）について	57
(9) DV相談窓口の認知度	58
(10) DVの認識	60
(11) デートDVの認知度	67
(12) DVやデートDVを受けた場合の相談意思、相談先、必要な相談体制	69
IV 困難な問題を抱える女性への支援について	73
(13) 困難な問題を抱える女性への支援に対する意識	74
V 男女共同参画について	76
(14) 男女共同参画社会の実現に向けて横浜市が重点的に取り組むべきこと	77
調査票	

第 1 部 調査の概要

1. 調査の目的

本調査は、市民の男女共同参画に関する意識、実態等の現状及びその推移を明らかにすることで、横浜市における男女共同参画推進に関する課題を把握し、今後の横浜市の施策をさらに推進するための基礎資料とすることを目的に実施した。

2. 調査の内容

I 男女の役割・地位に関する意識について

- (1) 各分野での男女の地位の平等感
- (2) 夫と妻の役割に対する意識
- (3) 日常生活における男女の役割期待の有無、内容及び影響

II 家庭生活・仕事における男女共同参画について

- (4) 家事、育児、介護などの分担の実際と理想
- (5) 男性の育児休業取得に対する意識
- (6) 職場での女性登用における課題
- (7) セクシュアル・ハラスメント、マタニティ・ハラスメント被害の有無
- (8) 地域活動におけるリーダー等への女性参画に対する意識

III DV（配偶者等からの暴力）について

- (9) DV相談窓口の認知度
- (10) DVの認識
- (11) デートDVの認知度
- (12) DVやデートDVを受けた場合の相談意思、相談先、必要な相談体制

IV 困難な問題を抱える女性への支援について

- (13) 困難な問題を抱える女性への支援に対する意識

V 男女共同参画について

- (14) 男女共同参画社会の実現に向けて横浜市が重点的に取り組むべきこと

3. 調査設計

- (1) 調査対象 : 横浜市内在住の満18歳以上の男女(外国籍市民を含む)
- (2) 標本数 : 5,000 サンプル
- (3) 抽出方法 : 住民基本台帳による無作為抽出
- (4) 調査方法 : 郵送配布、郵送またはインターネット回答
- (5) 調査期間 : 令和6年9月14日～10月8日
- (6) 調査実施機関 : 株式会社ジャンボ

4. 回収結果

- (1) 調査対象者数 : 5,000 人(うち外国籍市民 150 人)
- (2) 回収数 : 1,667 サンプル
- (3) 回収率 : 33.3%

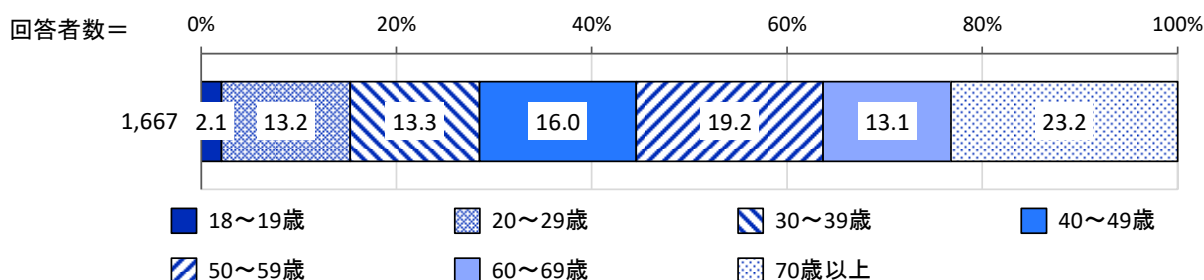
5. 報告書の見方

- (1) 結果の数値(%)は小数第2位を四捨五入しているため、内訳の計と合計値が一致しない場合がある。
- (2) サンプルは、ウェイトバックにより横浜市の年齢構成比に合わせた補正を行っている。
- (3) サンプルが少ない項目についても、参考に掲載している。

第2部 調査結果

回答者の属性

(1) 年代



回答者及び横浜市全体の年齢構成

		回答者数	割合(%)	横浜市全体	
				人口(人)	構成比(%)
合計		1,609	100.0%	3,237,722	100.0%
18・19歳		26	1.6%	67,226	2.1%
20歳代		124	7.7%	426,838	13.2%
30歳代		147	9.1%	429,226	13.3%
40歳代		242	15.0%	519,248	16.0%
50歳代		356	22.1%	620,362	19.2%
60歳代		309	19.2%	424,046	13.1%
70歳代以上		405	25.2%	750,776	23.2%
女性	合計	915	100.0%	1,644,373	100.0%
	18・19歳	14	1.5%	32,586	2.0%
	20歳代	65	7.1%	208,563	12.7%
	30歳代	84	9.2%	208,813	12.7%
	40歳代	141	15.4%	254,051	15.4%
	50歳代	213	23.3%	303,457	18.5%
	60歳代	167	18.3%	208,389	12.7%
	70歳代以上	231	25.2%	428,514	26.1%
男性	合計	694	100.0%	1,593,349	100.0%
	18・19歳	12	1.7%	34,640	2.2%
	20歳代	59	8.5%	218,275	13.7%
	30歳代	63	9.1%	220,413	13.8%
	40歳代	101	14.6%	265,197	16.6%
	50歳代	143	20.6%	316,905	19.9%
	60歳代	142	20.5%	215,657	13.5%
	70歳代以上	174	25.1%	322,262	20.2%

令和6年9月30日現在の年齢別人口（住民基本台帳による）

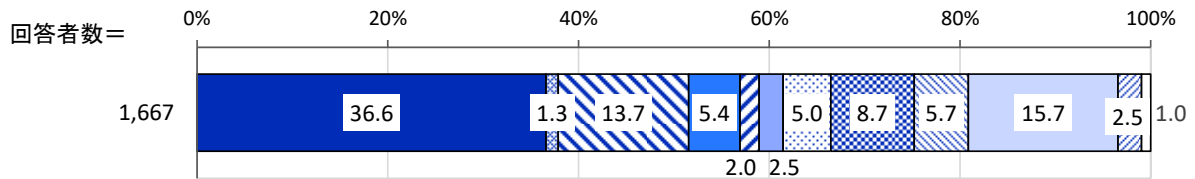
※合計人口は17歳以下を除く数値。

※ウェイトバック集計では、横浜市全体の人口構成に比率を合わせるため、本調査における性別と年齢の無回答者は除外している。

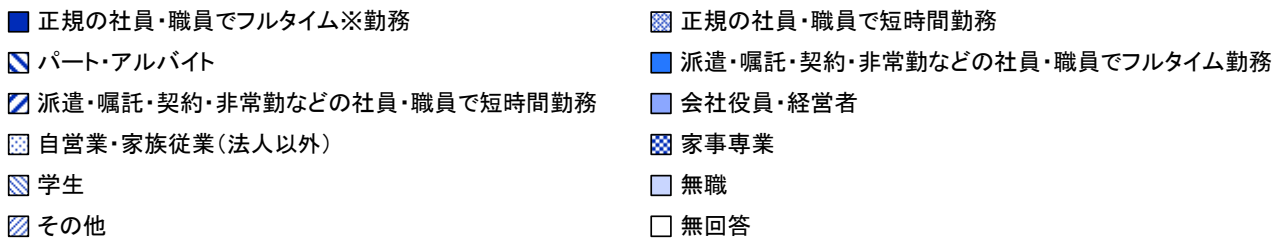
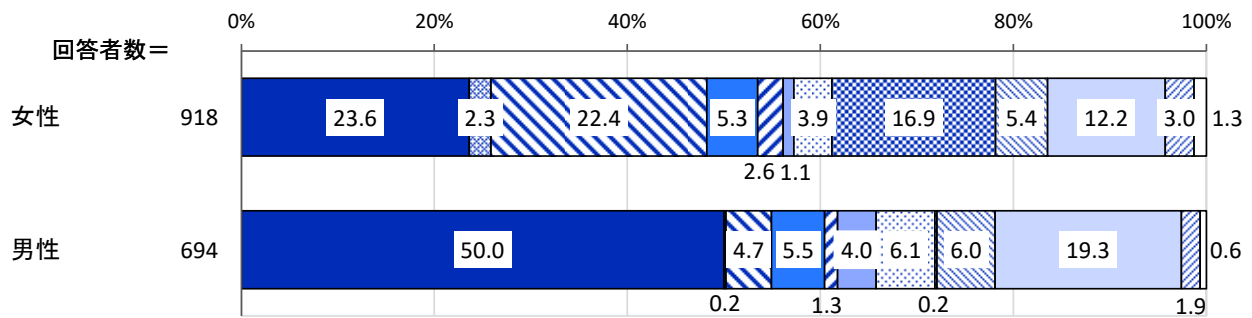
※ウェイトバック集計による補正後のサンプル数は、小数第1位を四捨五入しているため、合計値と内訳の計は一致しない。

※以降の値は、ウェイトバック集計による補正を行っている。

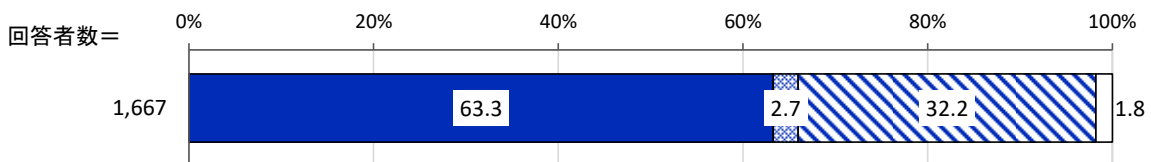
(2) 職業



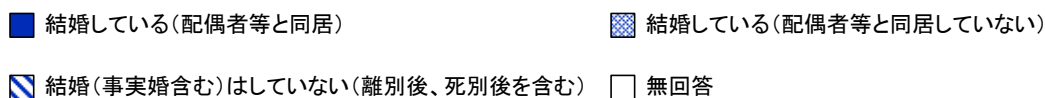
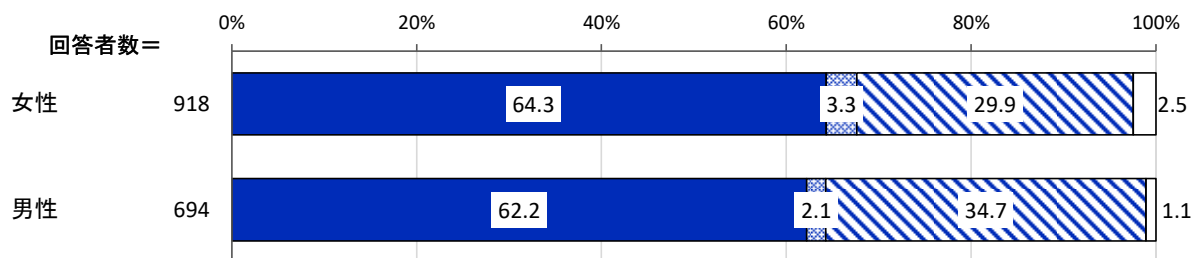
【性別】



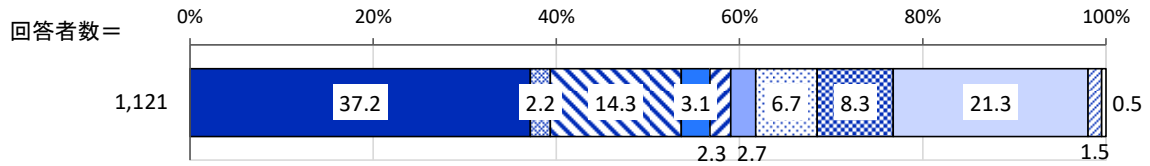
(3) 結婚の有無



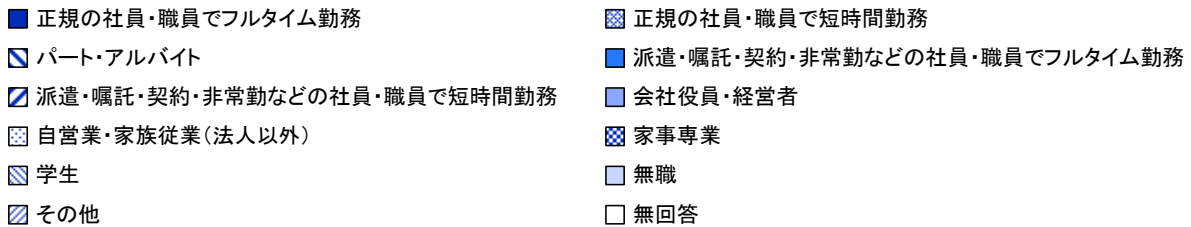
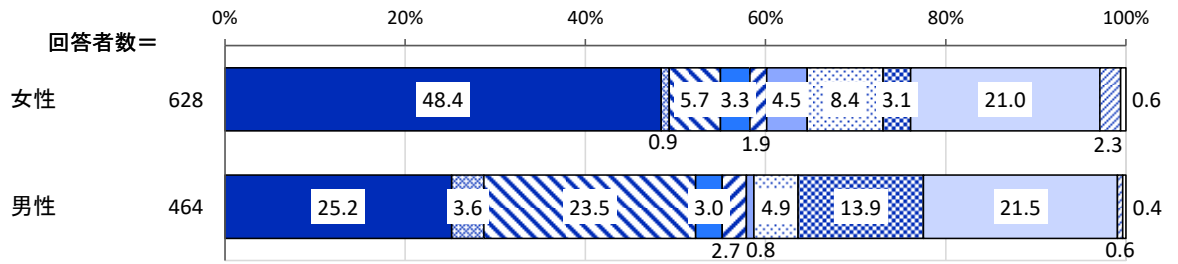
【性別】



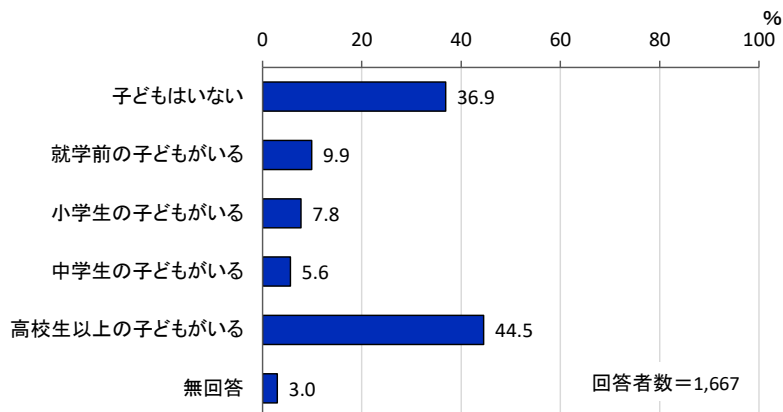
(4) 同居している配偶者等の職業



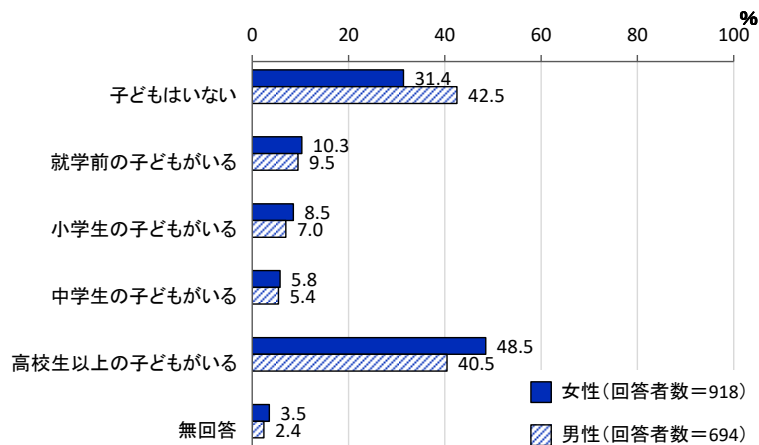
【性別】



(5) 子どもの有無（複数回答）



【性別】



I 男女の役割・地位に 関する意識について

(1) 各分野での男女の地位の平等感

- ・男女の地位について、すべての項目（場）の“平等”の回答割合を比較すると、「学校教育の場」（53.3%）が最も高く、「政治の場」（10.1%）が最も低い。
- ・すべての項目（場）の“男性の方が優遇”の回答割合を比較すると、「政治の場」（75.6%）が最も高く、「学校教育の場」（9.7%）が最も低い。
- ・“女性の方が優遇”の割合は2.2%～9.6%であり、全ての項目で割合が低くなっている。

※本設問において、令和4年度調査まで「平等になっている」としていた選択肢を、令和6年度から「完全に平等になっている」「ほぼ平等になっている」の2つに変更した。令和4年度以前の結果との単純比較はできないが、参考として経年比較を掲載している。

※本項目では、以下のとおり表記している。

“男性の方が優遇”：「男性の方が優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」の合計

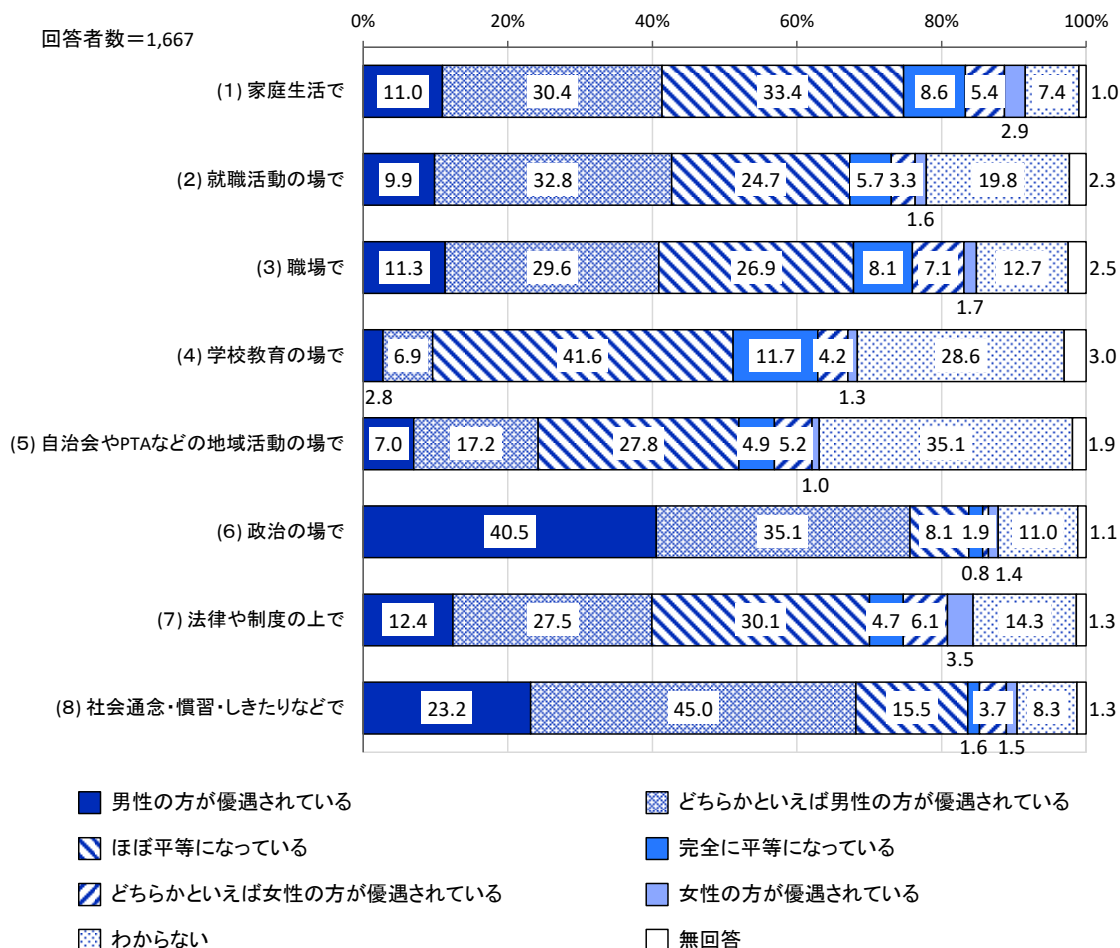
“平等”：「ほぼ平等になっている」と「完全に平等になっている」の合計

“女性の方が優遇”：「女性の方が優遇されている」と「どちらかといえば女性の方が優遇されている」の合計

男女の地位の平等感（問1）

各分野における男女の地位の平等感について、“男性の方が優遇”の割合は、「政治の場」が75.6%と最も高く、次いで「社会通念・慣習・しきたり」で68.2%となっている。

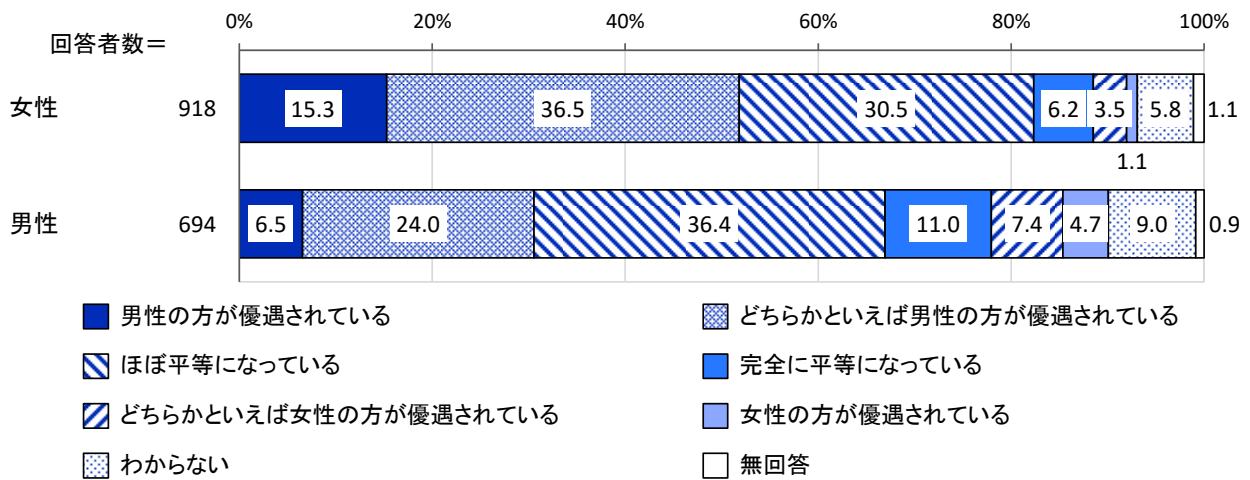
一方、“平等”の割合は、「学校教育の場」が53.3%と最も高くなっている。



男女の地位の平等感【家庭生活】（問１（１））性別

家庭生活における男女の地位の平等感について、性別でみると、女性では“男性の方が優遇”が51.8%、男性では“平等”が47.4%となっている。

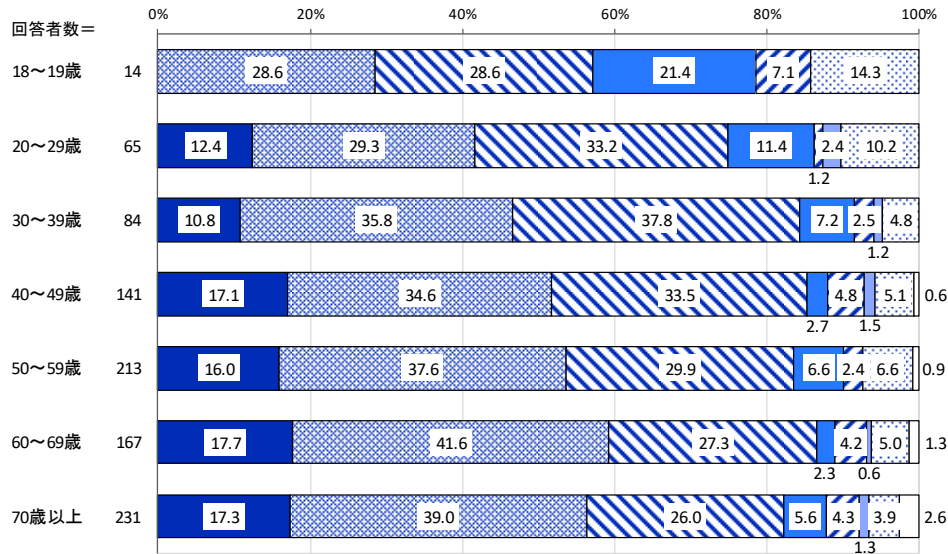
【性別】



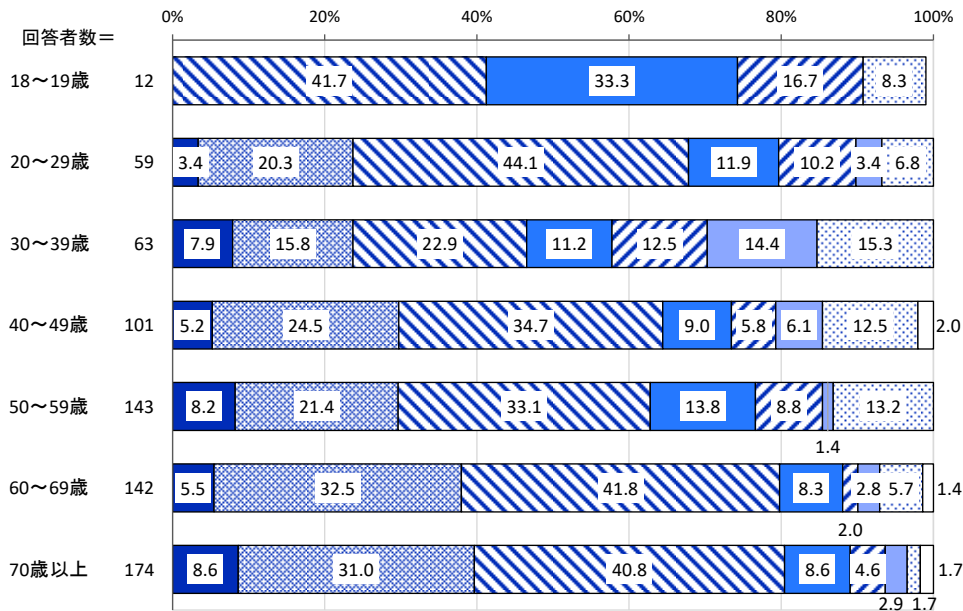
男女の地位の平等感【家庭生活】（問１（１））性・年齢別

家庭生活における男女の地位の平等感について、性・年齢別でみると、女性は、30代以上の年代において“男性の方が優遇”が最も多いのに対し、10～20代では、“平等”が最も多くなっている。男性は、全ての年代において“平等”が最も多くなっている。

【性・年齢別／女性】



【性・年齢別／男性】

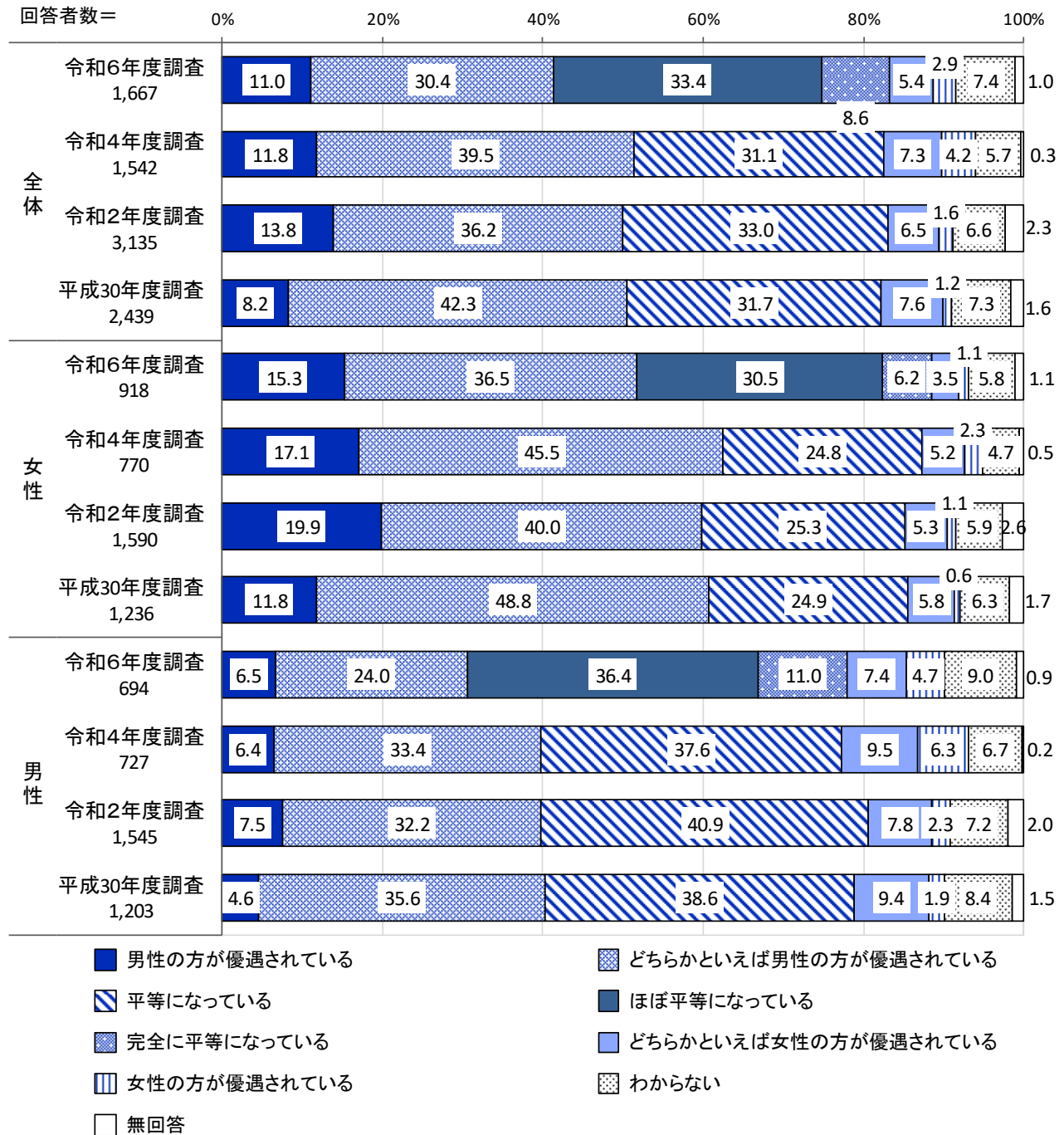


- 男性の方が優遇されている
- どちらかといえば男性の方が優遇されている
- ほぼ平等になっている
- 完全に平等になっている
- どちらかといえば女性の方が優遇されている
- 女性の方が優遇されている
- わからない
- 無回答

男女の地位の平等感【家庭生活】（問１（１））経年比較／全体・男女別

※令和４年度調査まで「平等になっている」としていた選択肢を、令和６年度から「完全に平等になっている」「ほぼ平等になっている」の２つに変更した。令和４年度以前の結果との単純比較はできないが、参考として経年比較を掲載している。（問１（１）～（８））

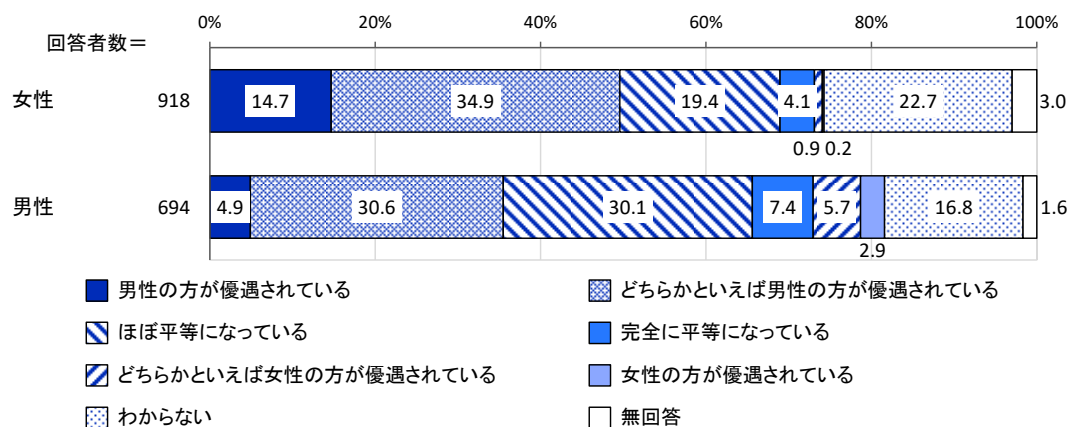
【経年比較／全体・男女別】



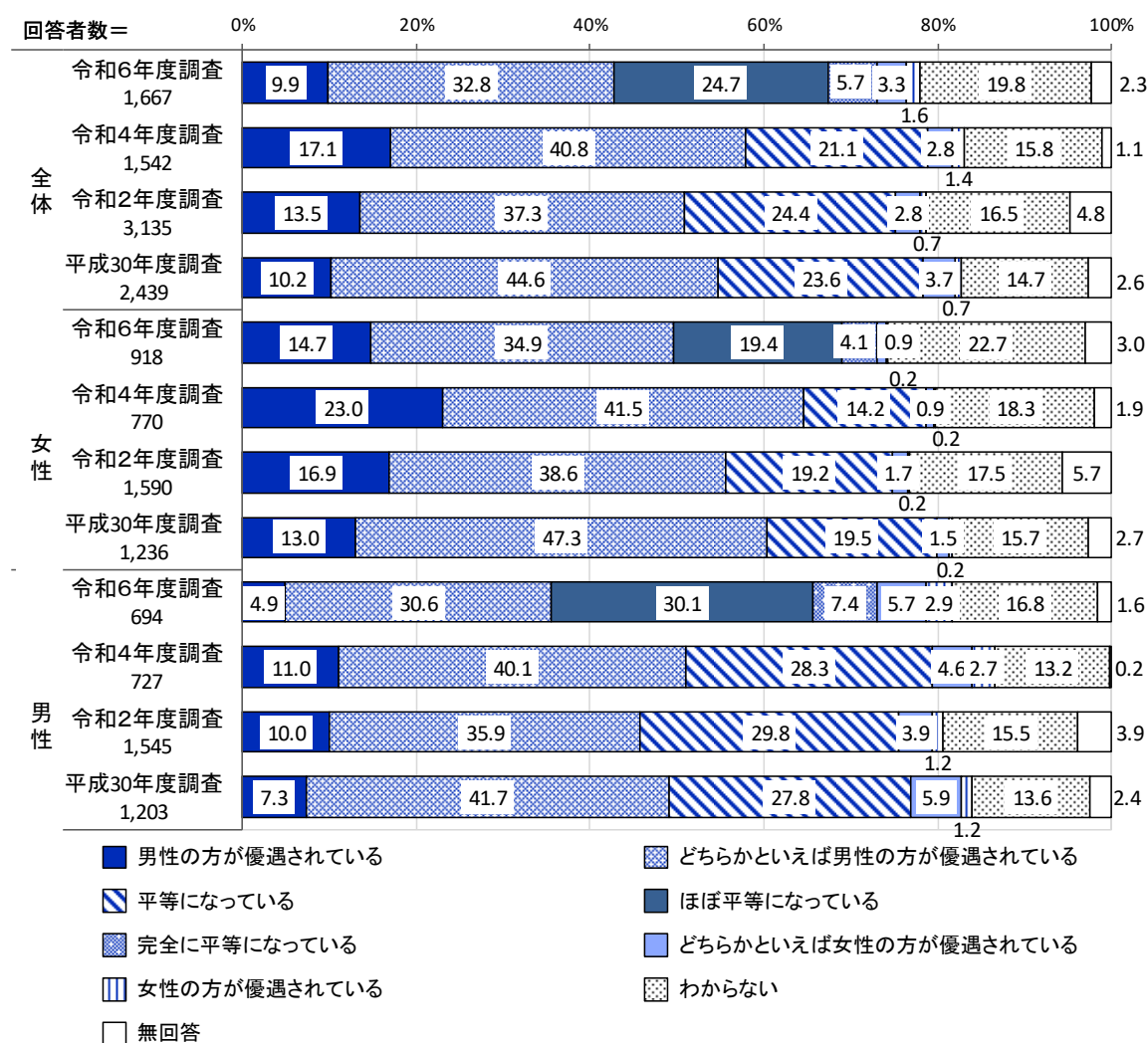
男女の地位の平等感【就職活動の場】（問1（2））

就職活動の場における男女の地位の平等感について、性別で見ると、女性では、“男性の方が優遇”が49.6%と最も多くなっている。男性では、“平等”（37.5%）が“男性の方が優遇”（35.5%）をやや上回っている。

【性別】



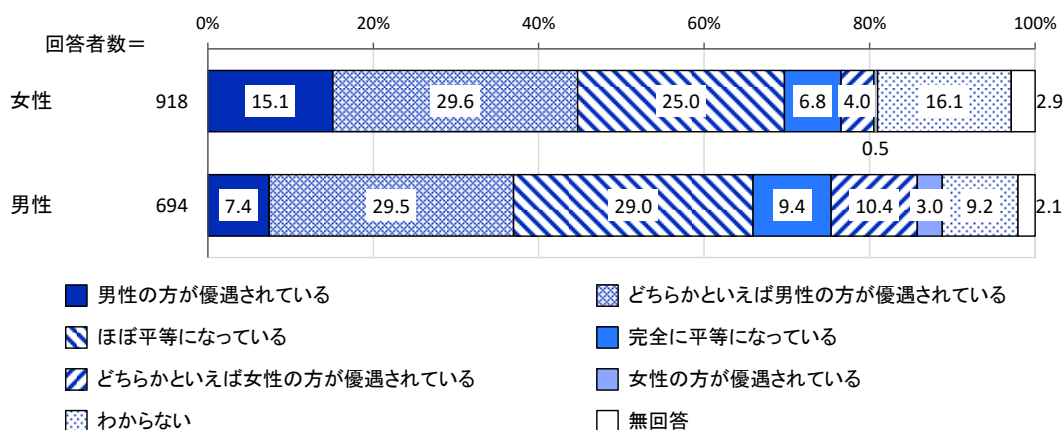
【経年比較／全体・男女別】



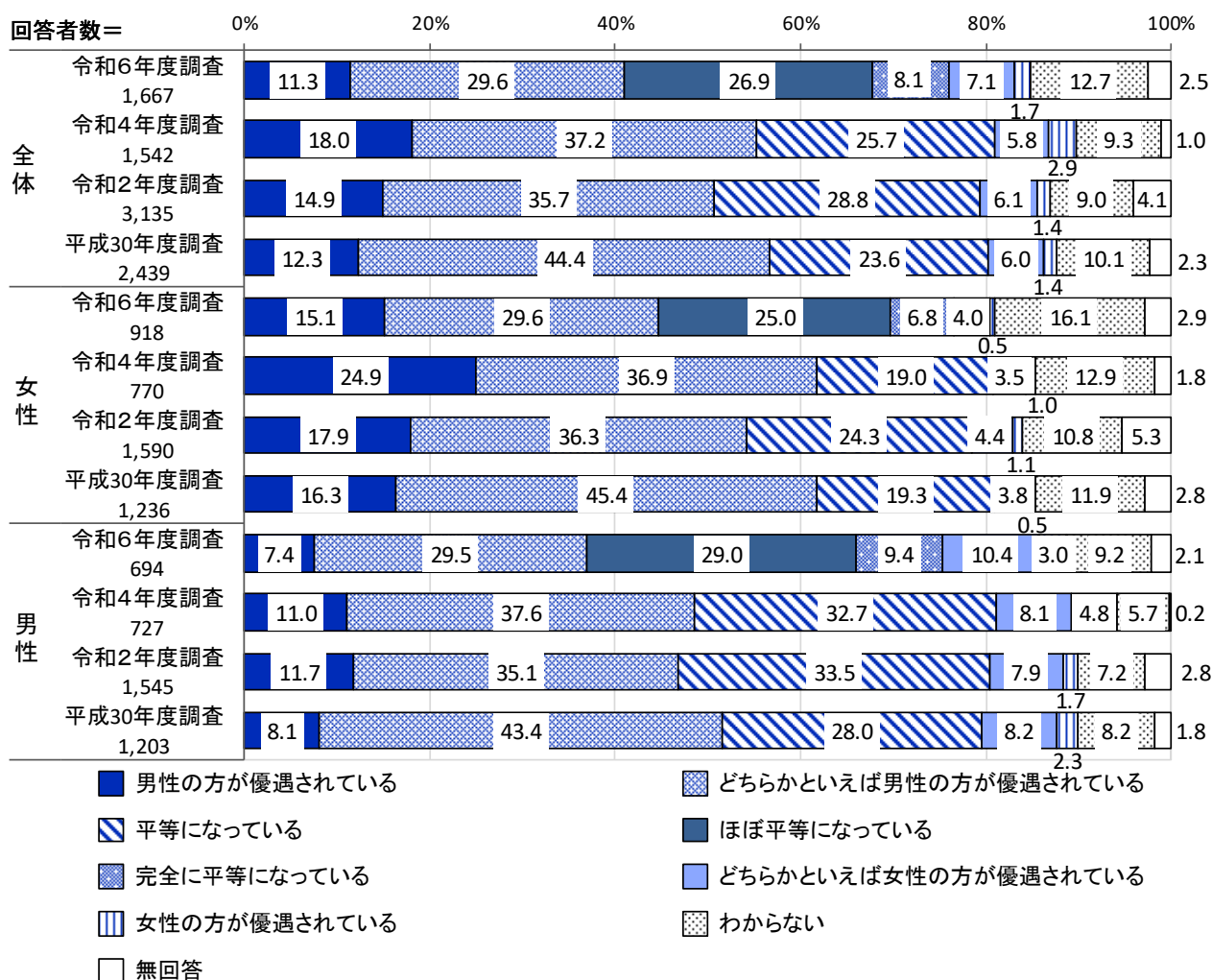
男女の地位の平等感【職場】（問1（3））

職場における男女の地位の平等感について、性別で見ると、女性では、“男性の方が優遇”が44.7%となっている。男性では、“平等”（38.4%）が“男性の方が優遇”（36.9%）をやや上回っている。

【性別】



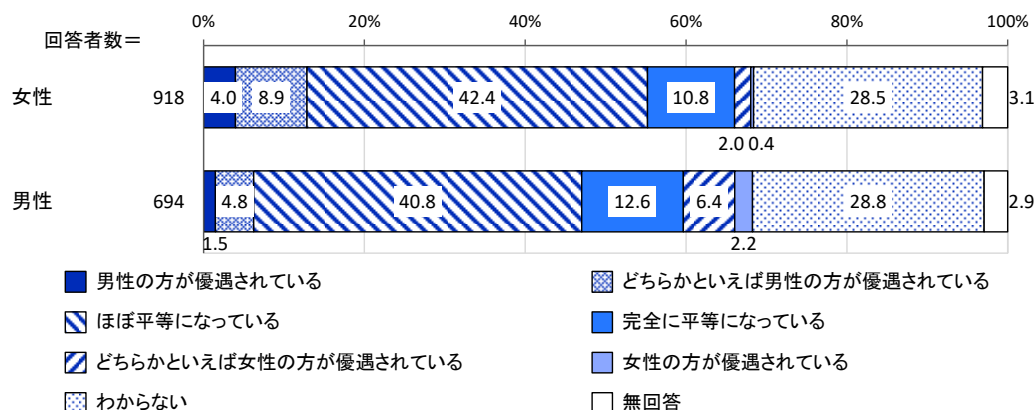
【経年比較／全体・男女別】



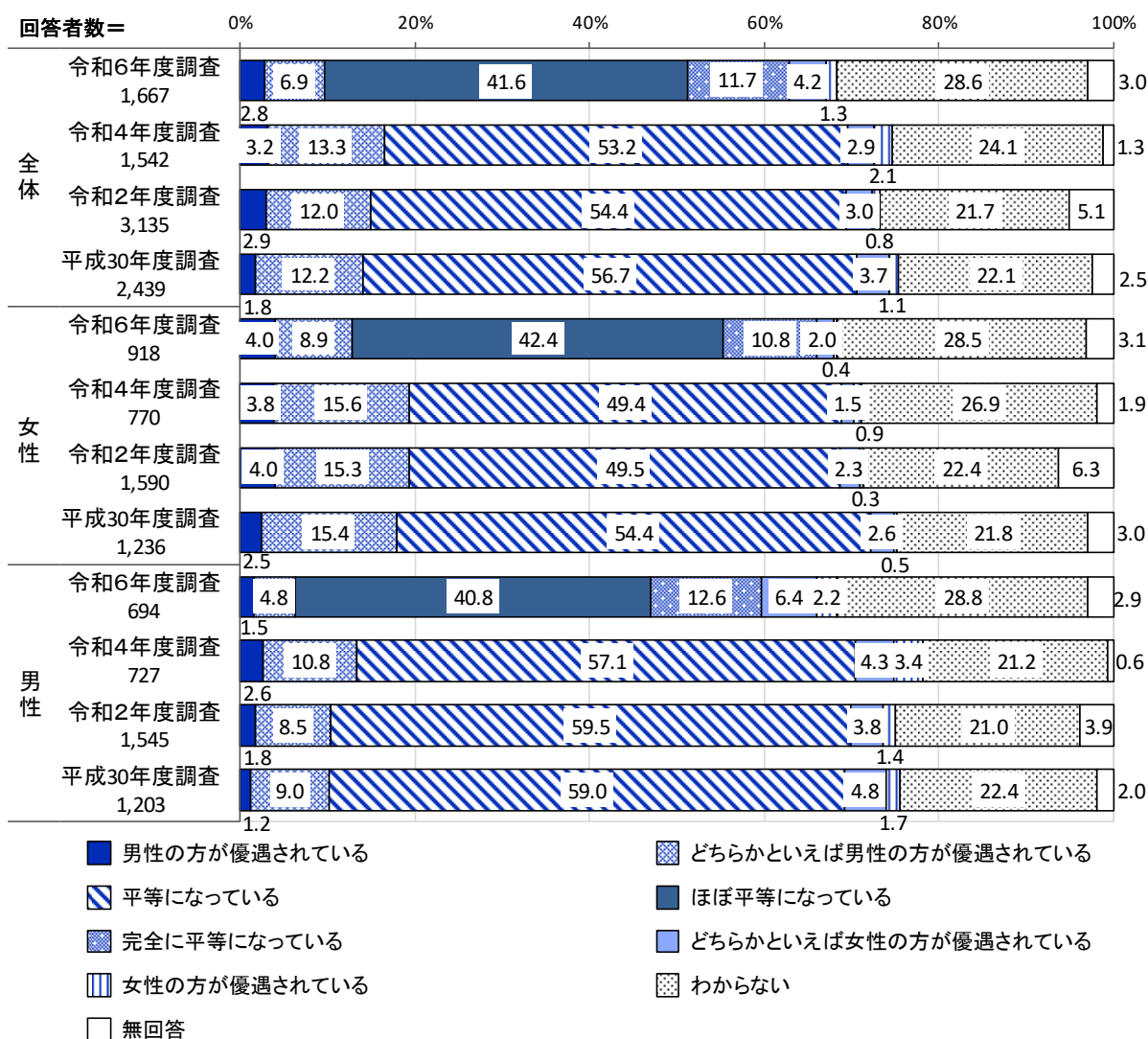
男女の地位の平等感【学校教育の場】（問1（4））

学校教育の場における男女の地位の平等感について、男女ともに“平等”が最も多く、女性は53.2%、男性は53.4%と、いずれも半数を超えている。

【性別】



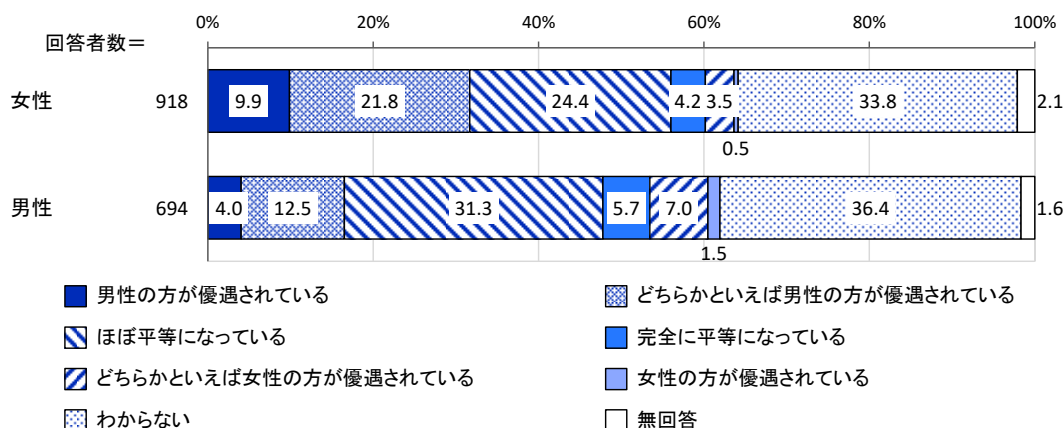
【経年比較／全体・男女別】



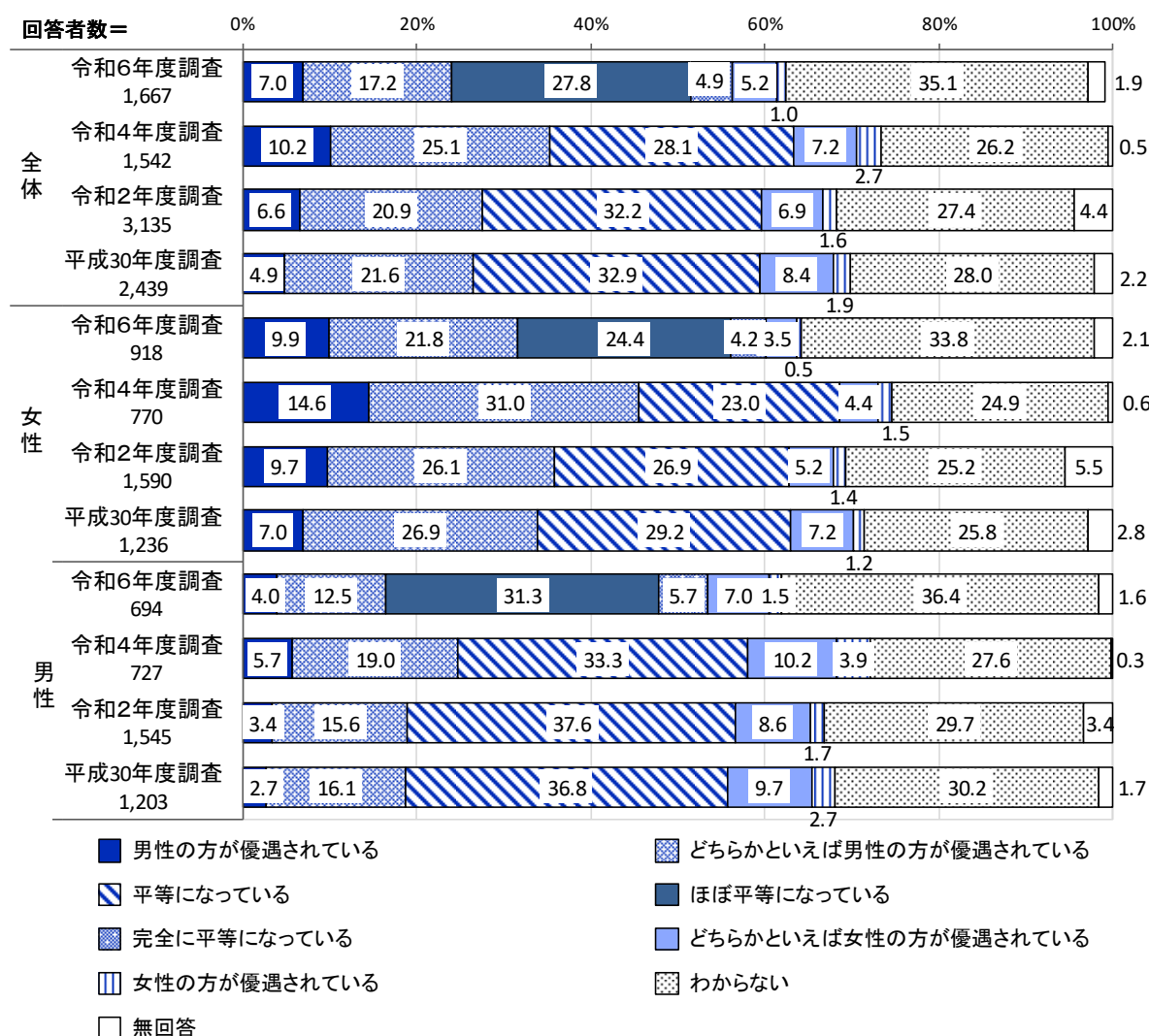
男女の地位の平等感【地域活動の場】（問1（5））

地域活動の場における男女の地位の平等感について、性別でみると、女性では“男性の方が優遇”（31.7%）が“平等”（28.5%）をやや上回っている。また、“わからない”（33.8%）が最も多くなっている。男性では“平等”（36.9%）“わからない”（36.4%）の割合が同程度で最も多くなっている。

【性別】



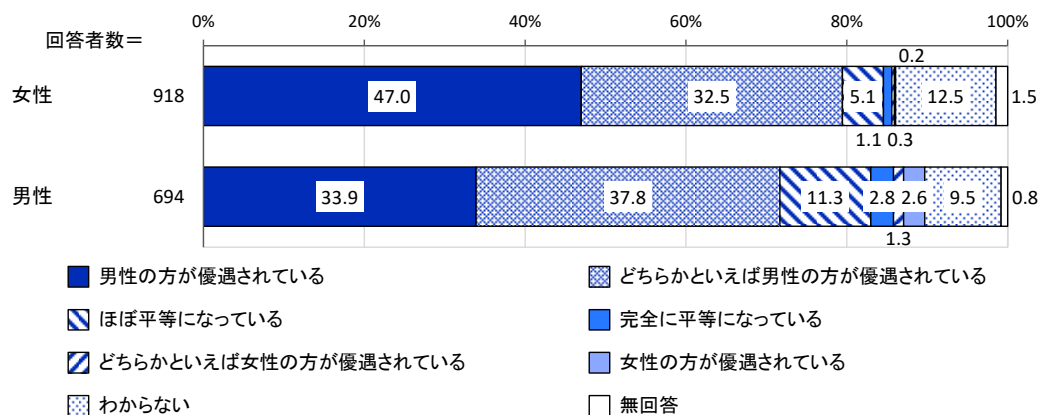
【経年比較／全体・男女別】



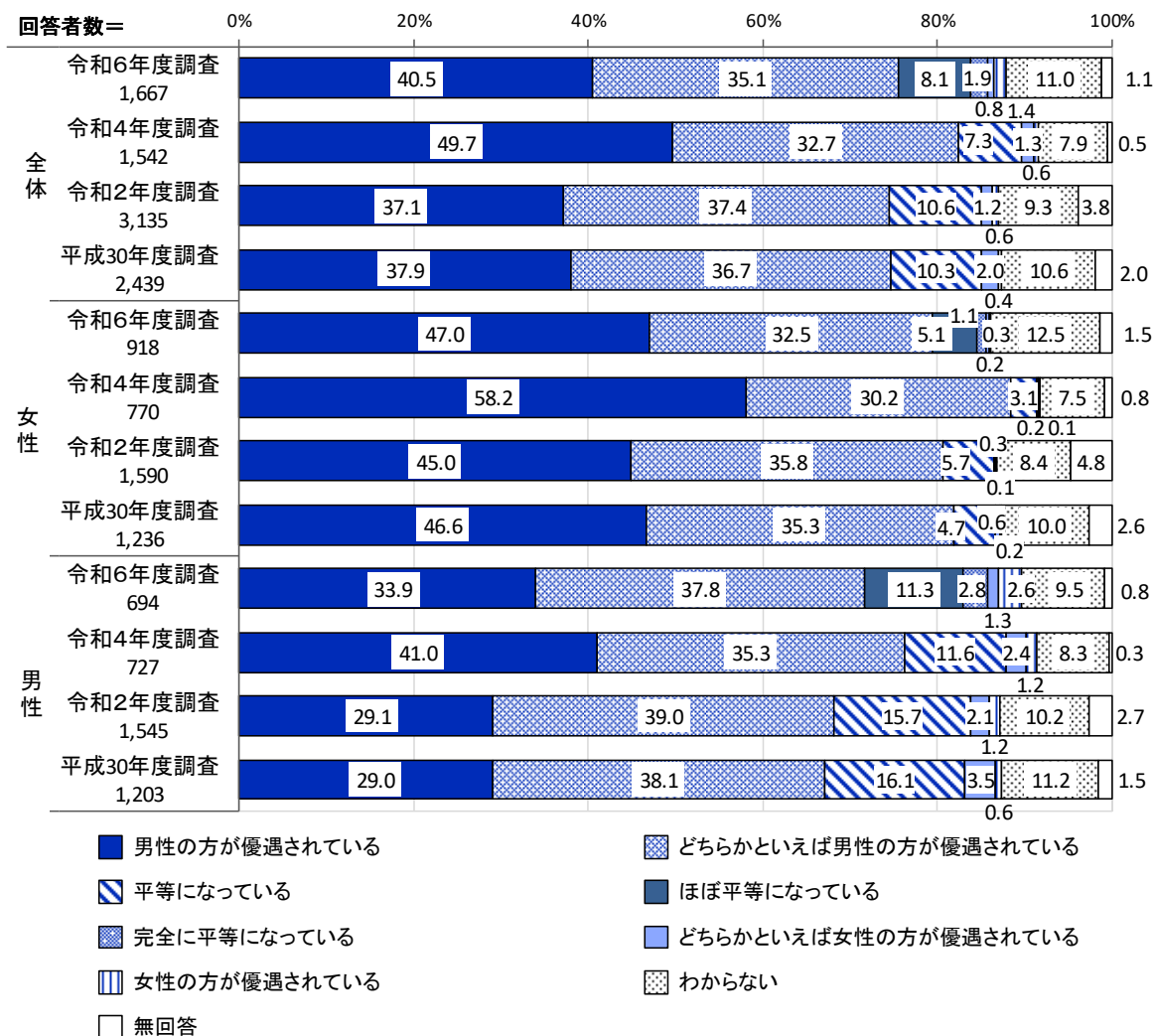
男女の地位の平等感【政治の場】（問1（6））

政治の場における男女の地位の平等感について、男女ともに“男性の方が優遇”が最も多く、女性が79.5%、男性が71.7%となっている。

【性別】



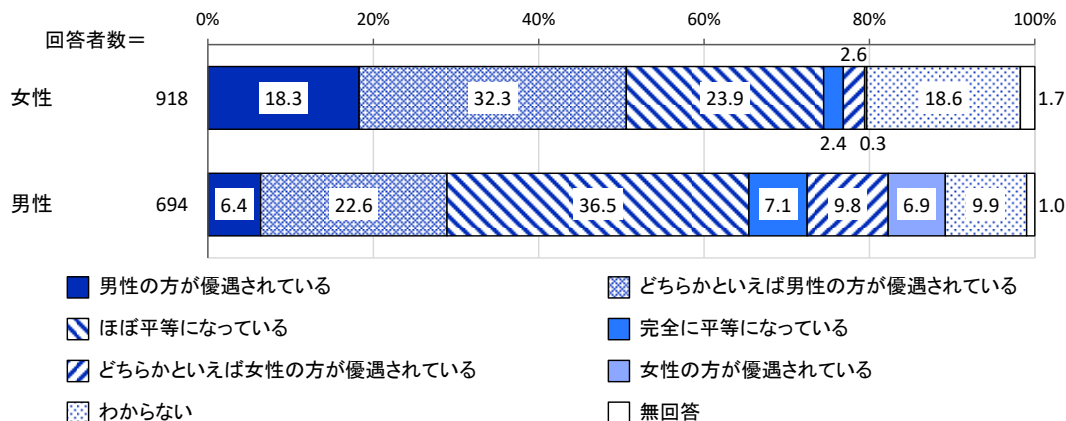
【経年比較／全体・男女別】



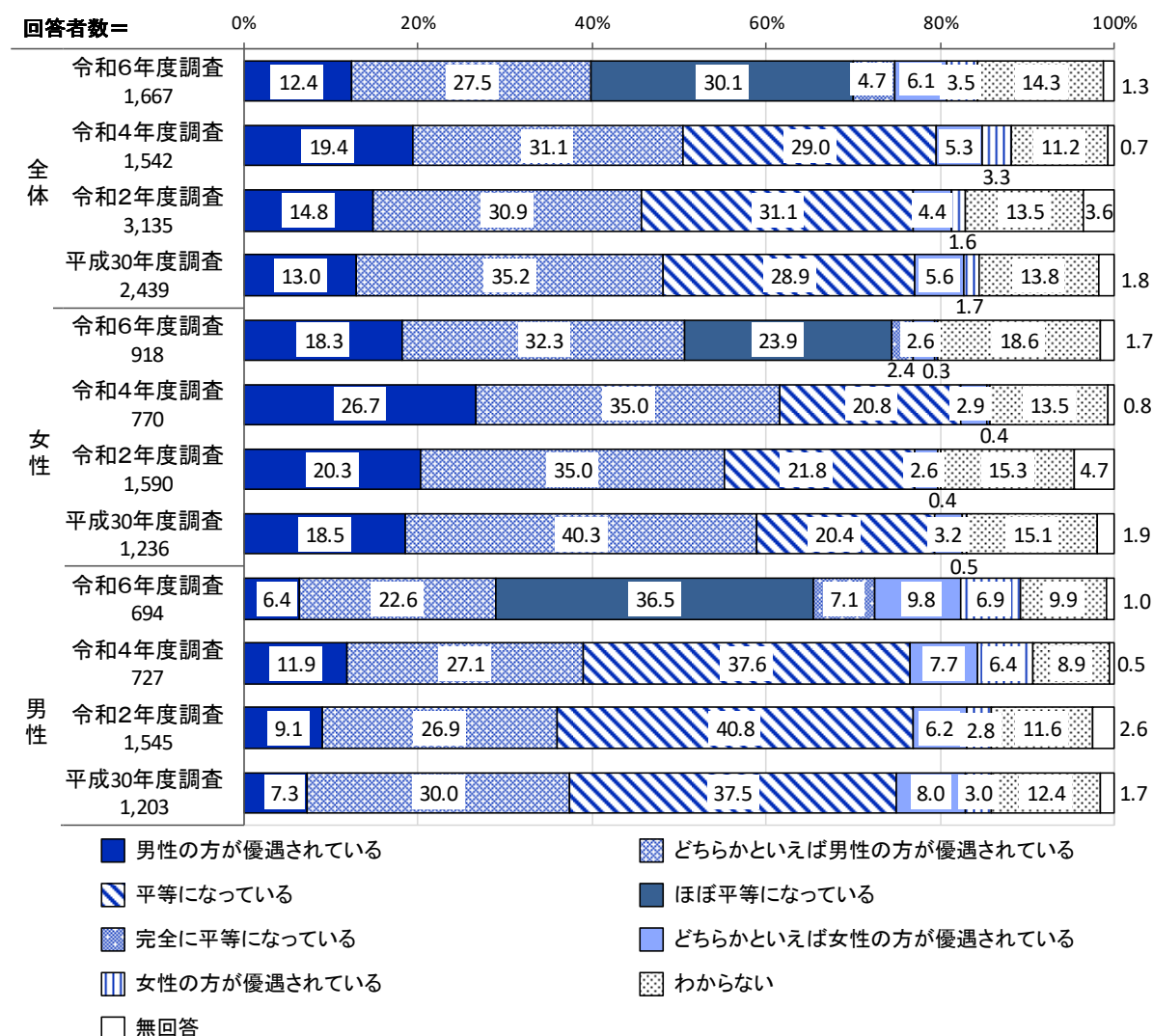
男女の地位の平等感【法律や制度】（問1（7））

法律や制度における男女の地位の平等感について、性別で見ると、女性では“男性の方が優遇”が50.6%と最も多くなっている。男性では“平等”が43.6%と最も多くなっている。

【性別】



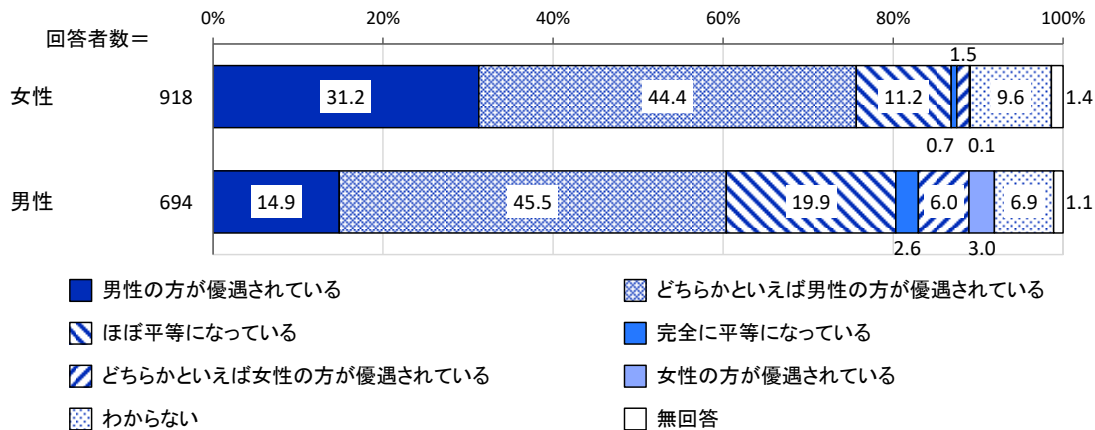
【経年比較／全体・男女別】



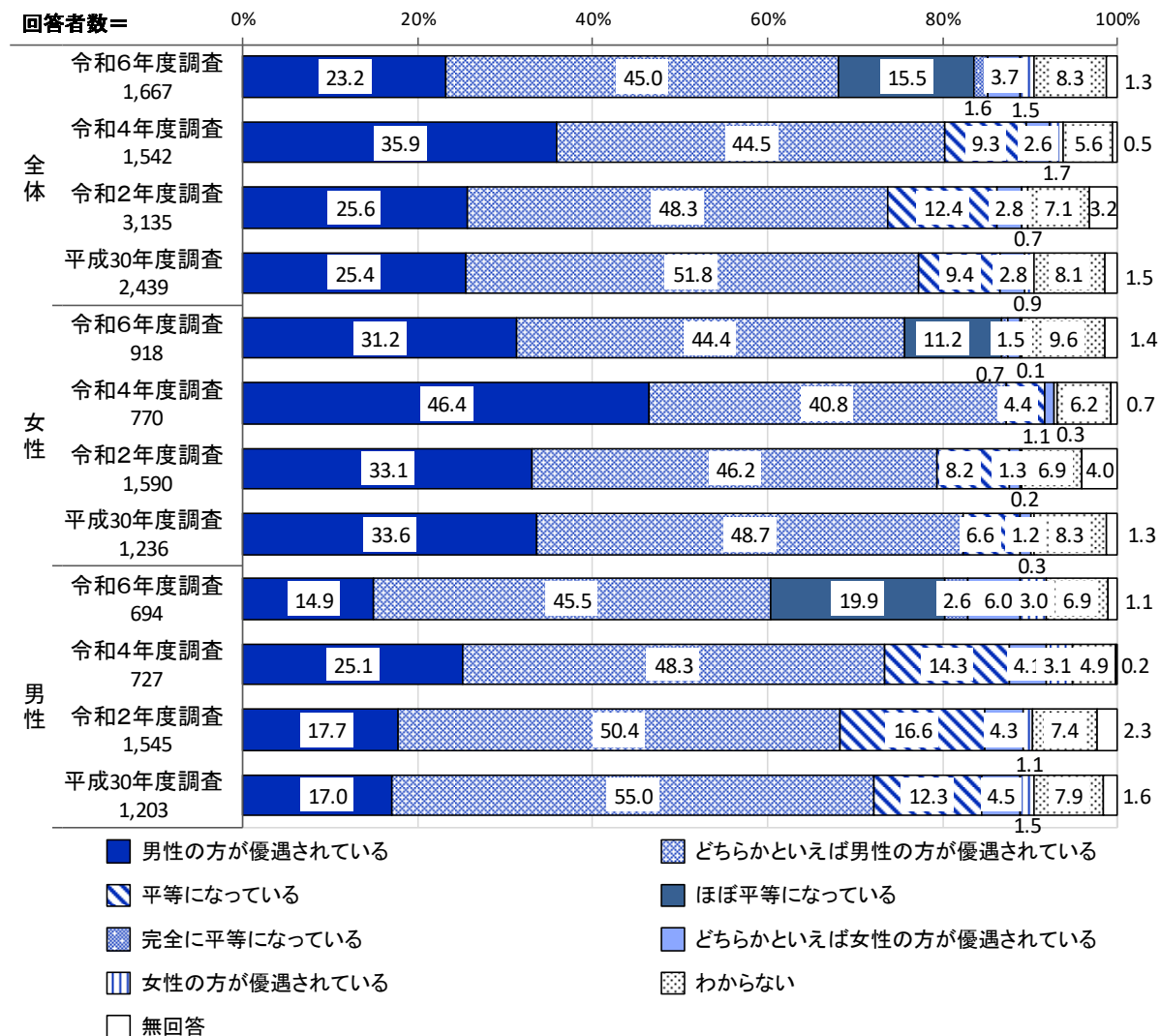
男女の地位の平等感【社会通念・慣習・しきたり】（問1（8））

社会通念・習慣・しきたりにおける男女の地位の平等感について、性別でみると、男女ともに“男性の方が優遇”が最も多く、女性は75.6%、男性は60.4%となっている。

【性別】



【経年比較／全体・男女別】



（２）夫と妻の役割に対する意識

- ・「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方に“反対”と回答した割合は女性が62.4%、男性が55.0%である。
- ・経年でみると、前回調査から“賛成”が約4ポイント増加しており、賛成の理由として「妻が家庭を守った方が、子供の成長などにとって良いと思うから」の割合が7.8ポイント増加している。

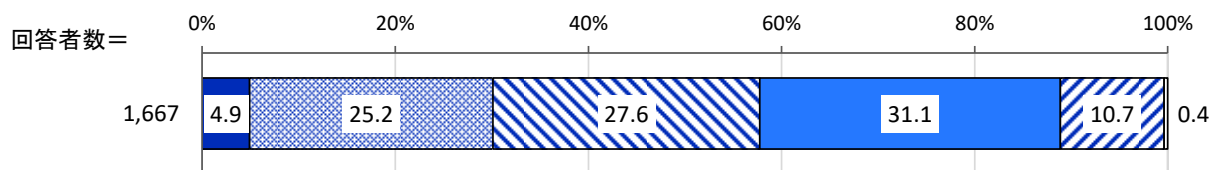
※ 本項目では、以下のとおり表記している。

“反対”：「どちらかといえば反対」と「反対」の合計

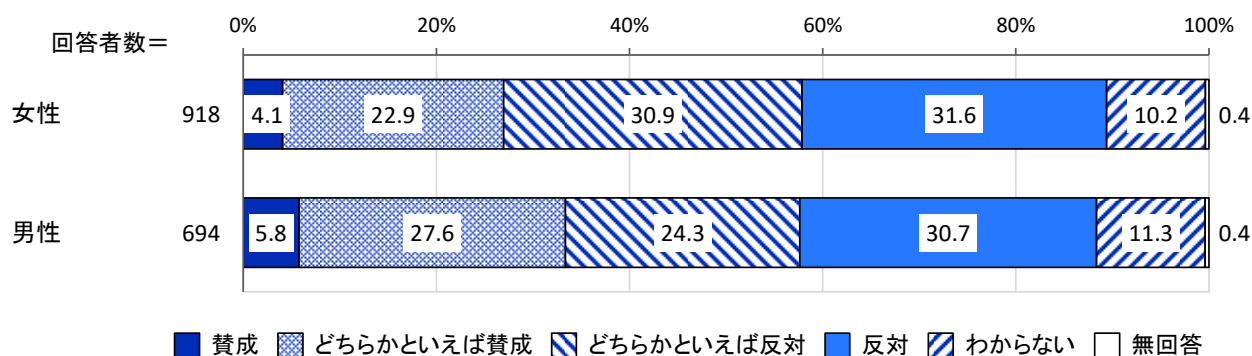
“賛成”：「賛成」と「どちらかといえば賛成」の合計

夫と妻の役割に対する意識【夫は外で働き、妻は家庭を守るべき】（問2）

「夫は外で働き、妻は家庭を守るべき」という考え方に対して、“反対”は58.7%で、“賛成”は30.1%となっている。性別でみると、“賛成”とする割合は、男性（33.4%）が女性（27.0%）を上回っている。



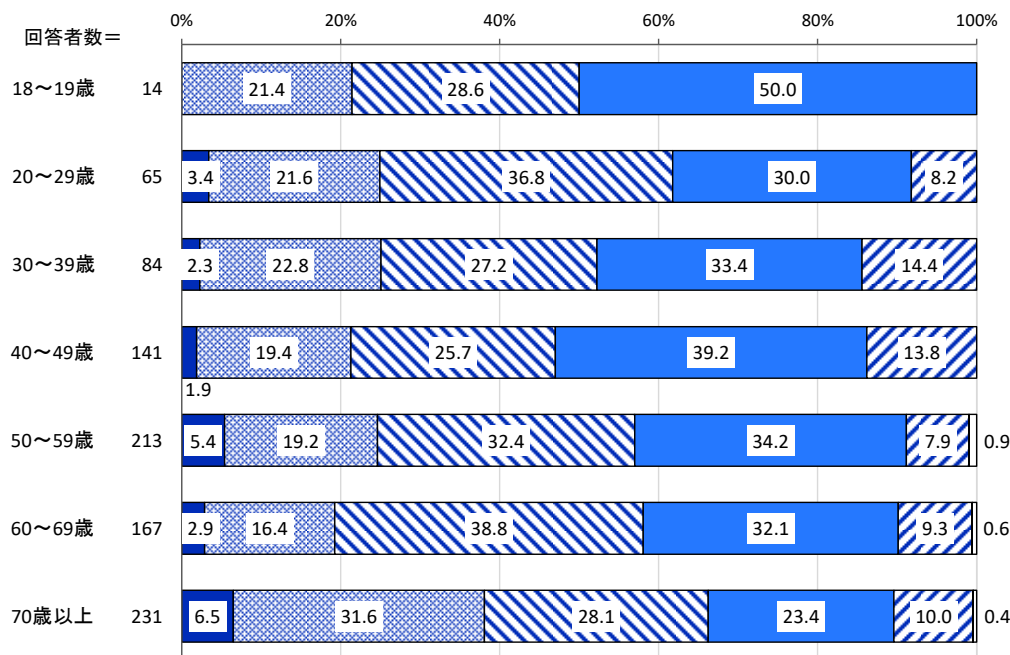
【性別】



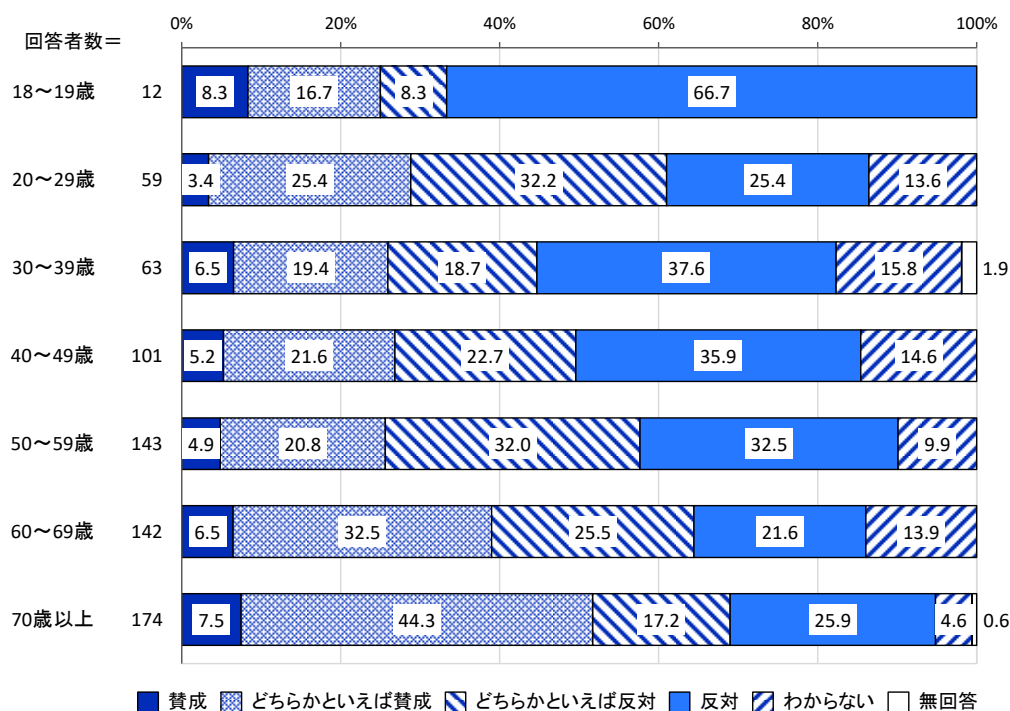
夫と妻の役割に対する意識【夫は外で働き、妻は家庭を守るべき】（問2）性・年齢別

「夫は外で働き、妻は家庭を守るべき」という考え方に対して、性・年齢別でみると、女性では10～60代で“反対”が7割を超えているが、60歳以上の男性及び70歳以上の女性では比較的“賛成”の割合が高くなっており、70歳以上の男性では“賛成”が5割を超えている。

【性・年齢別／女性】



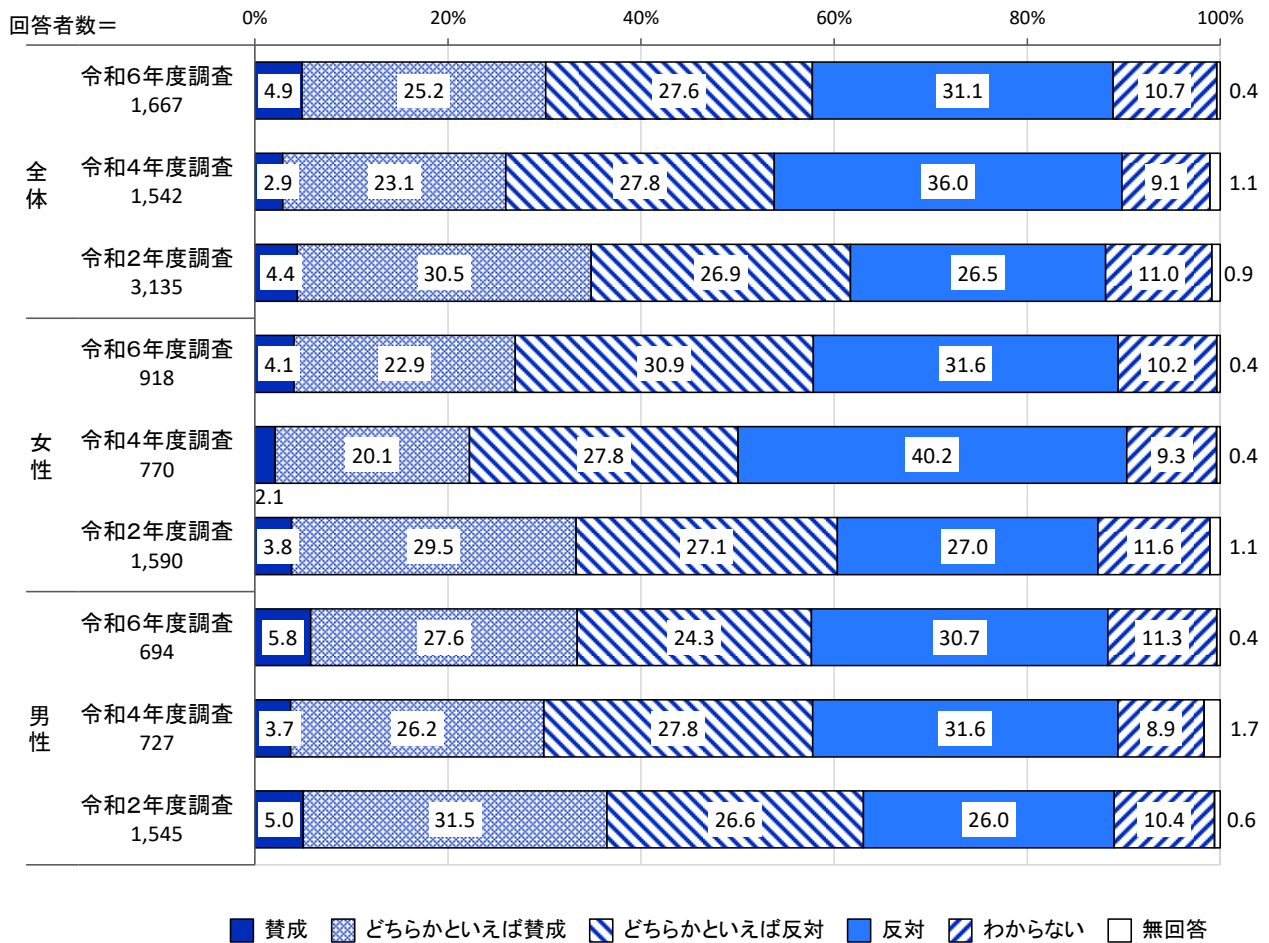
【性・年齢別／男性】



夫と妻の役割に対する意識【夫は外で働き、妻は家庭を守るべき】（問2）経年比較／全体・男女別

「夫は外で働き、妻は家庭を守るべき」という考え方に対して、前回調査と比較すると、“賛成”が約4ポイント増加し、“反対”が約5ポイント減少している。

【経年比較／全体・男女別】



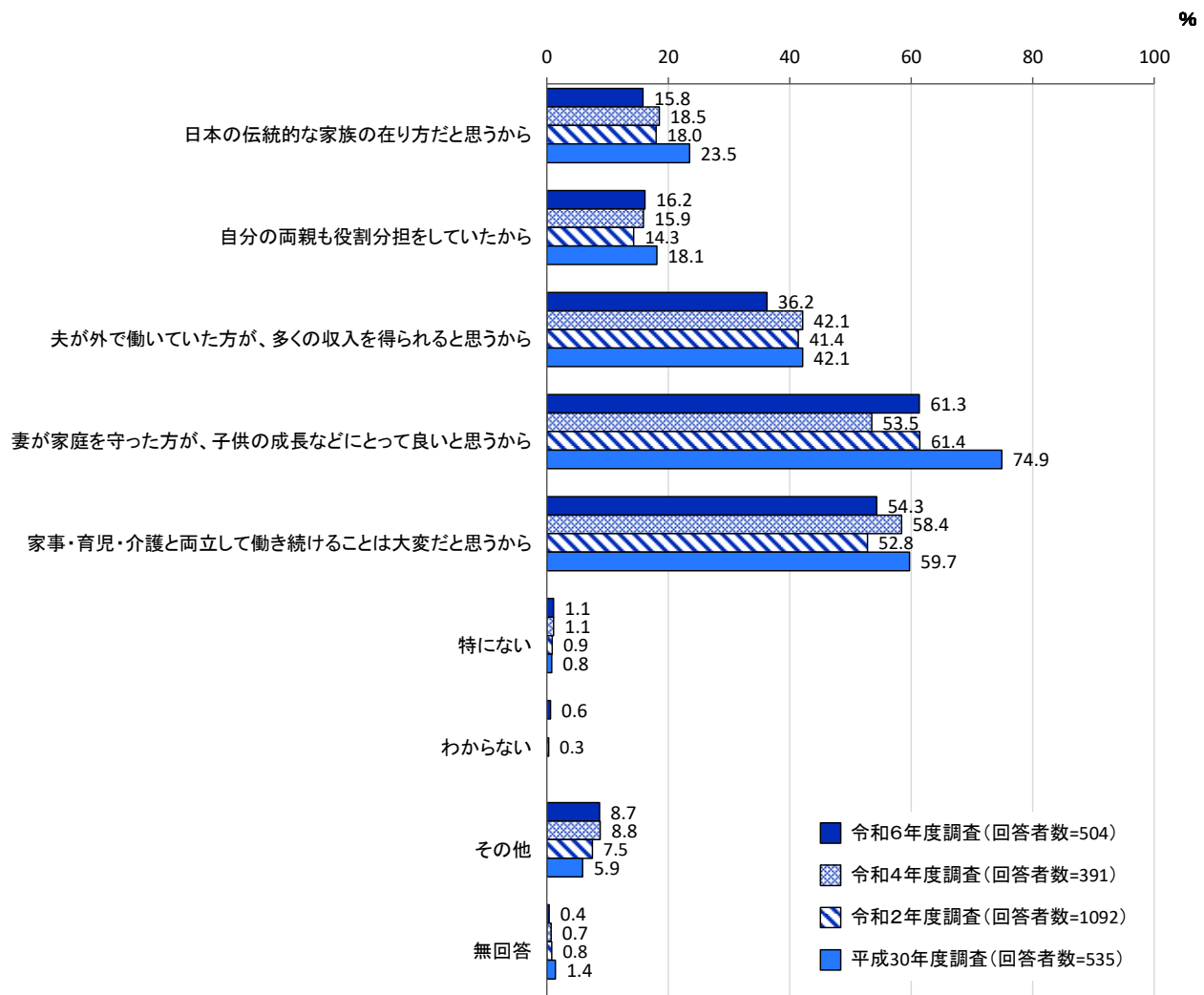
※ 平成30年度調査では「どちらともいえない」の選択肢を設けており、比較ができないため、令和2年度以降の結果を比較している。

「賛成」の理由【夫は外で働き、妻は家庭を守るべき】（複数回答）（問2－1）経年比較／全体

「夫は外で働き、妻は家庭を守るべき」という考え方に“賛成”の理由として、全体では「妻が家庭を守った方が、子供の成長などにとって良いと思うから」が61.3%と最も多く、次いで「家事・育児・介護と両立して働き続けることは大変だと思うから」（54.3%）、「夫が外で働いていた方が、多くの収入を得られると思うから」（36.2%）となっている。

前回の令和4年度調査と比較すると、「妻が家庭を守った方が、子供の成長などにとって良いと思うから」が7.8ポイント増加し、「夫が外で働いていた方が、多くの収入を得られると思うから」は5.9ポイント減少している。

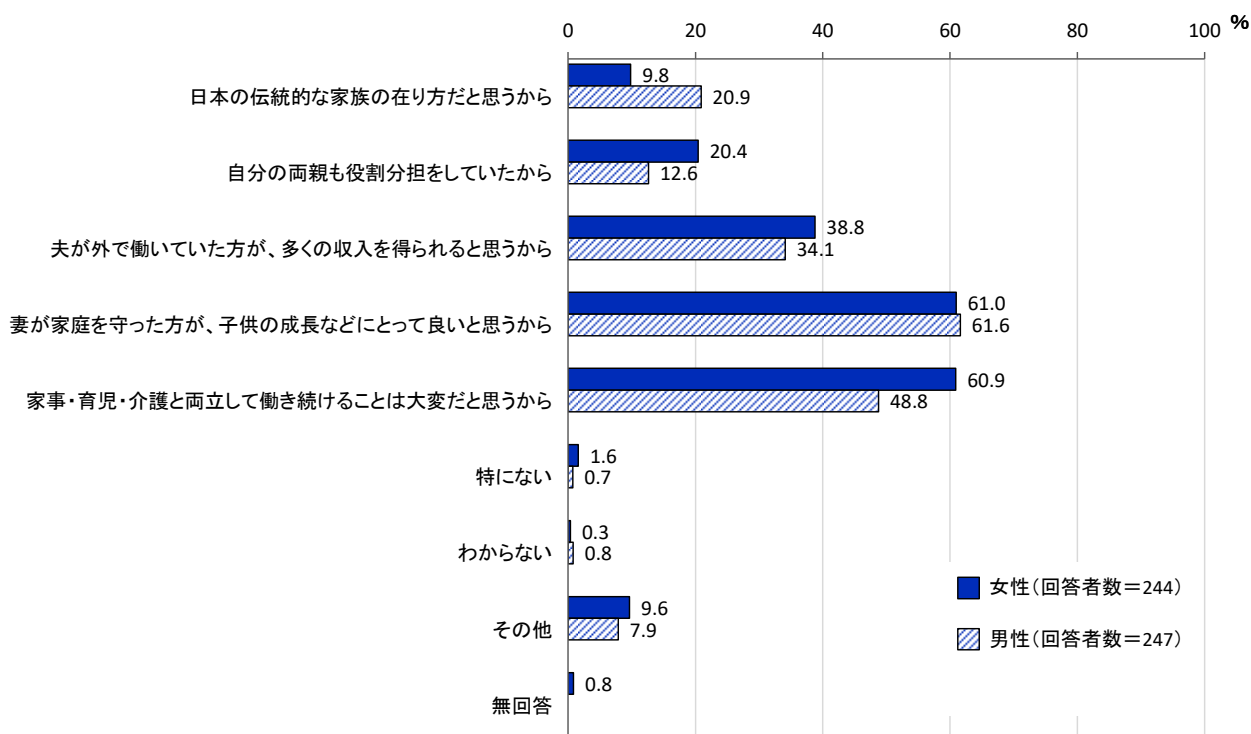
【経年比較／全体】



「賛成」の理由【夫は外で働き、妻は家庭を守るべき】（複数回答）（問2－1）性別

「夫は外で働き、妻は家庭を守るべき」という考え方に“賛成”の理由について、性別でみると、「妻が家庭を守った方が、子供の成長などにとって良いと思うから」が、女性 61.0%、男性 61.6%と最も多くなっている。また、「家事・育児・介護と両立して働き続けることは大変だと思うから」は、女性（60.9%）が男性（48.8%）を 12.1 ポイント上回っている。

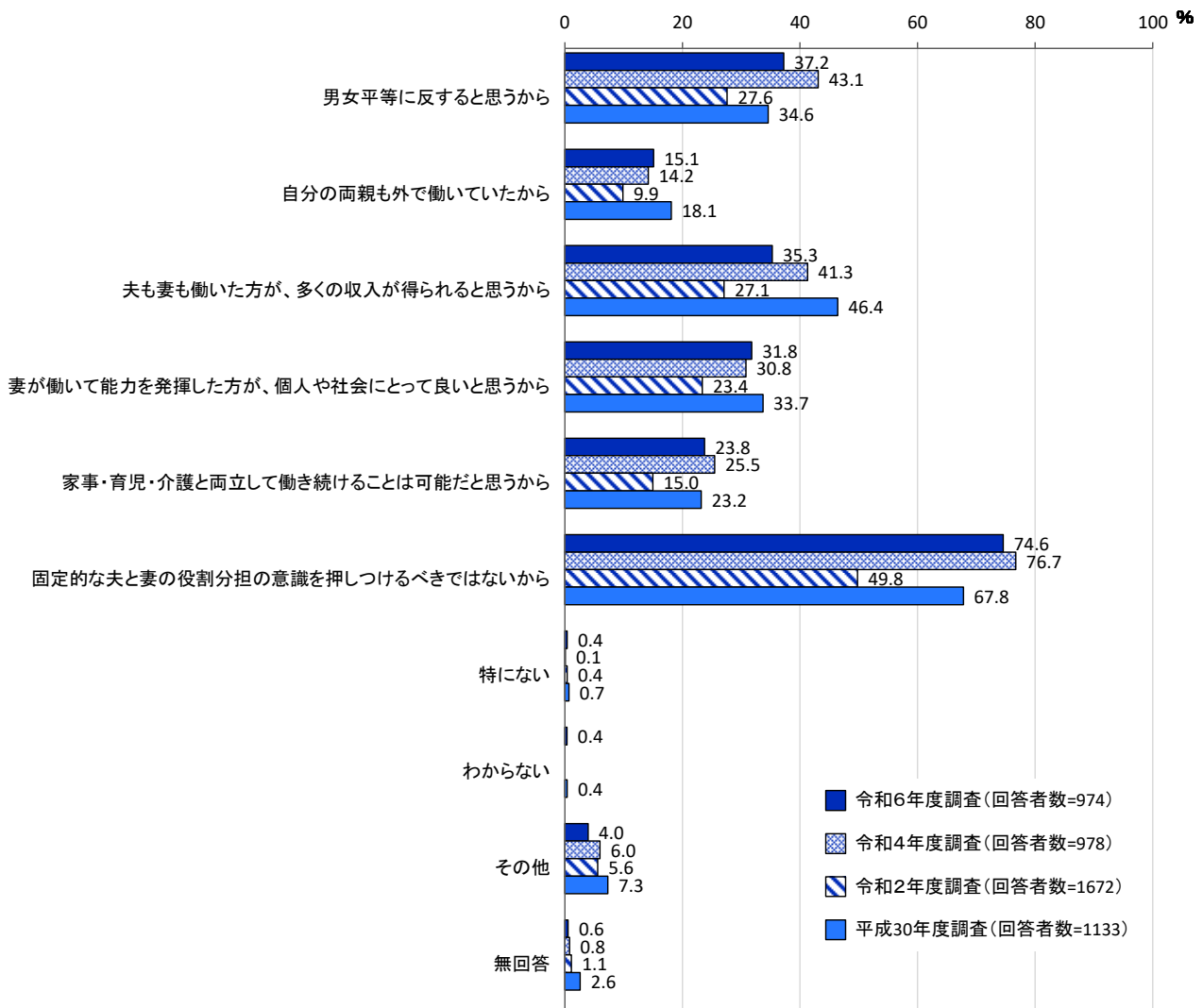
【性別】



「反対」の理由【夫は外で働き、妻は家庭を守るべき】（複数回答）（問2－2）経年比較／全体

「夫は外で働き、妻は家庭を守るべき」という考え方に“反対”の理由として、全体では「固定的な夫と妻の役割分担の意識を押しつけるべきではないから」が74.6%と最も多く、次いで「男女平等に反すると思うから」（37.2%）、「夫も妻も働いた方が、多くの収入が得られると思うから」（35.3%）となっている。

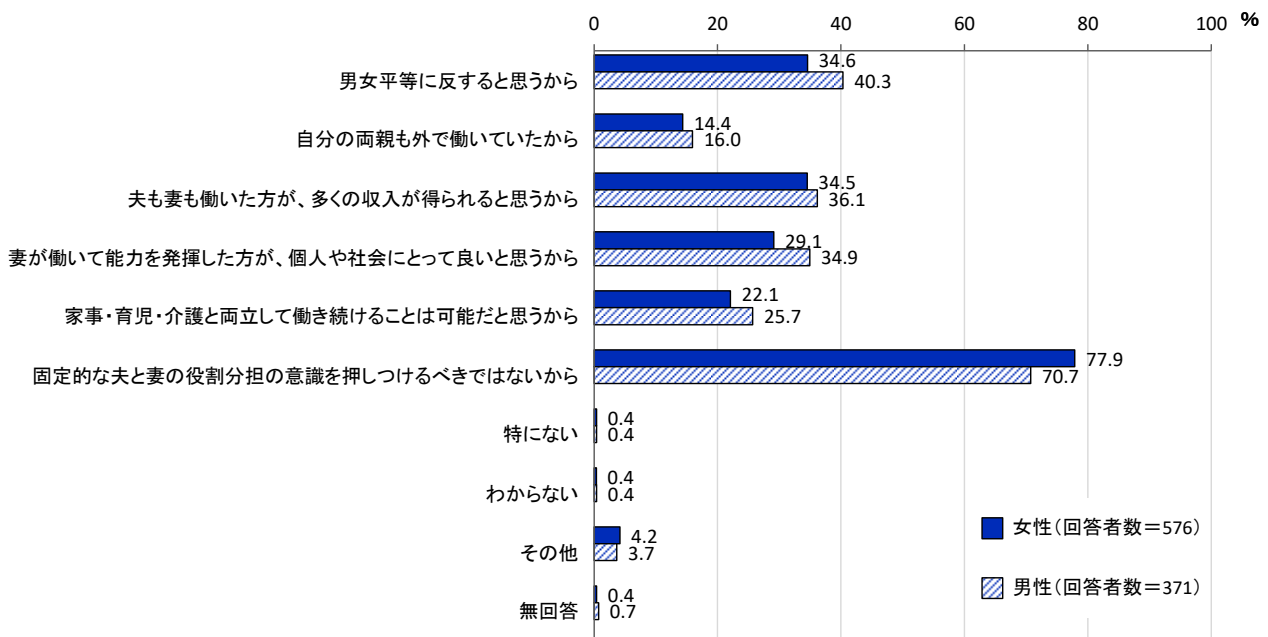
【経年比較／全体】



“反対”の理由【夫は外で働き、妻は家庭を守るべき】（複数回答）（問２－２）性別

「夫は外で働き、妻は家庭を守るべき」という考え方に“反対”の理由として、性別でみると、「固定的な夫と妻の役割分担の意識を押しつけるべきではないから」では女性（77.9%）が男性（70.7%）を 7.2 ポイント上回っている。一方、「妻が働いて能力を発揮した方が、個人や社会にとって良いと思うから」では男性（34.9%）が女性（29.1%）を 5.8 ポイント上回り、「男女平等に反すると思うから」では男性（40.3%）が女性（34.6%）を 5.7 ポイント上回っている。

【性別】



（３）日常生活における男女の役割期待の有無、その場面、内容及び不都合さ等の有無

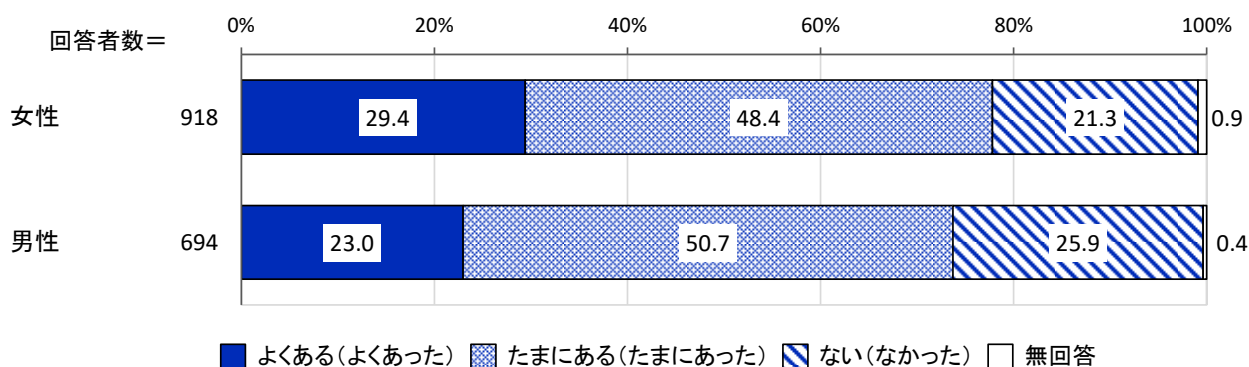
- ・日常生活において「女/男らしさ」などを言われたり期待されたりした経験が“ある”と回答した割合は、男女とも７割を超えている。
- ・言われたり期待されたりした場は、「家庭」「職場」「親族関係」が多く、その内容は、女性では「行動の仕方」「家事・育児・介護」、男性では「行動の仕方」「働き方や仕事内容」が多くなっている。
- ・「女/男らしさ」などを言われたり期待されたりすることに対して、女性の 62.8%、男性の 40.5% が不都合さや不快感、生きづらさを“感じる”と回答している。
また、女性の 55.5%、男性の 45.9% が「その後の生き方に影響した」と回答している。

※ 本項目では、以下のとおり表記している。
 “ある” : 「よくある」と「たまにある」の合計
 “感じる” : 「感じる」と「たまに感じる」の合計
 “影響した” : 「影響した」と「少し影響した」の合計

日常生活における男女の役割期待の有無（問３）性別

日常生活で「女/男らしさ」などを言われたり期待されたりした経験が“ある”（「よくある」と「たまにある」の合計）と回答した割合は、女性が 77.8%、男性が 73.7% となっている。

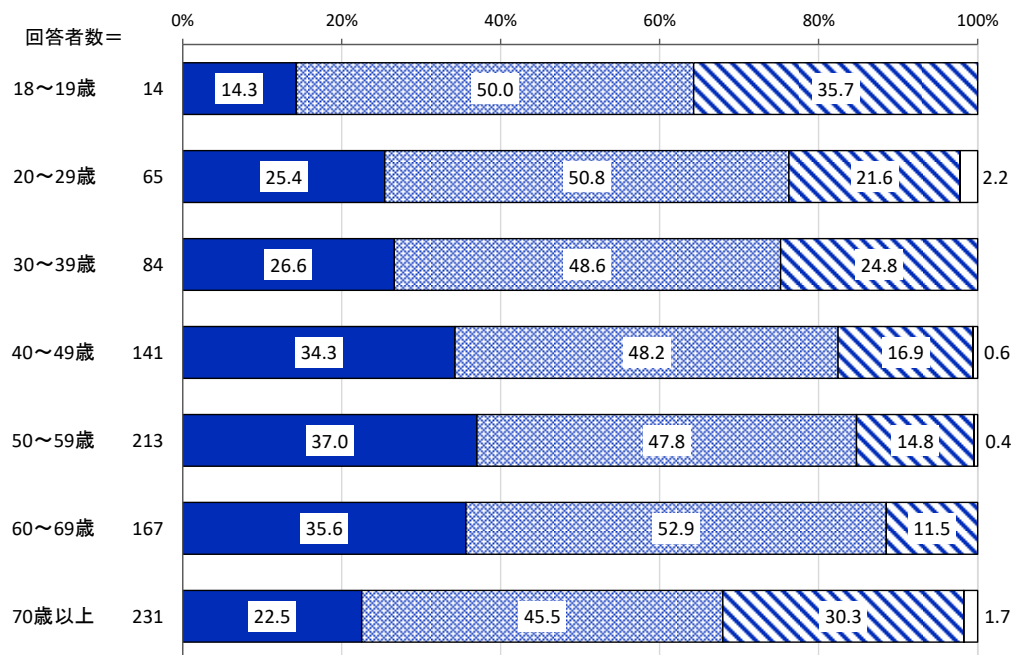
【性別】



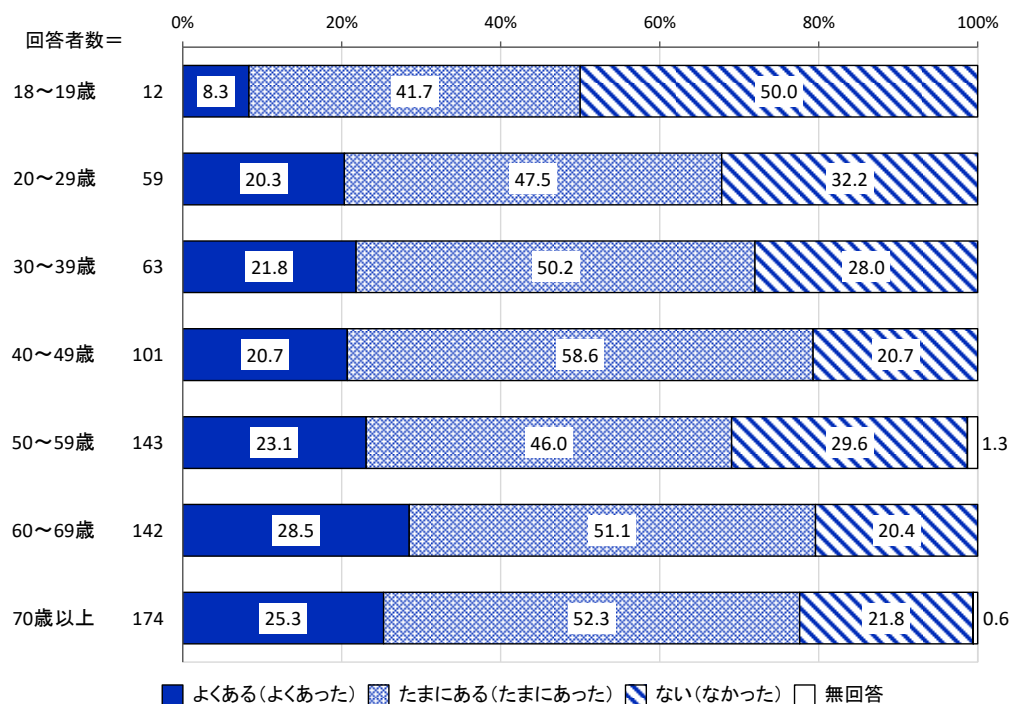
日常生活における男女の役割期待の有無（問3）性・年齢別

日常生活で「女/男らしさ」などを言われたり期待されたりした経験の有無について、性・年齢別でみると、男性の10代を除く全ての性・年代で“ある”と回答した人が多く、特に40～60代の女性では、8割以上が“ある”と回答している。

【性・年齢別／女性】



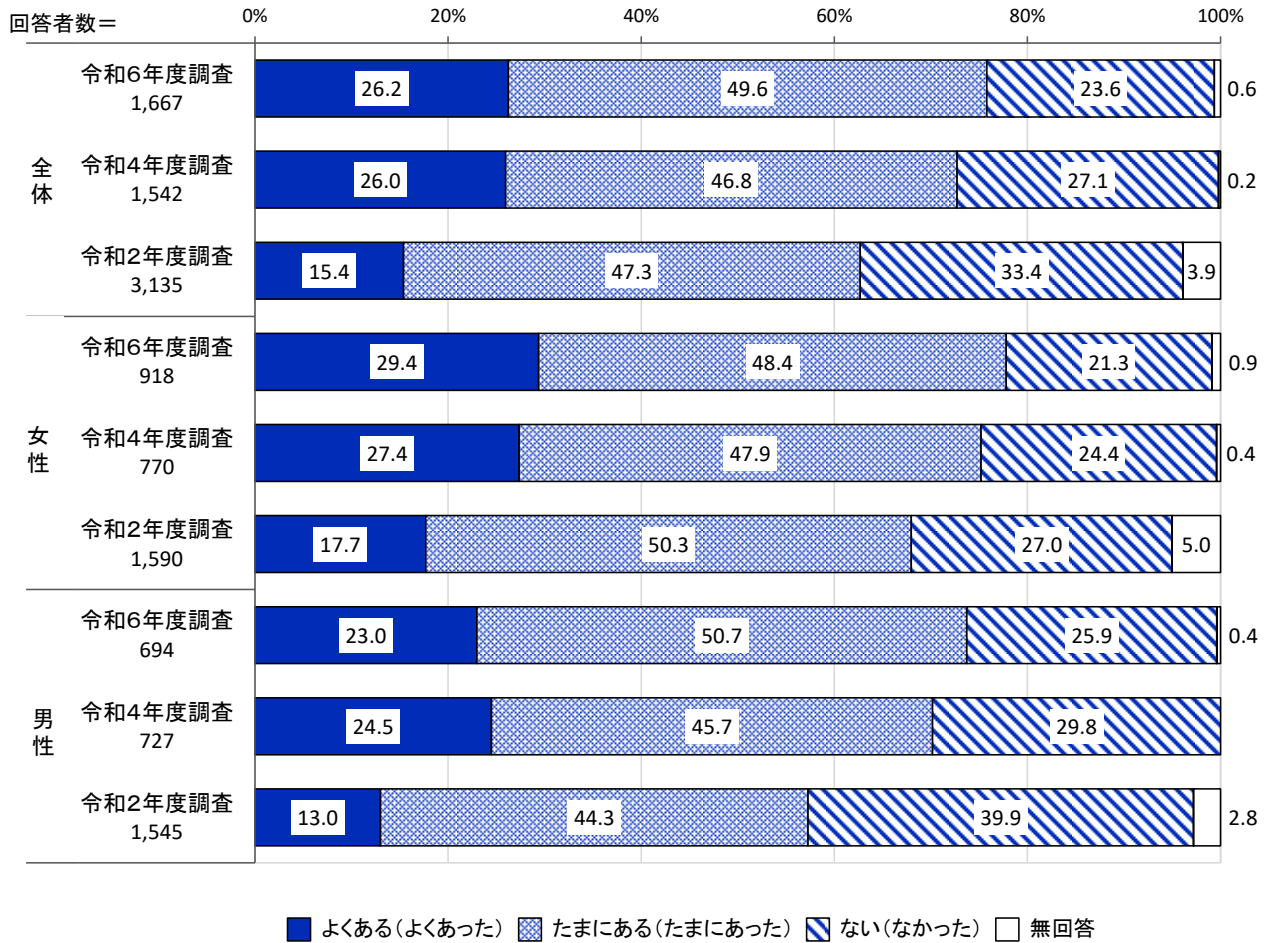
【性・年齢別／男性】



日常生活における男女の役割期待の有無（問3）経年比較／全体・男女別

日常生活で「女/男らしさ」などを言われたり期待されたりした経験の有無について、令和4年度調査と比較すると、全体では“ある”と回答した割合が3.0ポイント増加している。性別で見ると、“ある”が、女性で2.5ポイント、男性で3.5ポイント増加している。

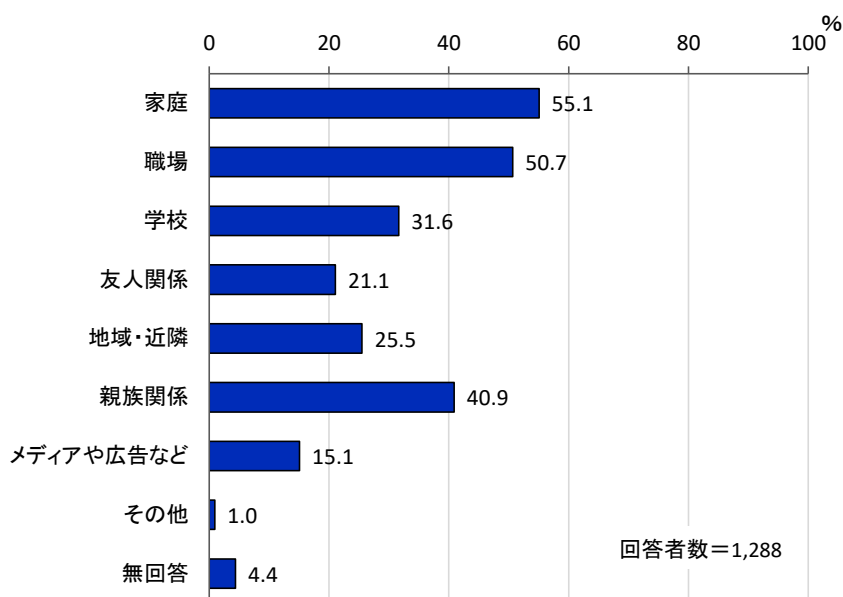
【経年比較／全体・男女別】



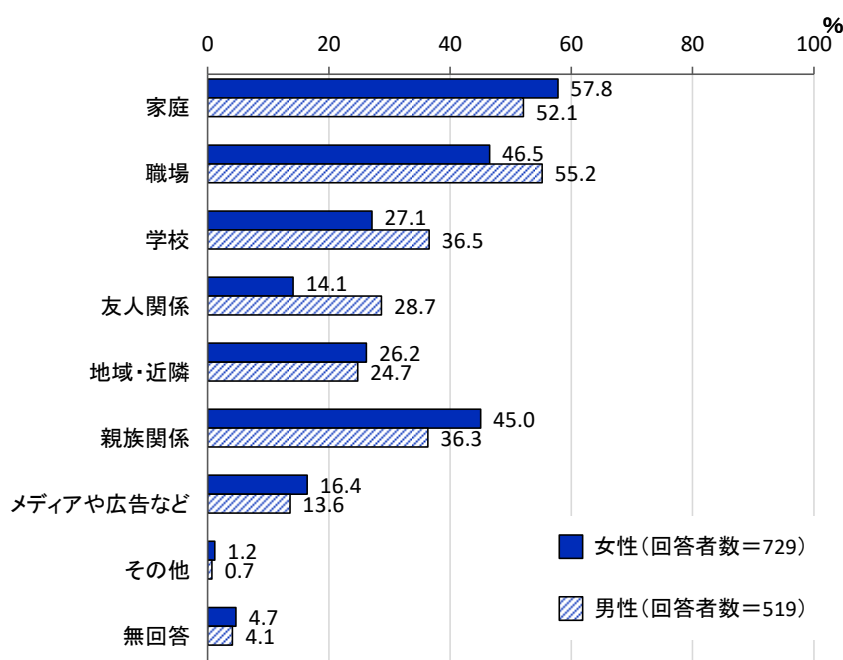
「女/男らしさ」などを言われた場(複数回答)(問3-1)

日常生活で「女/男らしさ」などを言われた場について、全体では「家庭」が55.1%と最も多く、次いで「職場」(50.7%)、「親族関係」(40.9%)となっている。

性別で見ると、「親族関係」では女性(45.0%)が男性(36.3%)を8.7ポイント上回っている。また、「職場」では男性(55.2%)が女性(46.5%)を8.7ポイント上回り、「友人関係」では男性(28.7%)が女性(14.1%)を14.6ポイント上回っている。



【性別】

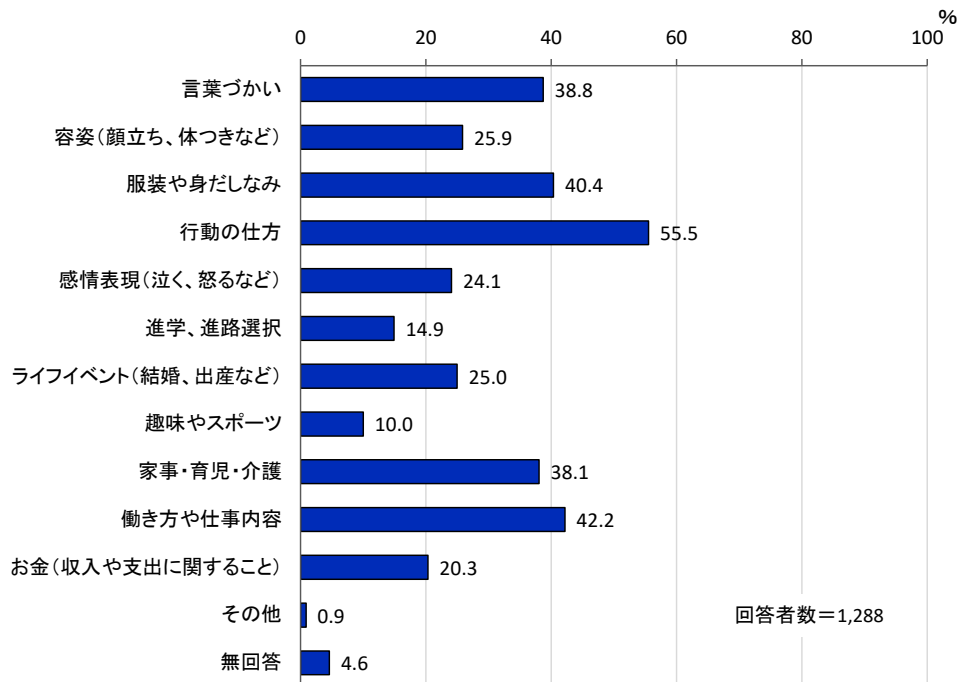


「女/男らしさ」などを言われた内容(複数回答)(問3-2)

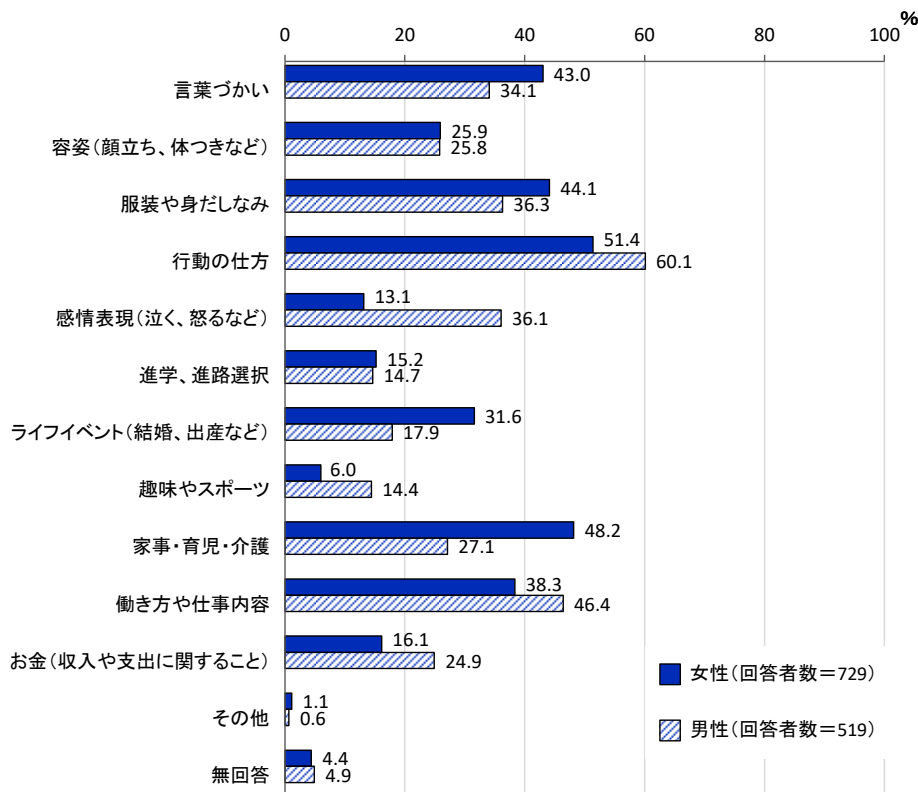
日常生活で「女/男らしさ」などを言われた内容について、全体では「行動の仕方」が55.5%と最も多く、次いで「働き方や仕事内容」(42.2%)、「服装や身だしなみ」(40.4%)となっている。

性別でみると「家事・育児・介護」、女性が48.2%、男性が27.1%、「ライフイベント(結婚、出産など)」では女性が31.6%、男性が17.9%と、いずれも女性が男性を大きく上回っている。

一方、「感情表現(泣く、怒るなど)」では男性(36.1%)が女性(13.1%)を大きく上回っている。

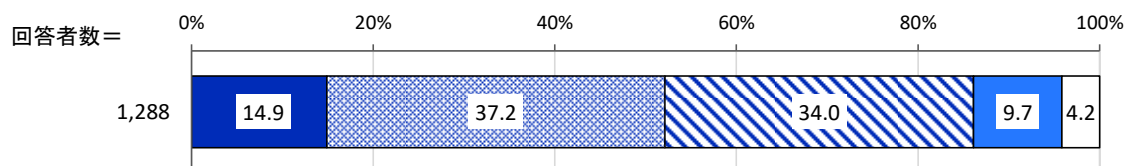


【性別】

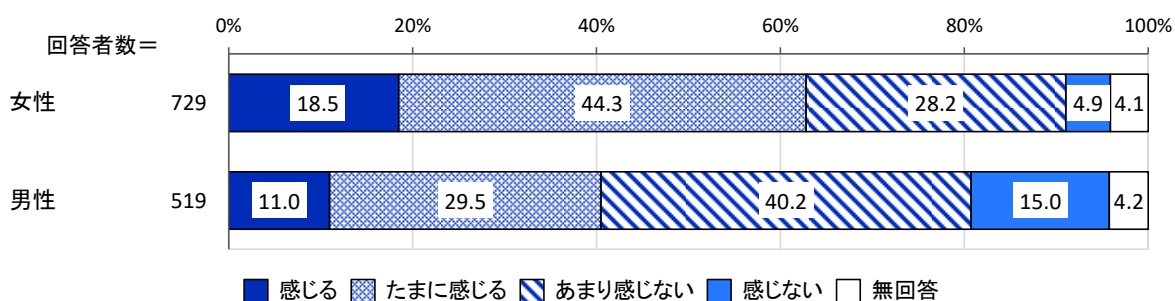


不都合さや不快感、生きづらさを感じるか(問3-3)

日常生活で「女/男らしさ」などと言われることに対する不都合さや不快感について、全体では“感じる”（「感じる」と「たまに感じる」の合計）が52.1%、“感じない”（「あまり感じない」と「感じない」の合計）が43.7%となっている。性別でみると、女性の62.8%、男性の40.5%が“感じる”としている。



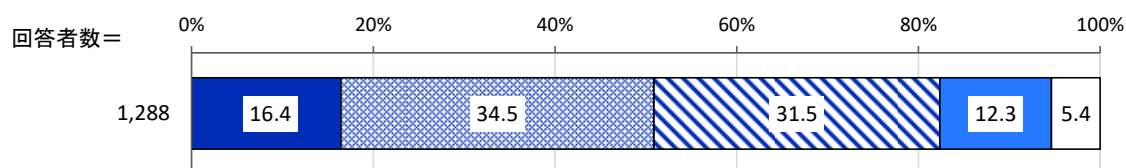
【性別】



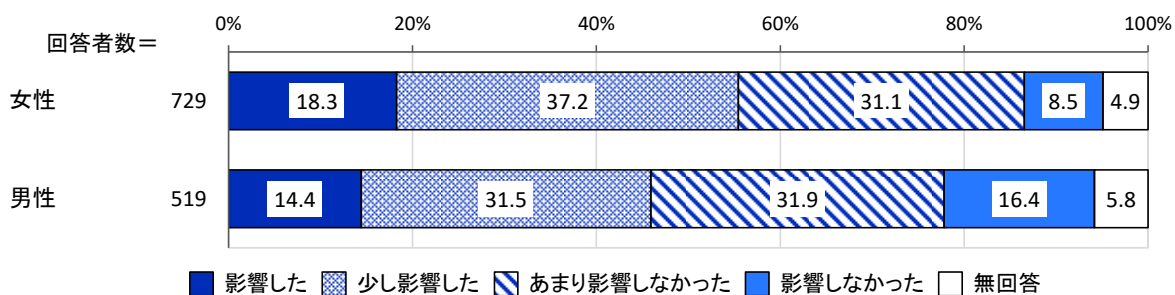
生き方への影響(問3-4)

子ども時代に「女の子/男の子らしく」などと言われたことによるその後の生き方への影響について、全体では“影響した”（「影響した」と「少し影響した」の合計）が50.9%となっている。

性別でみると“影響した”と回答した割合は、女性（55.5%）が男性（45.9%）を9.6ポイント上回っている。



【性別】



Ⅱ 家庭生活・仕事における 男女共同参画について

(4) 家事、育児、介護などの分担の実際と理想

- ・平日・共働き世帯の「家事・育児・介護」の時間は、夫が2時間26分、妻が5時間25分であり、妻のほう約3時間長くなっている。
- ・「家事・育児・介護」について、「あなたと配偶者等が同じ割合」で分担するのが理想と回答した割合は、男女ともに約5割で最も多い。
- ・一方で、実際の分担割合として最も回答が多かったのは、女性は「自分が8～9割」(39.0%)、男性は「自分が1～2割」(40.2%)である。

生活の中で各活動に費やしている時間【仕事や学校のある日】(問4)

仕事や学校のある日で、1日のうち各活動に費やしている時間について、女性は男性よりも「家事・育児・介護」に費やす時間が約3時間長くなっている。一方、男性は女性よりも「仕事・学校」に費やす時間が約2時間半長くなっている。

【性別、性・年齢別】

			回答数	①仕事・学校 (通勤・通学時間を含む)	②家事・育児・介護	③その他 (個人の時間、睡眠時間等)
全体			(n=1,667)	7時間54分	3時間59分	12時間7分
性別	女性		(n=918)	6時間51分	5時間24分	11時間45分
	男性		(n=694)	9時間13分	2時間13分	12時間35分
性・年齢別	女性	18～19歳	(n=14)	10時間32分	2時間54分	10時間35分
		20～29歳	(n=65)	9時間15分	2時間40分	12時間5分分
		30～39歳	(n=84)	7時間49分	6時間34分	9時間37分
		40～49歳	(n=141)	7時間53分	5時間58分	10時間10分
		50～59歳	(n=213)	8時間13分	5時間7分	10時間40分
		60～69歳	(n=167)	6時間24分	5時間42分	11時間55分
		70歳以上	(n=231)	2時間31分	5時間45分	15時間43分
	男性	18～19歳	(n=12)	9時間42分	23分	13時間55分
		20～29歳	(n=59)	9時間44分	1時間44分	12時間33分
		30～39歳	(n=63)	10時間38分	2時間35分	10時間47分
		40～49歳	(n=101)	11時間18分	2時間29分	10時間13分
		50～59歳	(n=143)	11時間4分分	1時間56分	10時間60分
		60～69歳	(n=142)	8時間43分	2時間23分	12時間24分
		70歳以上	(n=174)	4時間35分	2時間22分	17時間4分

生活の中で各活動に費やしている時間【休みの日・仕事や学校のない日】（問4）

休みの日・仕事や学校のない日において、女性は男性よりも「家事・育児・介護」に費やす時間が約3時間半長くなっている。

【性別、性・年齢別】

			回答数	②家事・育児・介護	③その他 （個人の時間、 睡眠時間等）
全体			(n=1,667)	6時間4分	17時間56分
性別	女性		(n=918)	7時間35分	16時間25分
	男性		(n=694)	4時間11分	19時間49分
性・年齢別	女性	18～19歳	(n=14)	2時間54分	21時間6分
		20～29歳	(n=65)	3時間41分	20時間19分
		30～39歳	(n=84)	9時間50分	14時間10分
		40～49歳	(n=141)	9時間13分	14時間47分
		50～59歳	(n=213)	7時間43分	16時間17分
		60～69歳	(n=167)	7時間41分	16時間19分
		70歳以上	(n=231)	6時間37分	17時間23分
	男性	18～19歳	(n=12)	33分	23時間26分
		20～29歳	(n=59)	2時間40分	21時間20分
		30～39歳	(n=63)	5時間53分	18時間7分
		40～49歳	(n=101)	5時間1分	18時間59分
		50～59歳	(n=143)	4時間17分	19時間43分
		60～69歳	(n=142)	4時間20分	19時間41分
		70歳以上	(n=174)	3時間23分	20時間37分

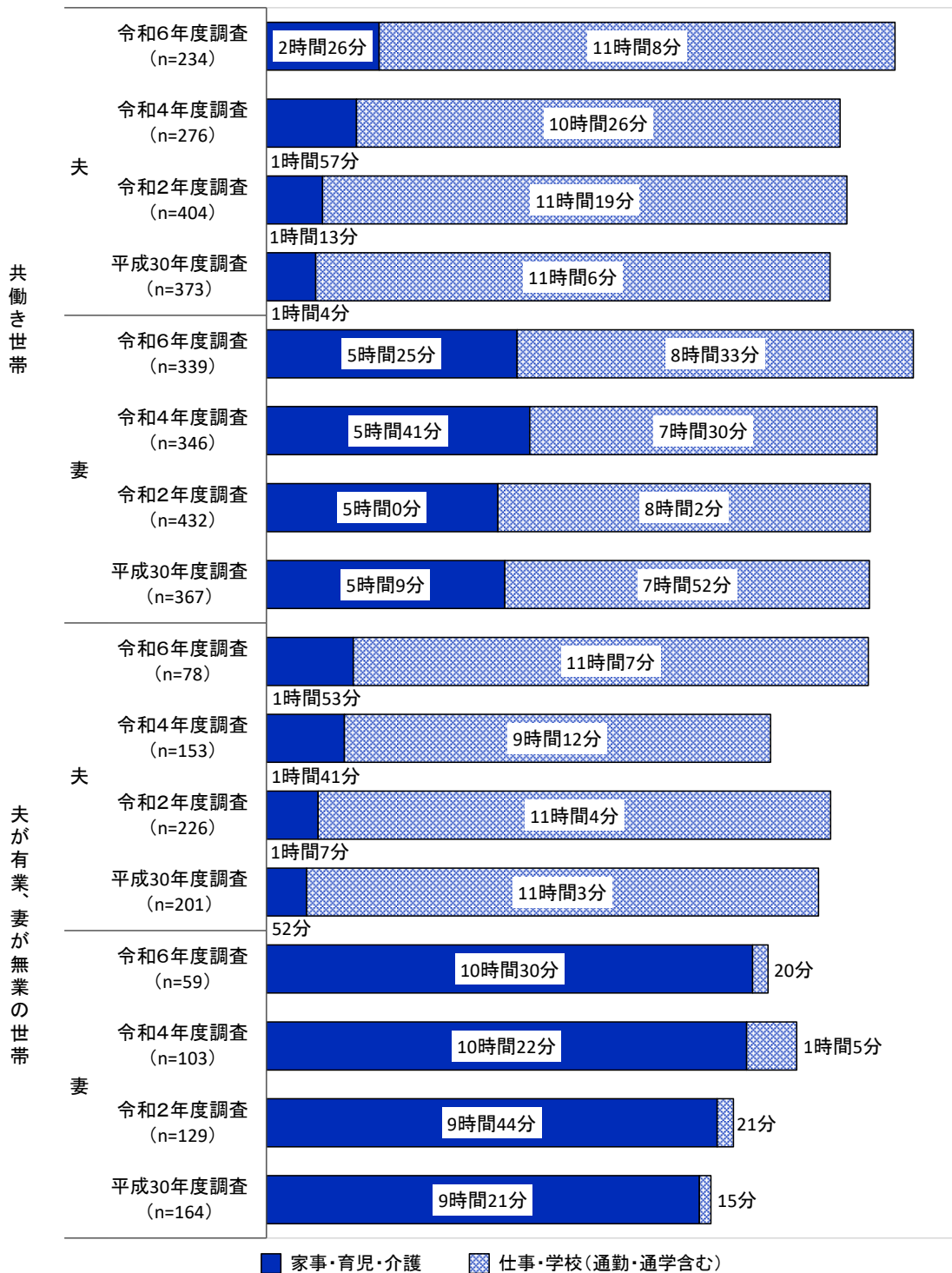
生活の中で各活動に費やしている時間【仕事や学校のある日】（問4）

仕事や学校のある日において、世帯類型別でみると、妻・夫の有業・無業にかかわらず、全世帯で、「家事・育児・介護」の時間は夫より妻の方が長くなっている。

共働き世帯の「家事・育児・介護」の時間は、夫が2時間26分、妻が5時間25分であり、妻の方が2時間59分長くなっている。

令和4年度調査との比較では、共働き世帯で「家事・育児・介護」の時間は、夫は29分長く、妻は16分短くなっている。

【世帯類型別／経年比較】



※「フルタイム共働き世帯」は「共働き世帯」のうち、夫婦ともにフルタイムでの共働きを対象にしている。
 ※「フルタイム共働き世帯」は今回新たに追加した分類のため、経年比較はしていない。

※「妻が有業、夫が無業」「共に無職」はサンプル数が少ないため、表のみの表記とした。

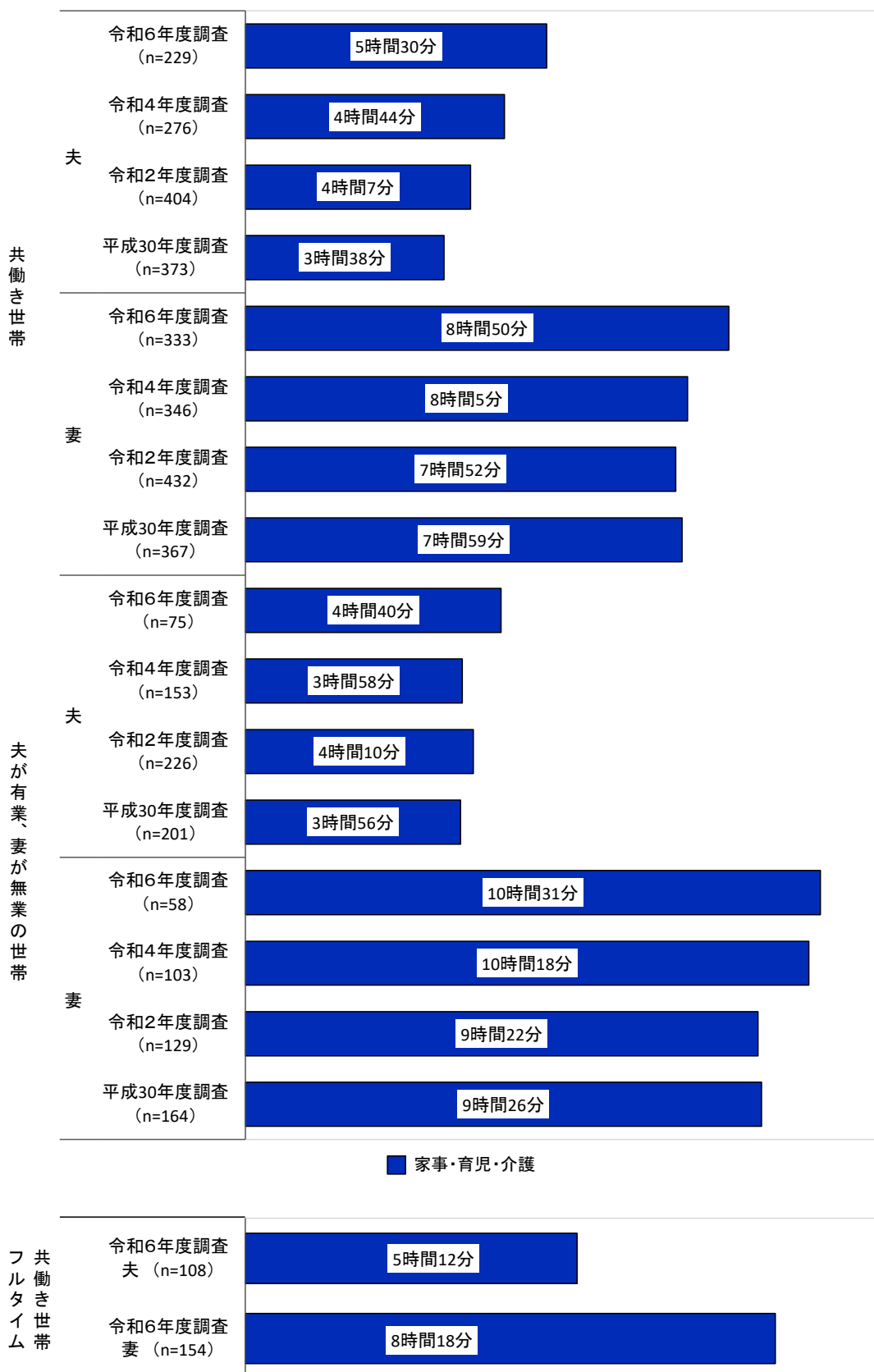
				家事・育児・介護	仕事・学校(通勤・通学含む)
妻が有業、夫が無業	夫	令和6年度調査	令和6年度調査(n=15)	2時間0分	5時間13分
		令和4年度調査	令和4年度調査(n=19)	2時間17分	2時間3分
		令和2年度調査	令和2年度調査(n=12)	1時間55分	50分
		平成30年度調査	平成30年度調査(n=4)	2時間11分	50分
	妻	令和6年度調査	令和6年度調査(n=35)	5時間23分	7時間5分
		令和4年度調査	令和4年度調査(n=25)	4時間48分	5時間49分
		令和2年度調査	令和2年度調査(n=36)	4時間41分	7時間1分
		平成30年度調査	平成30年度調査(n=21)	3時間9分	7時間14分
共に無職	夫	令和6年度調査	令和6年度調査(n=60)	2時間23分	2時間3分
		令和4年度調査	令和4年度調査(n=68)	2時間36分	57分
		令和2年度調査	令和2年度調査(n=59)	1時間33分	37分
		平成30年度調査	平成30年度調査(n=37)	2時間23分	16分
	妻	令和6年度調査	令和6年度調査(n=62)	7時間29分	37分
		令和4年度調査	令和4年度調査(n=46)	5時間12分	20分
		令和2年度調査	令和2年度調査(n=86)	6時間14分	13分
		平成30年度調査	平成30年度調査(n=23)	6時間17分	2分

生活の中で各活動に費やしている時間【休みの日・仕事や学校のない日】(問4)

休みの日・仕事や学校のない日において、世帯類型別でみると、妻・夫の有業・無業にかかわらず、全世帯において、夫より妻の「家事・育児・介護」の時間が長くなっている。

共働き世帯の「家事・育児・介護」の時間は、夫が5時間30分、妻が8時間50分で、妻のほうが3時間20分長くなっている。令和4年度調査との比較では、共働き世帯で妻、夫ともに「家事・育児・介護」に費やす時間が長くなっている。

【世帯類型別／経年比較】



※「フルタイム共働き世帯」は「共働き世帯」のうち、夫婦ともにフルタイムでの共働きを対象にしている。

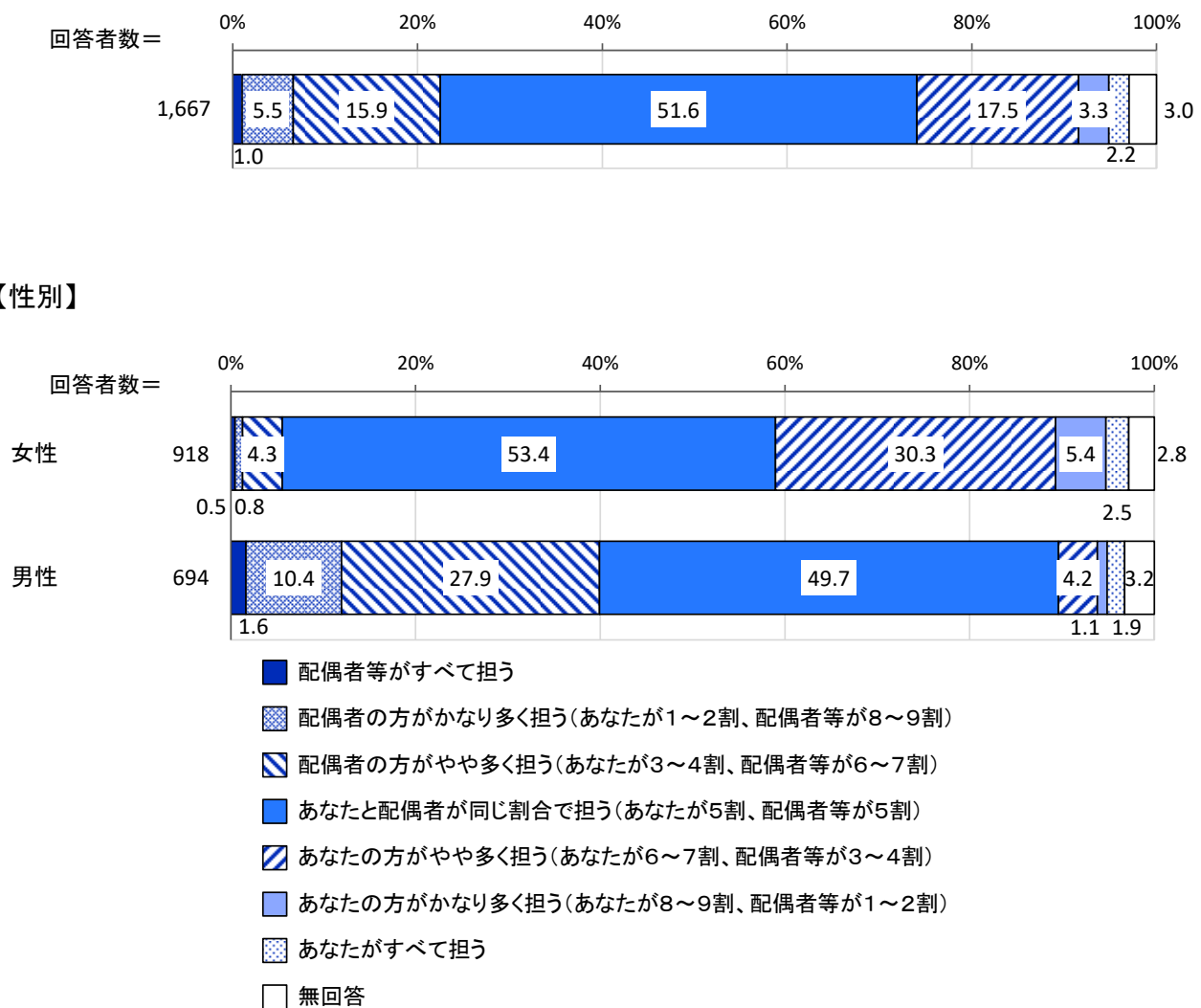
※「フルタイム共働き世帯」は今回新たに追加した分類のため、経年比較はしていない。

※「妻が有業、夫が無業」「共に無職」はサンプル数が少ないため、表のみの表記とした。

				家事・育児・介護
妻が有業、夫が無業	夫	令和6年度調査	令和6年度調査 (n=17)	3時間17分
		令和4年度調査	令和4年度調査 (n=19)	2時間59分
		令和2年度調査	令和2年度調査 (n=12)	2時間37分
		平成30年度調査	平成30年度調査 (n=4)	2時間18分
	妻	令和6年度調査	令和6年度調査 (n=33)	8時間1分
		令和4年度調査	令和4年度調査 (n=25)	5時間40分
		令和2年度調査	令和2年度調査 (n=36)	6時間31分
		平成30年度調査	平成30年度調査 (n=21)	4時間28分
共に無職	夫	令和6年度調査	令和6年度調査 (n=61)	3時間7分
		令和4年度調査	令和4年度調査 (n=68)	2時間37分
		令和2年度調査	令和2年度調査 (n=59)	2時間00分
		平成30年度調査	平成30年度調査 (n=37)	2時間26分
	妻	令和6年度調査	令和6年度調査 (n=67)	7時間34分
		令和4年度調査	令和4年度調査 (n=46)	5時間16分
		令和2年度調査	令和2年度調査 (n=86)	5時間43分
		平成30年度調査	平成30年度調査 (n=23)	6時間35分

理想とする家事、育児、介護などの分担（問5（1））

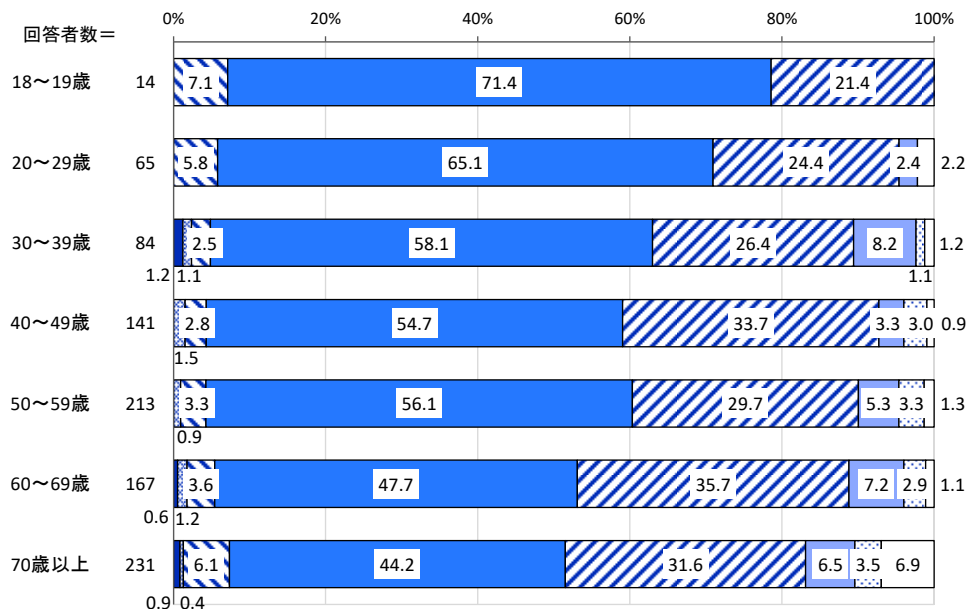
理想とする家事、育児、介護などの分担について、全体では「あなたと配偶者等が同じ割合」が51.6%と最も多くなっている。性別で見ると、男女ともに「あなたと配偶者等が同じ割合」が最も多くなっている一方で、「あなたの方がやや多く担う」は、女性（30.3%）が男性（4.2%）を26.1ポイント上回り、「配偶者の方がやや多く担う」は、男性（27.9%）が女性（4.3%）を23.6ポイント上回っている。



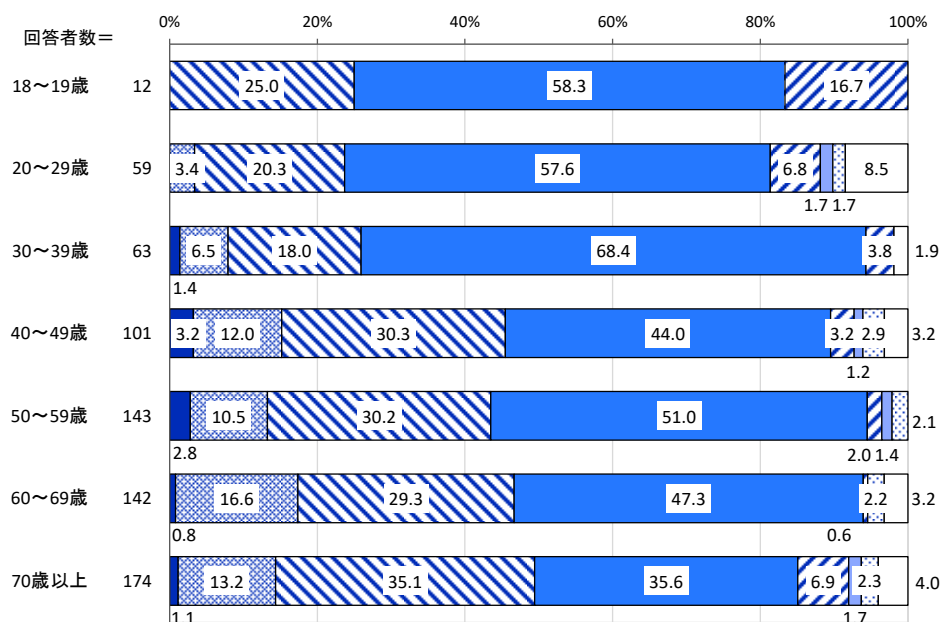
理想とする家事、育児、介護などの分担（問5（1））性・年齢別

理想とする家事、育児、介護などの分担について、性・年齢別でみると、男女ともに全年代で「あなたと配偶者等が同じ割合」が最も多く、特に男性の30代では68.4%と多くなっている。

【性・年齢別／女性】



【性・年齢別／男性】



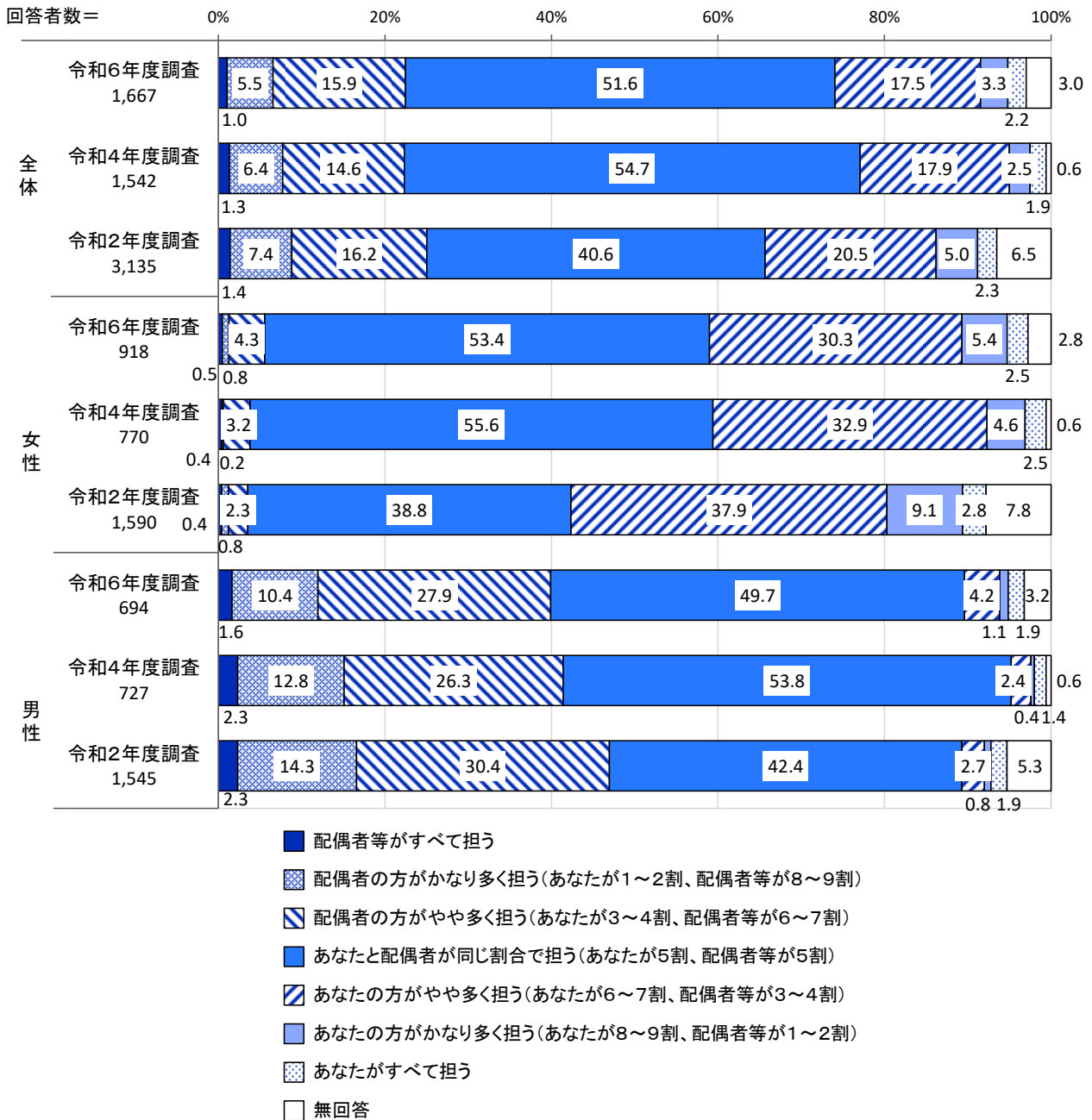
- 配偶者等がすべて担う
- ▨ 配偶者の方がかなり多く担う(あなたが1～2割、配偶者等が8～9割)
- ▧ 配偶者の方がやや多く担う(あなたが3～4割、配偶者等が6～7割)
- あなたと配偶者等が同じ割合で担う(あなたが5割、配偶者等が5割)
- ▧ あなたの方がやや多く担う(あなたが6～7割、配偶者等が3～4割)
- ▨ あなたの方がかなり多く担う(あなたが8～9割、配偶者等が1～2割)
- ▩ あなたがすべて担う
- 無回答

理想とする家事、育児、介護などの分担（問5（1））経年比較／全体・男女別

※本設問では、回答者自身が「結婚している（配偶者と同居）」と回答したものを集計している。

理想とする家事、育児、介護などの分担について、令和4年度調査と比較すると、ほぼ同傾向となっているが、男性の「配偶者の方がかなり多く担う」が2.4ポイント減少し、「あなたのほうが多く担う（やや多く担う、かなり多く担う、すべて担う、の合計）」が3ポイント増加している。

【経年比較／全体・男女別】



※ 本設問を設定した令和2年度以降の結果を比較している。

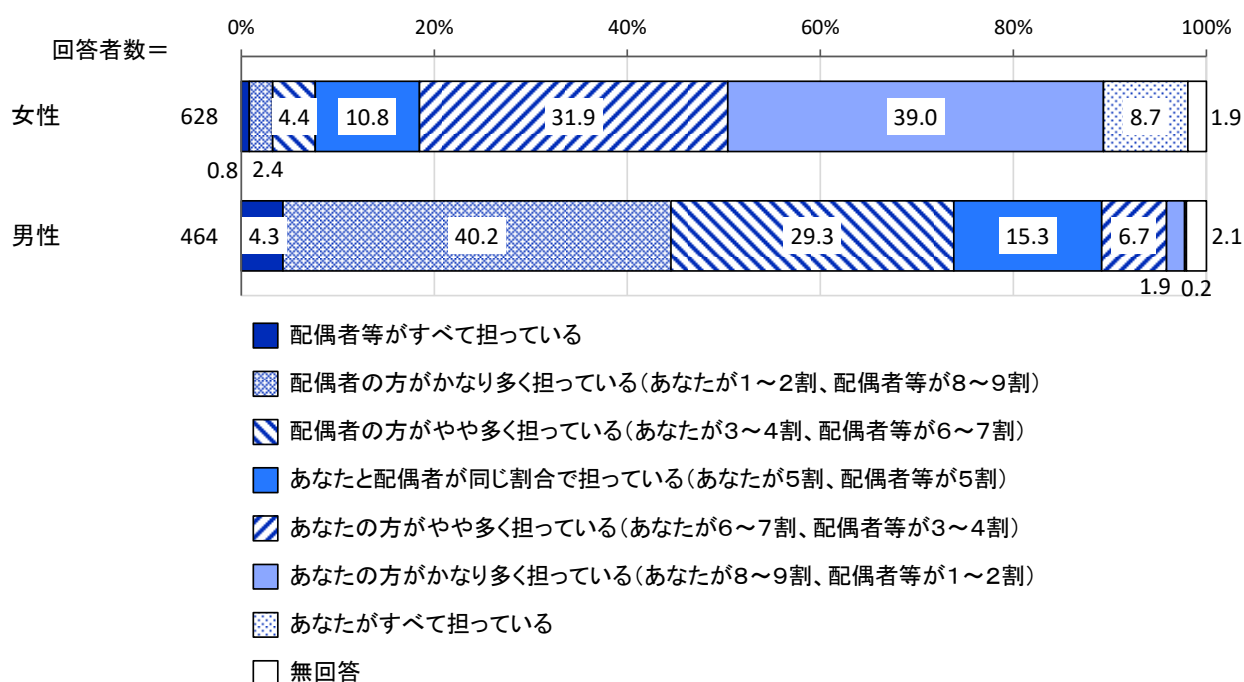
実際の家事、育児、介護などの分担（問5（2））

※本設問では、回答者自身が「結婚している（配偶者と同居）」と回答したものを集計している。

実際の家事、育児、介護などの分担について、性別でみると、女性では「あなたが8～9割、配偶者等が1～2割」が39.0%で最も多く、次いで「あなたが6～7割、配偶者等が3～4割」(31.9%)となっている。

男性では「あなたが1～2割、配偶者等が8～9割」が40.2%で最も多く、次いで「あなたが3～4割、配偶者等が6～7割」(29.3%)となっている。

【性別】

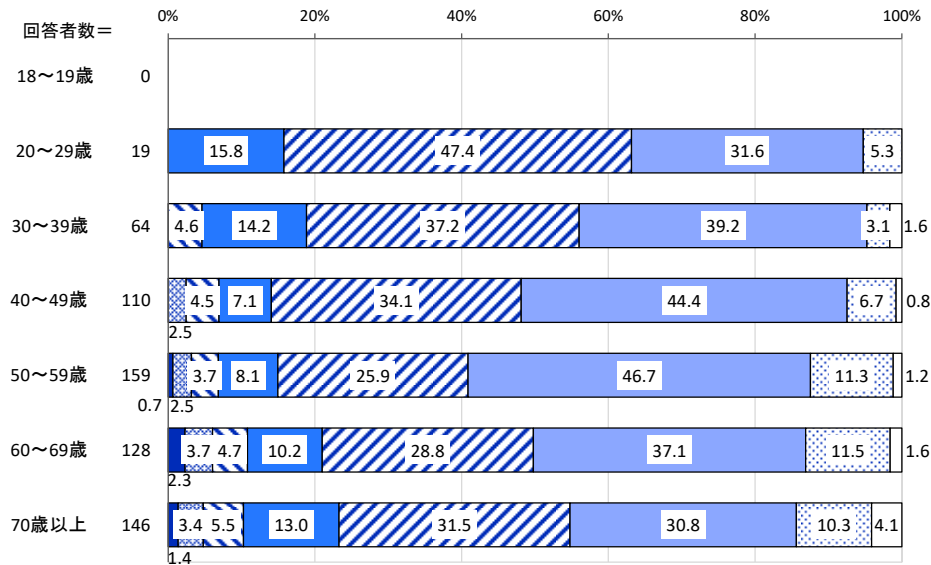


※ 配偶者等と同居している方のみを対象とした設問のため、回答者数は全体数と一致しない。

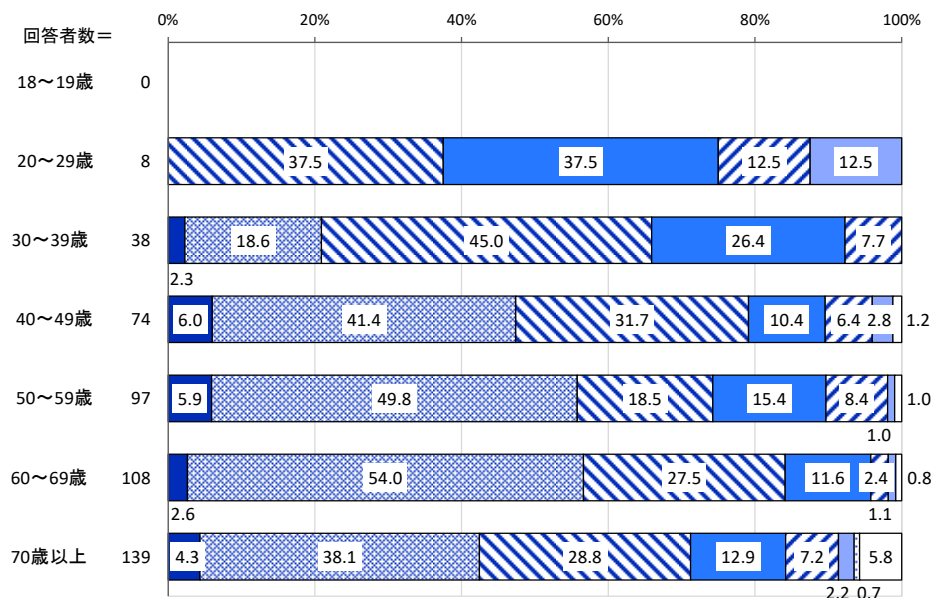
実際の家事、育児、介護などの分担（問5（2））性・年齢別

実際の家事、育児、介護などの分担について、性・年齢別でみると、女性の30代～60代では「あなたが8～9割、配偶者等が1～2割を分担」が最も多くなっている。男性では40代以上で「あなたが1～2割、配偶者等が8～9割を分担」が最も多く、20～30代では「あなたが3～4割、配偶者等が6～7割」が最も多くなっている。

【性・年齢別／女性】



【性・年齢別／男性】



■ 配偶者等がすべて担っている

■ 配偶者の方がかなり多く担っている（あなたが1～2割、配偶者等が8～9割）

■ 配偶者の方がやや多く担っている（あなたが3～4割、配偶者等が6～7割）

■ あなたと配偶者等が同じ割合で担っている（あなたが5割、配偶者等が5割）

■ あなたの方がやや多く担っている（あなたが6～7割、配偶者等が3～4割）

■ あなたの方がかなり多く担っている（あなたが8～9割、配偶者等が1～2割）

■ あなたがすべて担っている

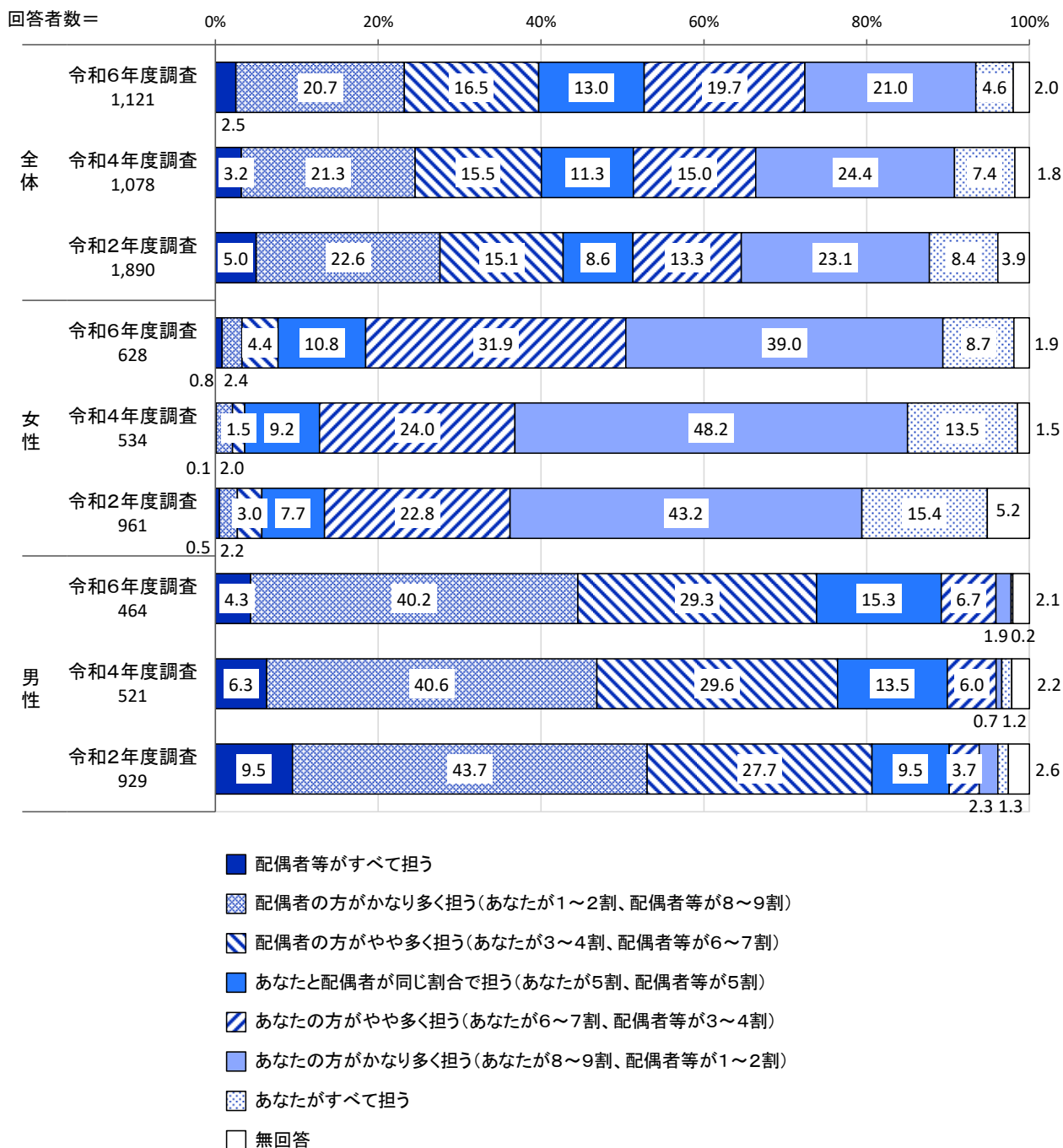
□ 無回答

実際の家事、育児、介護などの分担（問5（2））経年比較／全体・男女別

実際の家事、育児、介護などの分担について、女性では「あなたが8～9割、配偶者等が1～2割」は、令和4年度調査と比較して9.2ポイント減少している。

男性では「配偶者等がすべて担う」は減少傾向にあり、令和2年度調査と比較して5.2ポイント減少している。また、「あなたと配偶者等が同じ割合」は増加傾向にあり、令和2年度調査と比較して5.8ポイント増加している。

【経年比較／全体・男女別】



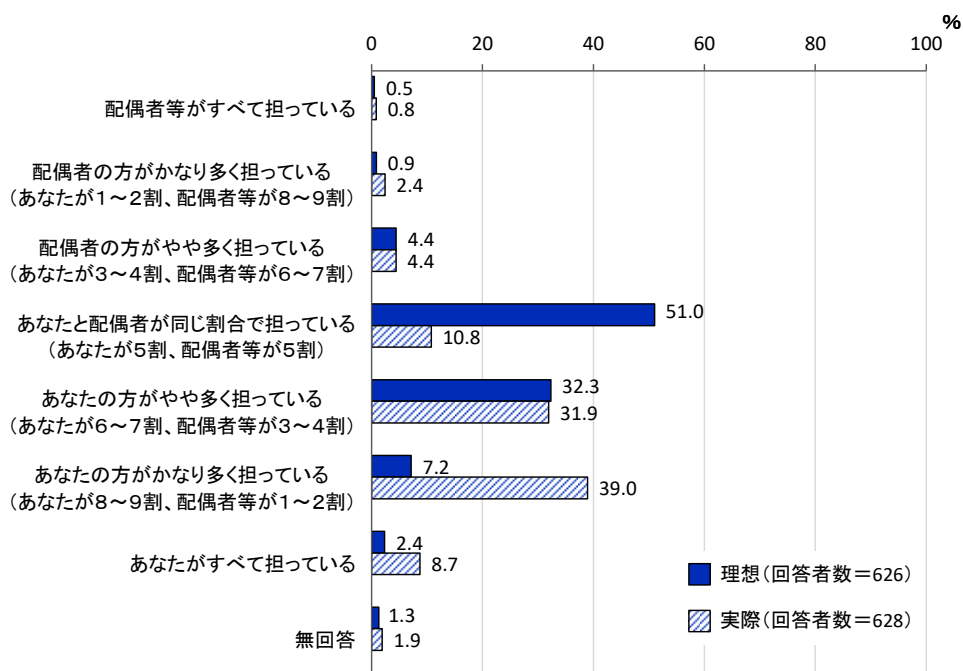
※ 本設問を設定した令和2年度以降の結果を比較している。

家事、育児、介護などの分担【理想と実際との比較】（問5）

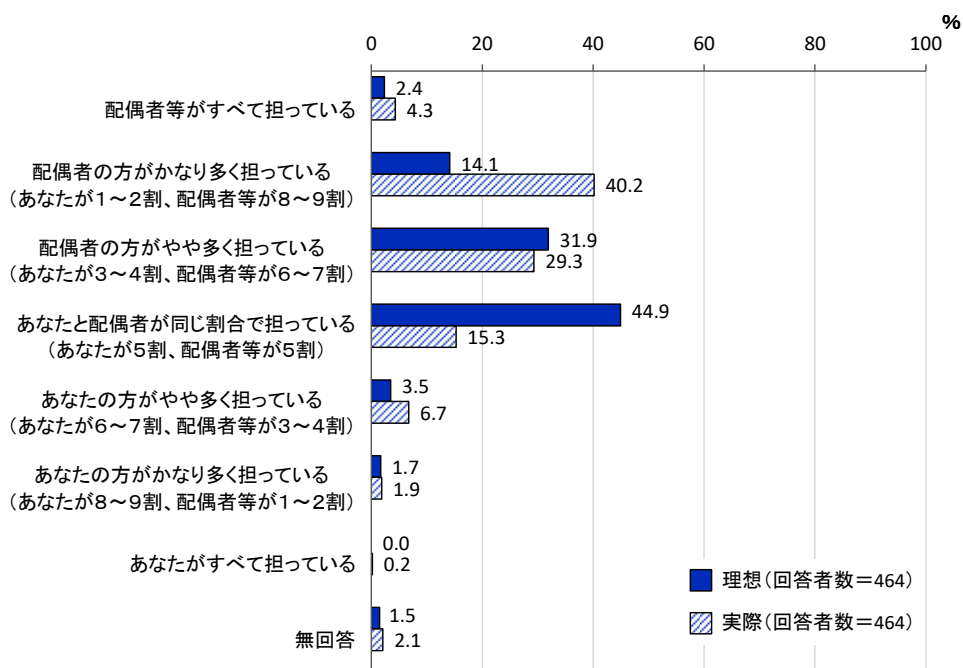
家事、育児、介護などの分担の理想と実際を比較すると、女性では「あなたと配偶者等が同じ割合」は、実際（10.8%）が理想（51.0%）を40.2ポイント下回っているのに対し、「あなたが8～9割、配偶者等が1～2割」は、実際（39.0%）が理想（7.2%）を31.8ポイント上回っている。

男性では「あなたと配偶者等が同じ割合」は、実際（15.3%）が理想（44.9%）を29.6ポイント下回っており、「あなたが1～2割、配偶者等が8～9割」は、実際（40.2%）が理想（14.1%）を26.1ポイント上回っている。

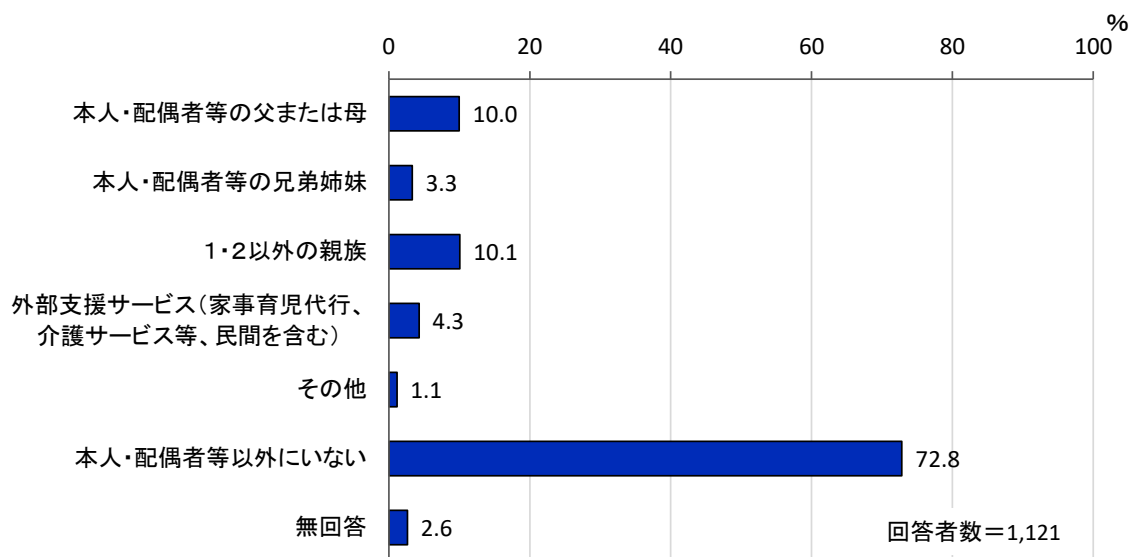
【理想と実際との比較／女性】



【理想と実際との比較／男性】



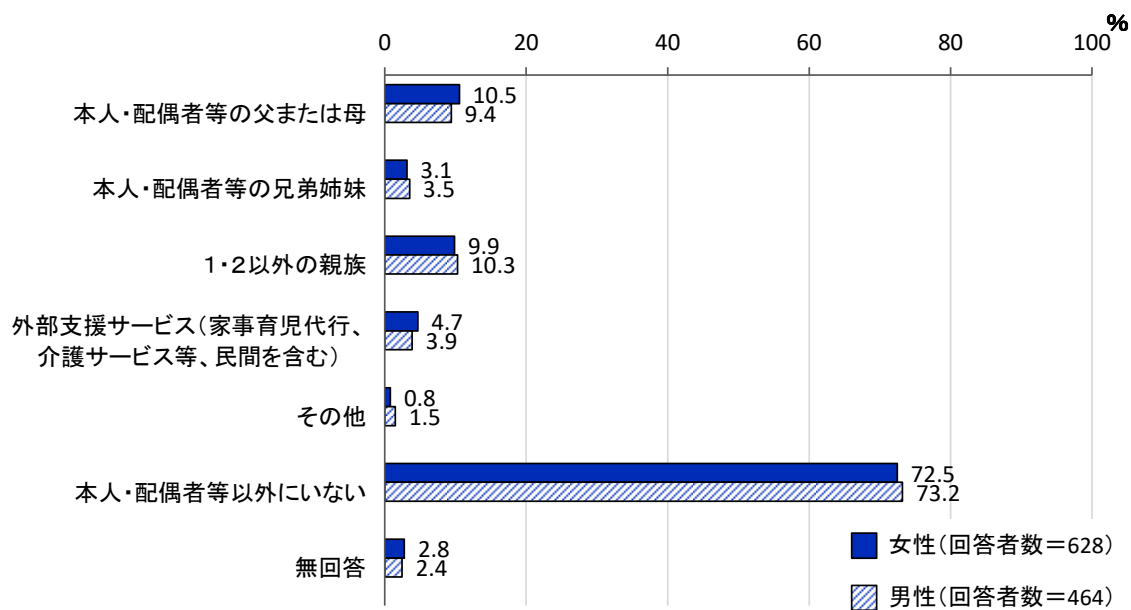
配偶者等以外で家事、育児、介護などを担う人の有無（問5（3））



※ 配偶者等と同居している方のみを対象としているため、回答者数は全体数と一致しない。

配偶者等以外で家事、育児、介護などを担う人の有無（問5（3））性別

【性別】



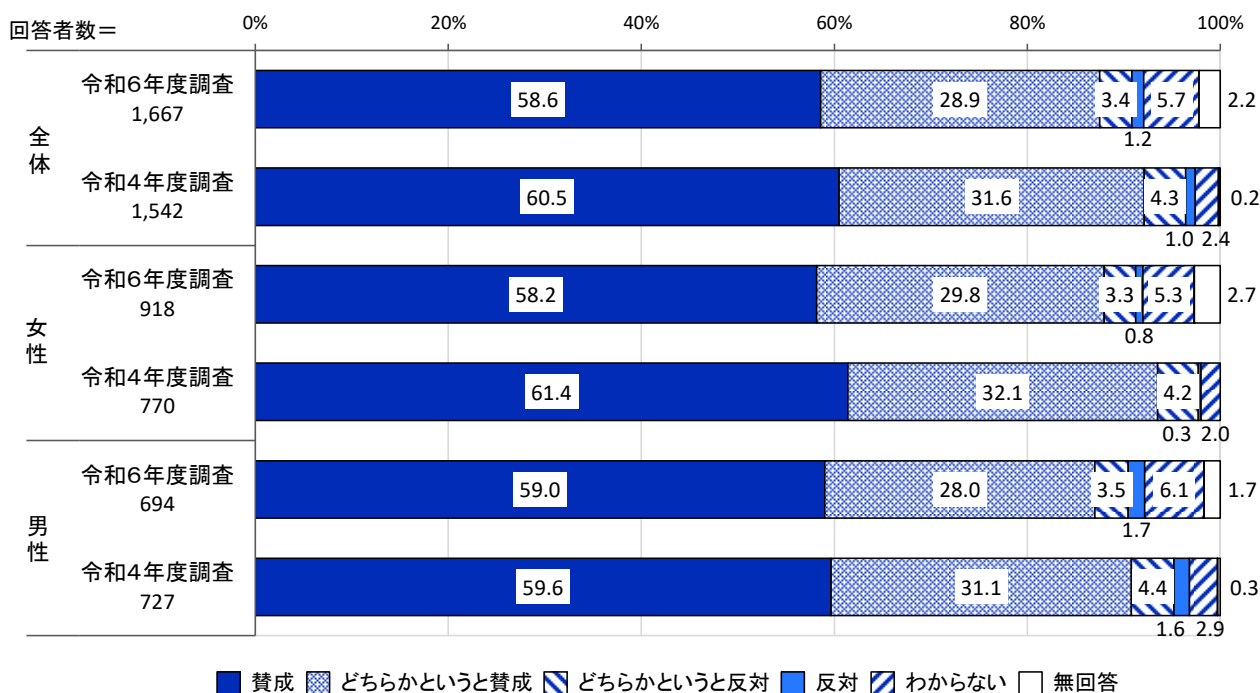
（５）男性の育児休業取得に対する意識

- ・「男性の育児休業取得に対する賛否」について、男女ともに“賛成”が多くなっている。
- ・“賛成”の理由として、男女ともに「配偶者等の家事・育児・介護の負担を軽減できると思うから」が最も多くなっている
- ・“反対”の理由として、男性で「育休を取得する従業員以外の負担が大きくなるから」「代替要員の確保が難しいから」が５割を超えている。

男性の育児休業取得に対する賛否（問６）経年比較／全体・男女別

男性が育児休業を取得することについて、全体では“賛成”（「賛成」と「どちらかという賛成」の合計）が 87.5%、“反対”（「どちらかという反対」と「反対」の合計）が 4.6%となっている。

【経年比較／全体・男女別】

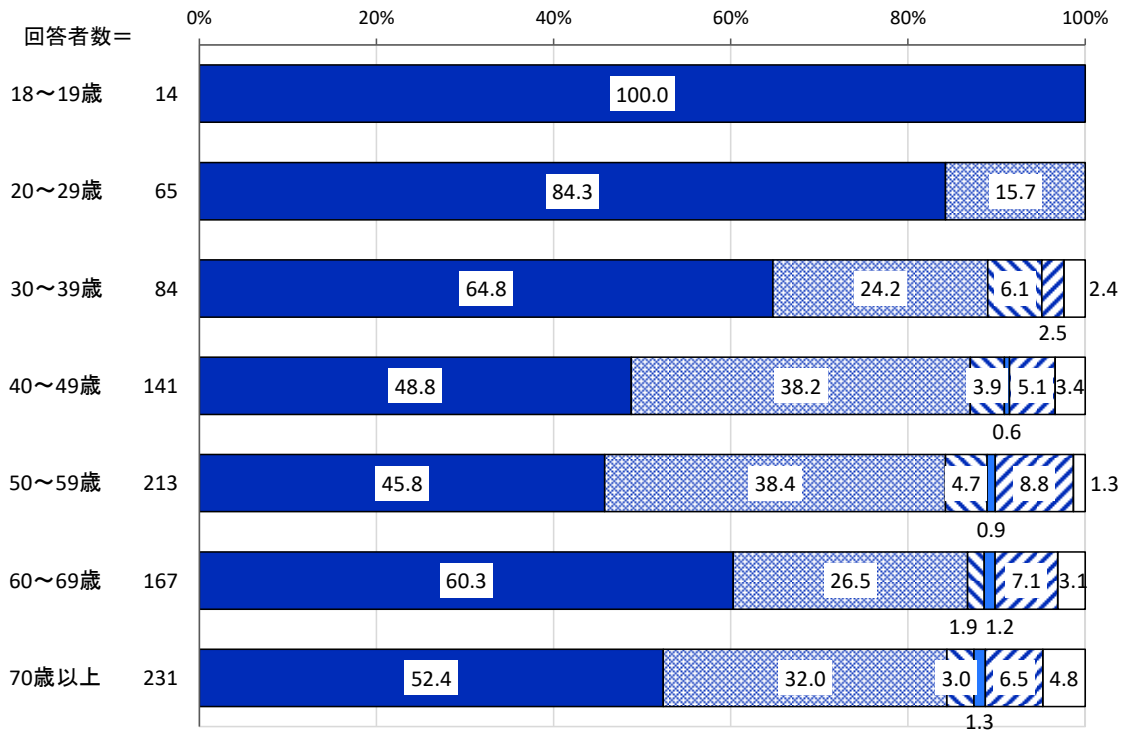


※ 本設問を設定した令和４年度以降の結果を比較している。

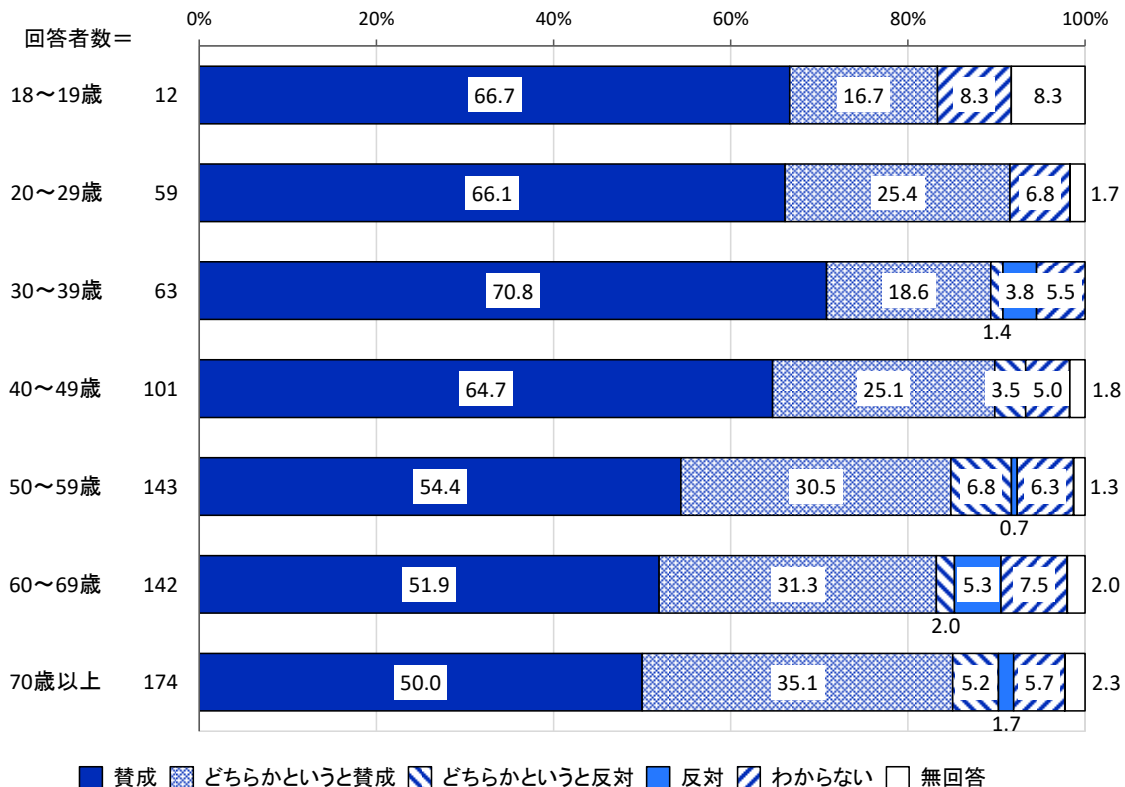
男性の育児休業取得に対する賛否（問6）性・年齢別

男性が育児休業を取得することについて、全ての性別・年代で8割以上が“賛成（「賛成」と「どちらか」と賛成）の合計）となっている。

【性・年齢別／女性】



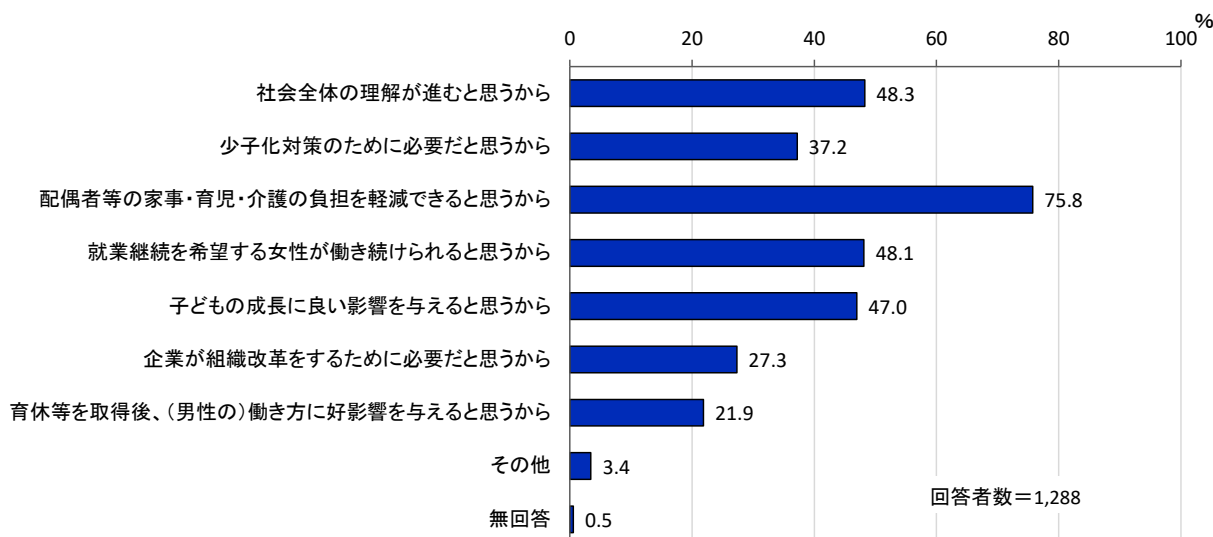
【性・年齢別／男性】



■ 賛成 ■ どちらかという賛成 ▨ どちらかという反対 ■ 反対 ▨ わからない □ 無回答

男性の育児休業取得に賛成する理由(問6-1)

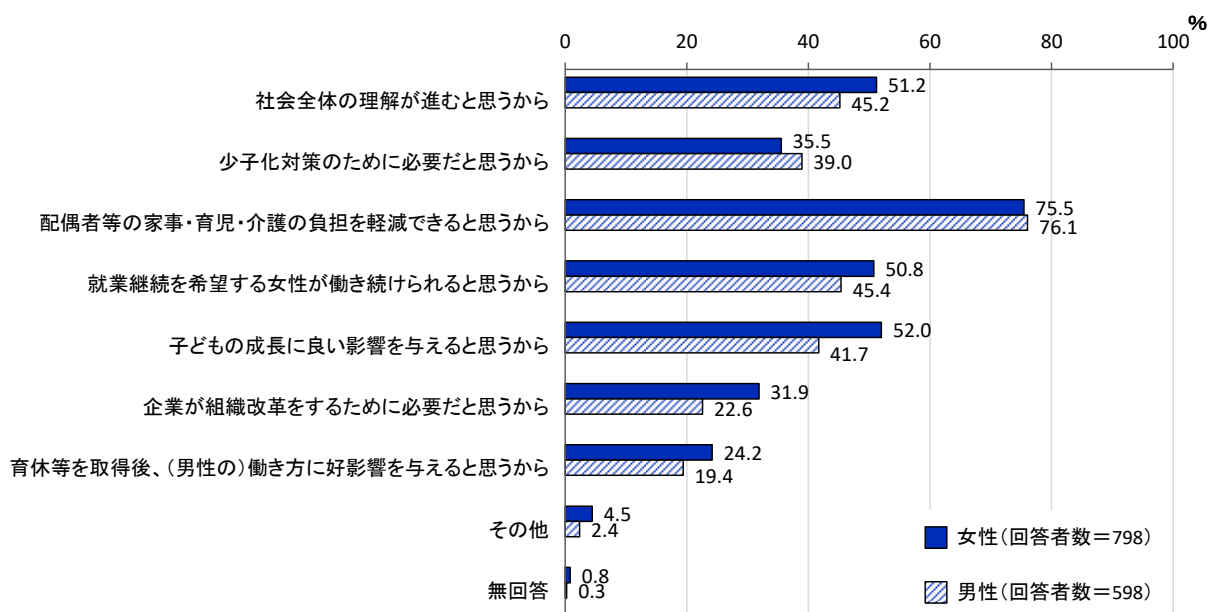
男性の育児休業取得に“賛成”の理由として、全体では「配偶者等の家事・育児・介護の負担を軽減できると思うから」が75.8%と最も多く、次いで「社会全体の理解が進むと思うから」(48.3%)、「就業継続を希望する女性が働き続けられると思うから」(48.1%)となっている。



男性の育児休業取得に賛成する理由(問6-1)性別

男性が育児休業を取得することに“賛成”の理由について、性別でみると、「子どもの成長に良い影響を与えると思うから」は女性(52.0%)が男性(41.7%)を10.3ポイント上回り、「企業が組織改革をするために必要だと思うから」は女性(31.9%)が男性(22.6%)を9.3ポイント上回っている。

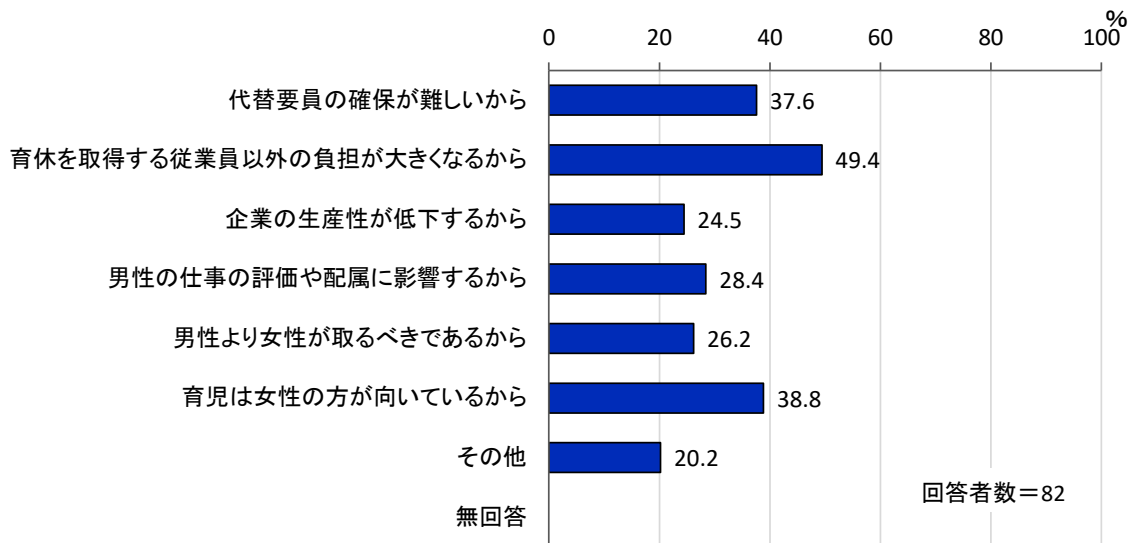
【性別】



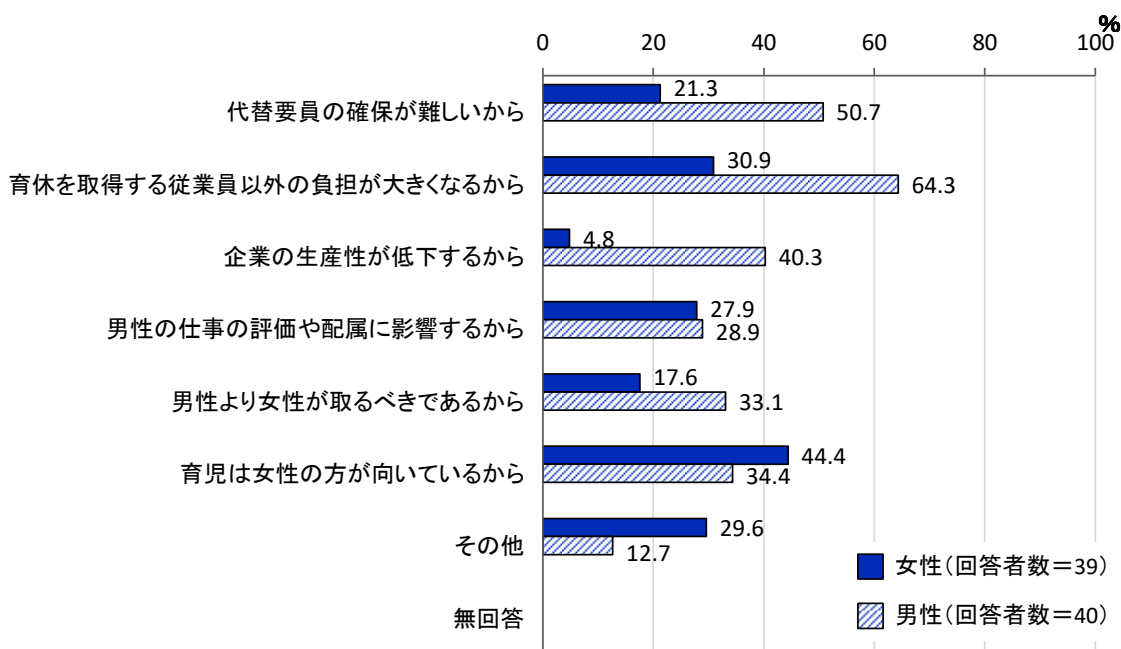
男性の育児休業取得に反対する理由(問6-2)

男性が育児休業を取得することに“反対”の理由について、全体では「育休を取得する従業員以外の負担が大きくなるから」が49.4%と最も多く、次いで「育児は女性のほうが向いているから」(38.8%)、「代替要員の確保が難しいから」(37.6%)となっている。

性別でみると、「育児は女性のほうが向いているから」は女性(44.4%)が男性(34.4%)を10.0ポイント上回っているのに対し、「企業の生産性が低下するから」は男性(40.3%)が女性(4.8%)を35.5ポイント、「育休を取得する従業員以外の負担が大きくなるから」は男性(64.3%)が女性(30.9%)を33.4ポイント上回っている。



【性別】

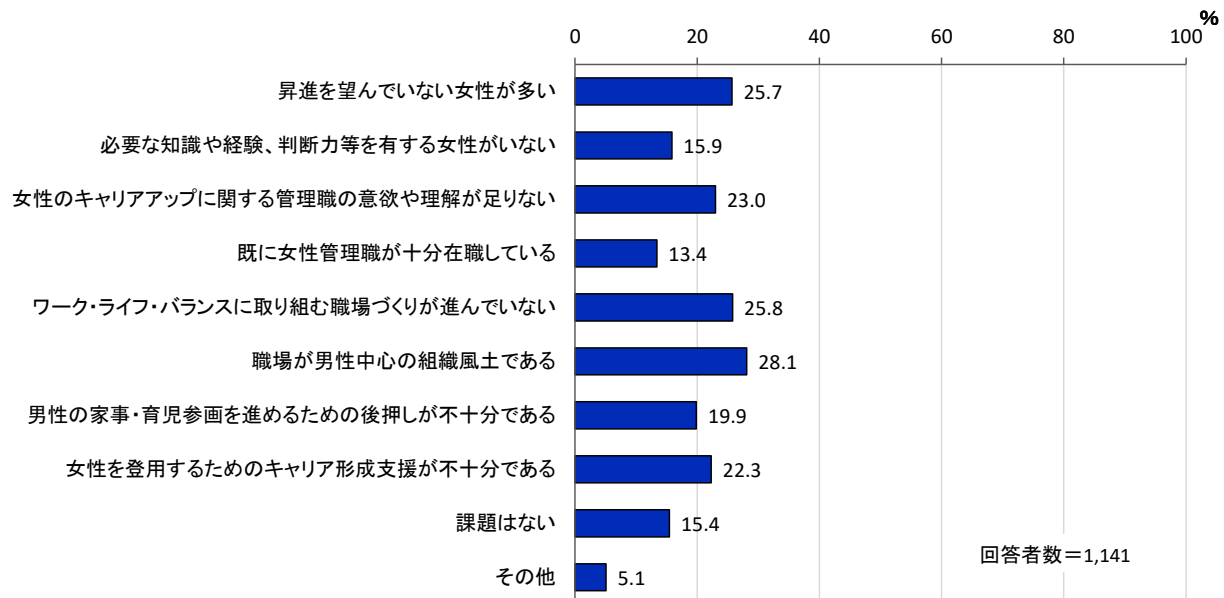


（６）職場での女性登用における課題

- ・ 職場において女性の登用を進める上での課題として、「職場が男性中心の組織風土である」「ワーク・ライフ・バランスに取り組む職場づくりが進んでいない」「昇進を望んでいない女性が多い」が多くなっている。

女性の登用を進める上での課題（問７）

職場において女性の雇用や登用を進める上での課題について、全体では「職場が男性中心の組織風土である」が28.1%と最も多く、次いで「ワーク・ライフ・バランスに取り組む職場づくりが進んでいない」（25.8%）、「昇進を望んでいない女性が多い」（25.7%）となっている。



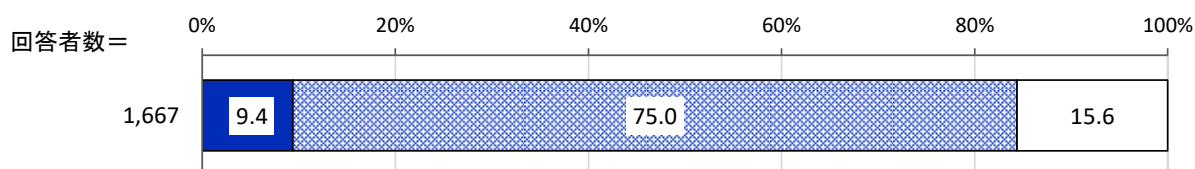
※ 問7は「2人以上が勤務する職場で働く方」に対する質問であるため、無回答を除いて集計している。

(7) セクシュアル・ハラスメント、マタニティ・ハラスメント被害の有無及び内容

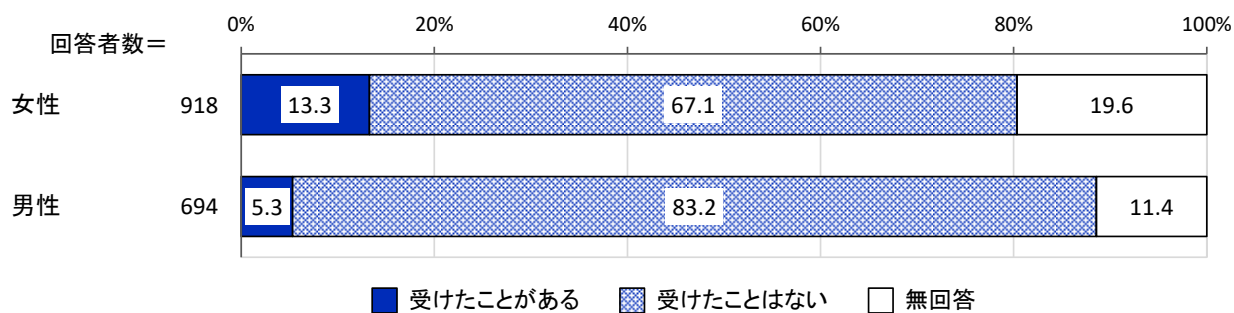
- ・セクシュアル・ハラスメントやマタニティ・ハラスメントについて、約1割が過去3年間に「受けたことがある」と回答している。
- ・ハラスメントの内容は、「異性との交際、結婚や出産など、プライベートについて不必要に聞かれた」が最も多く、次いで「女だから」「男だから」などと言われた」が多くなっている。

セクシュアル・ハラスメントやマタニティ・ハラスメント被害の有無（問8）

過去3年間にセクシュアル・ハラスメントと思う行為を受けた経験について、全体では9.4%が「受けたことがある」と回答しており、性別にみると、「受けたことがある」と回答した女性は13.3%、男性は5.3%となっている。

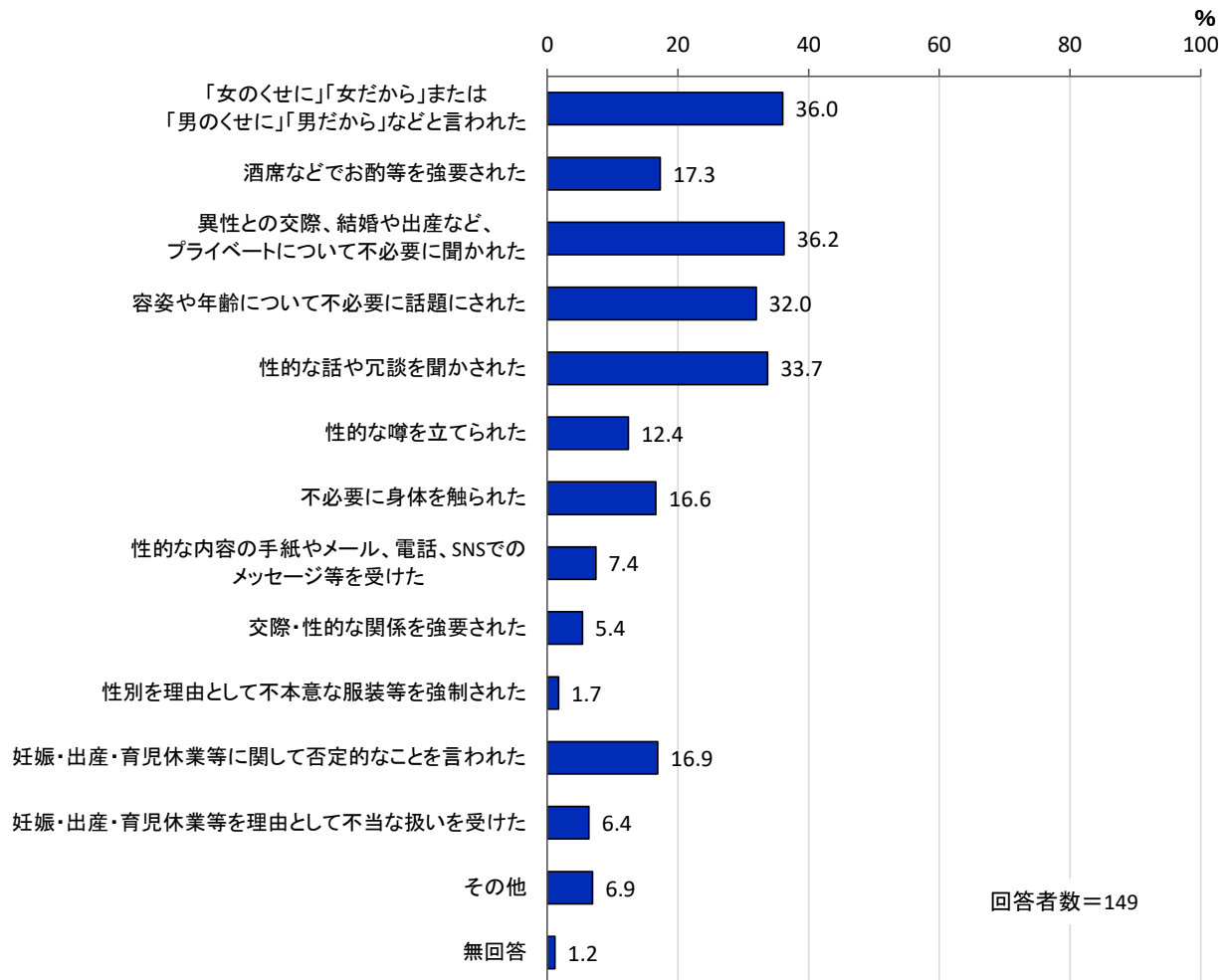


【性別】



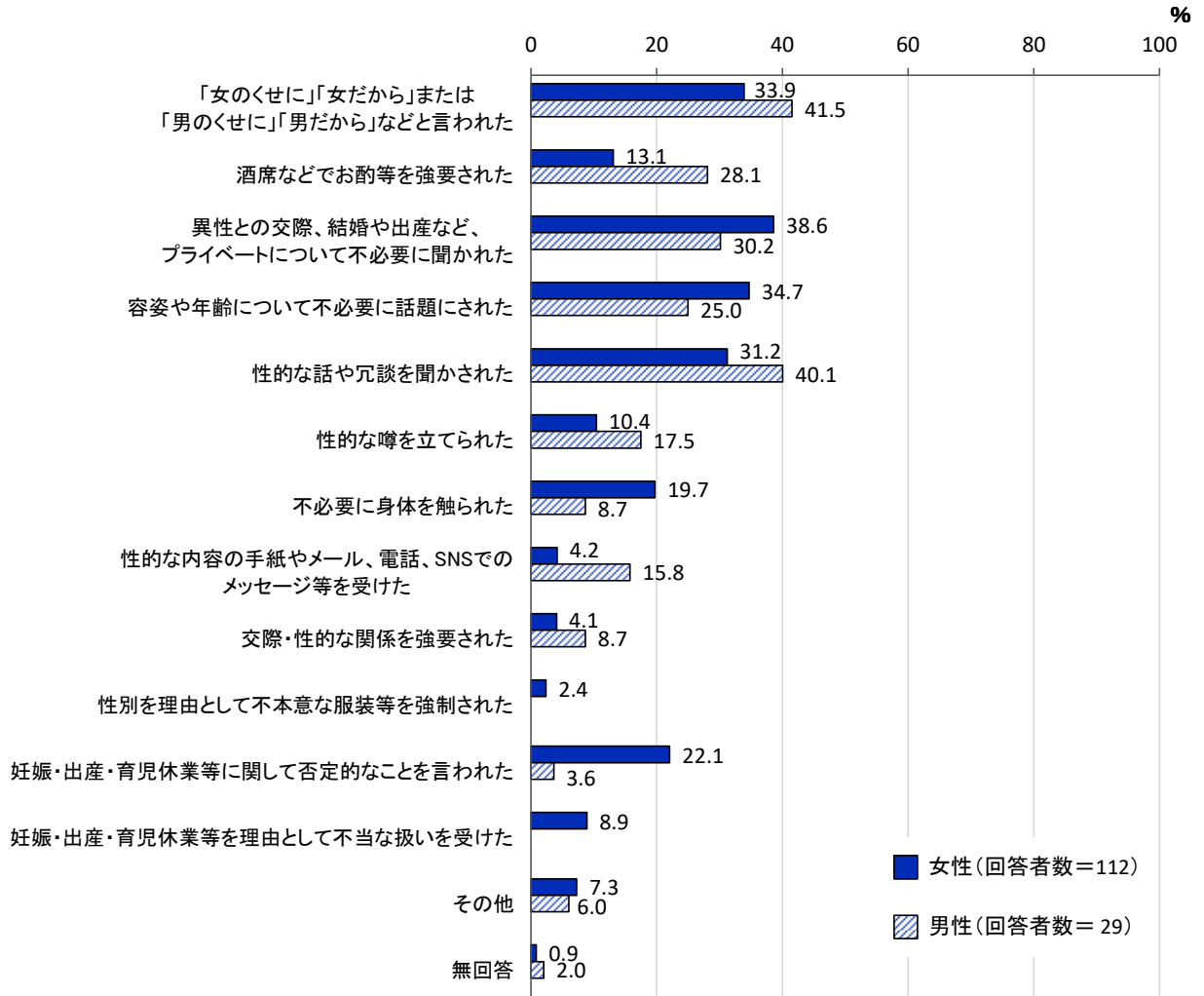
※ 今回新たに追加した項目であるため、経年比較はしていない。

セクシュアル・ハラスメントやマタニティ・ハラスメント被害の内容(問8-1)



セクシュアル・ハラスメントやマタニティ・ハラスメント被害の内容(問8-1)性別

【性別】

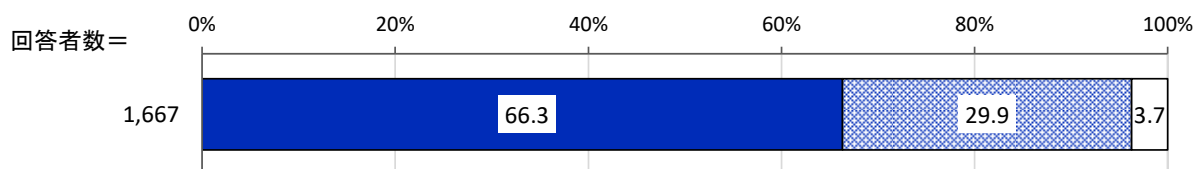


（８）地域活動におけるリーダー等への女性参画に対する意識

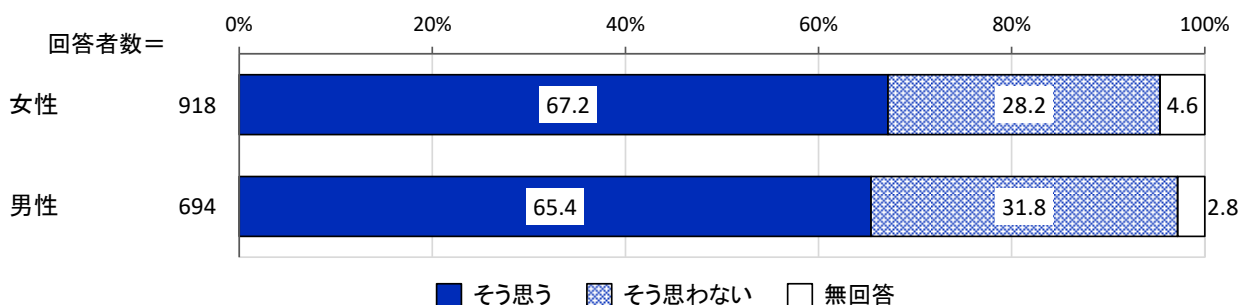
- ・ 地域活動のリーダー等への女性参画について、男女とも６割以上が“必要”と回答している。
- ・ 女性参画が必要と考える分野については、「まちづくり」「こども・青少年」「健康福祉」が特に多くなっている。

地域活動におけるリーダー等への女性参画の必要性(問 9)

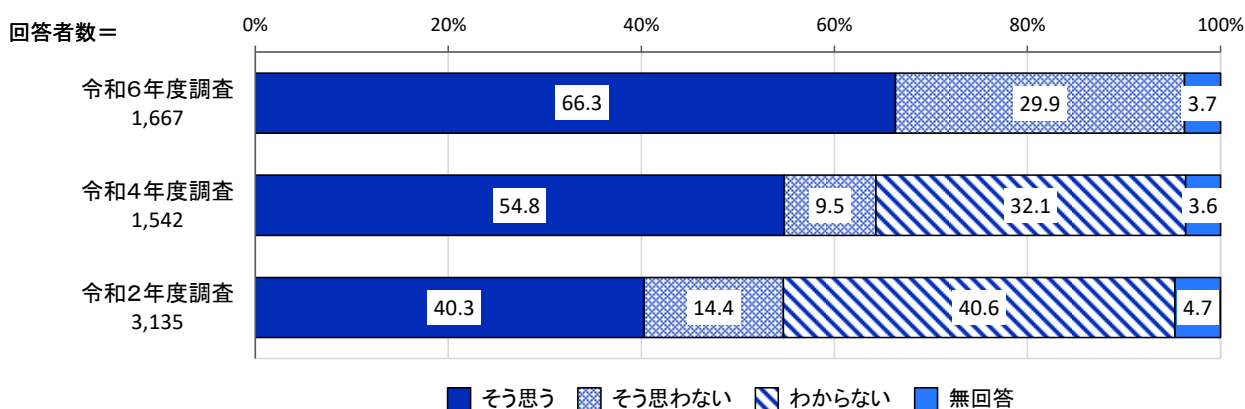
地域活動におけるリーダー等へ女性参画が必要かとの設問に対し、全体では「そう思う」と回答した割合は 66.3%となっている。



【性別】



【経年比較／全体】

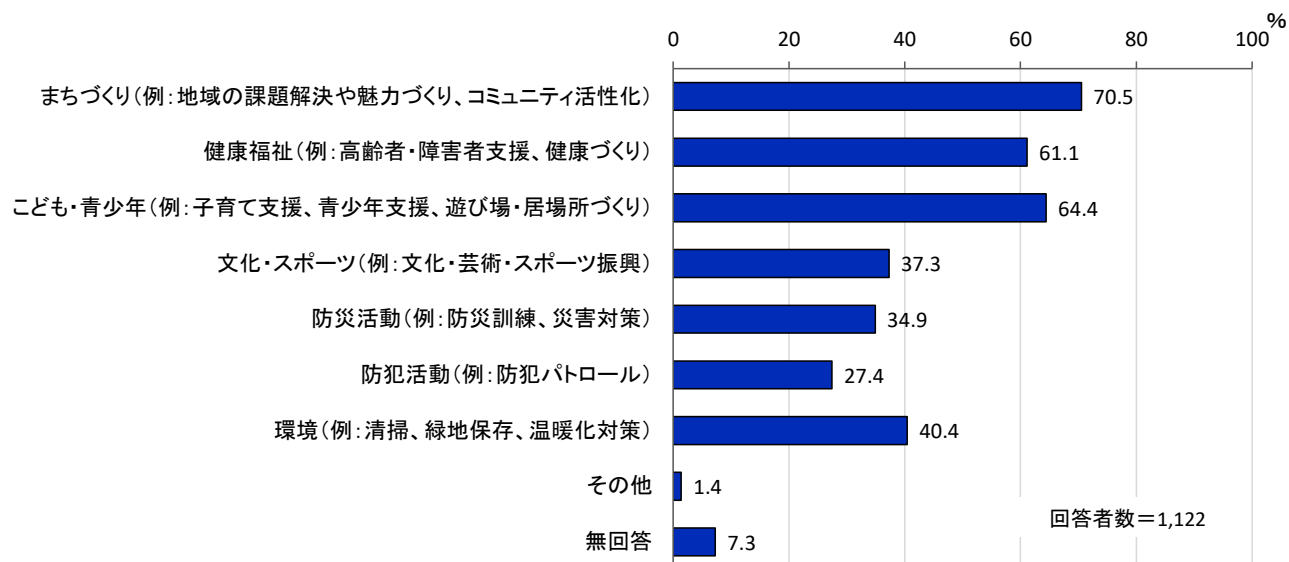


※ 令和6年度調査では、「わからない」の選択肢を設けていないため単純比較はできないが、参考として経年比較を掲載している。

※ 本設問を設定した令和2年度以降の結果を比較している。

リーダー等への女性参画が必要と考える地域活動(問9-1)

リーダー等に女性の参画が必要だと思う地域活動について、全体では「まちづくり」が70.5%と最も多く、次いで「こども・青少年」(64.4%)、「健康福祉」(61.1%)となっている。



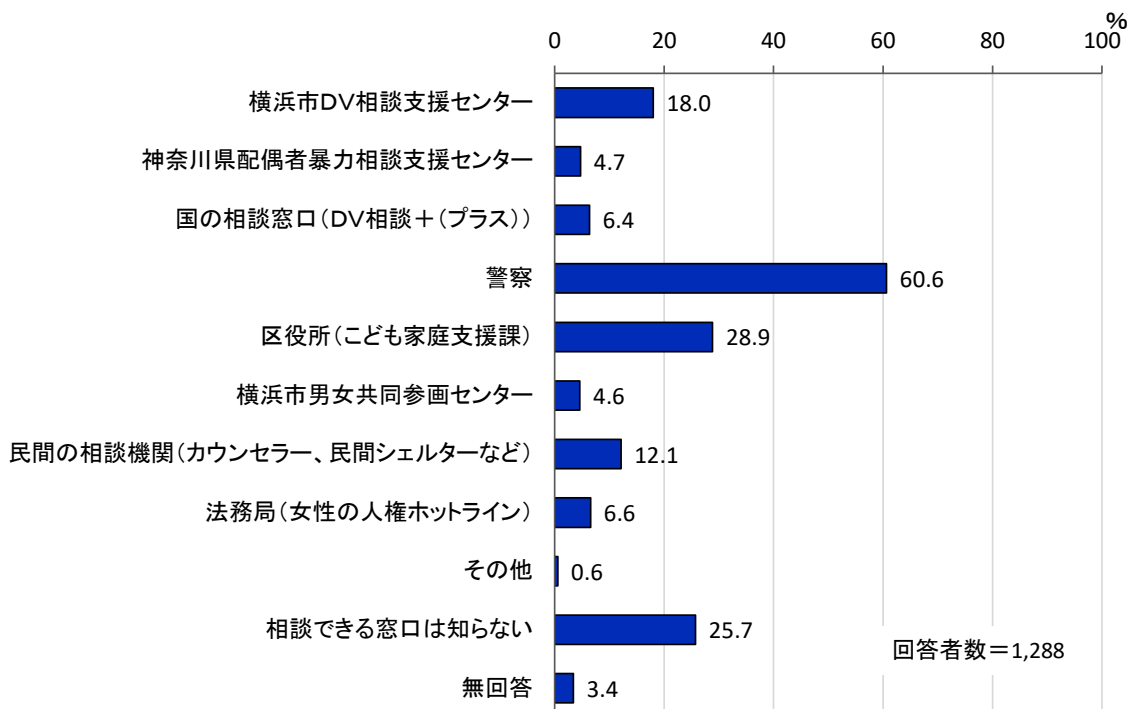
Ⅲ DV（配偶者等からの暴力）について

(9) DV相談窓口の認知度

- ・DVについて相談できる窓口の認知度について、「警察」は60.6%と最も高い。一方、その他の窓口の認知度は3割を下回っており、全体の4分の1は「相談できる窓口は知らない」と回答している。

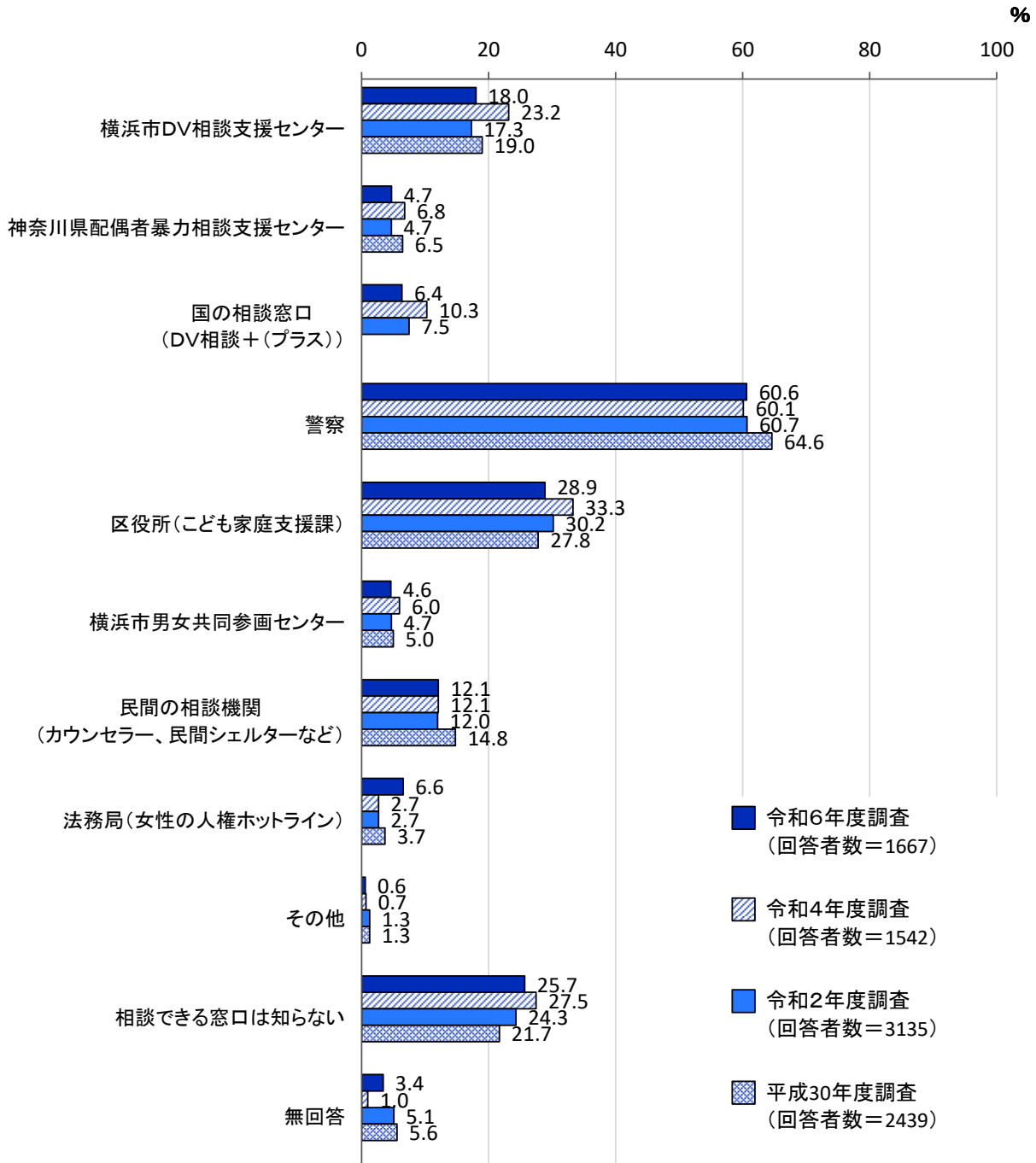
DV相談窓口の認知度(問10)

DVについて相談できる窓口として知っているものについて、全体では「警察」が60.6%と最も多く、次いで「区役所(こども家庭支援課)」が28.9%となっている。また、「相談できる窓口は知らない」と回答した割合は25.7%となっている。



DV相談窓口の認知度(問 10) 経年比較／全体

【経年比較／全体】



※ 「国の相談窓口（DV相談ナビ、DV+（プラス）」の選択肢は、令和2年度調査から追加した。

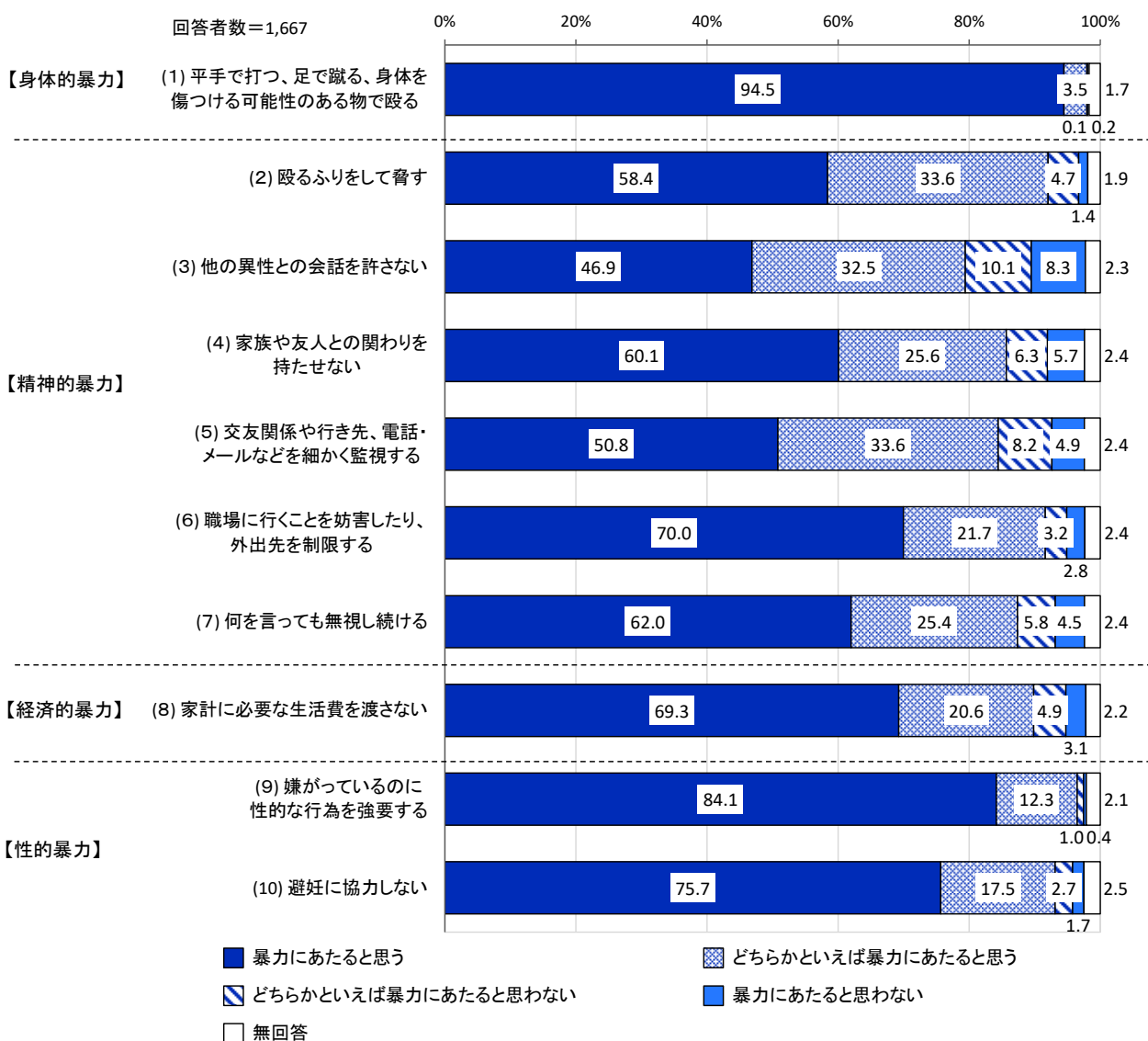
(10) DVの認識

- ・配偶者等の間で行われる「殴る・蹴る」などの身体的暴力は、94.5%が「暴力にあたる」と認識している。
- ・一方、「嫌がっているのに性的な行為を強要」などの性的暴力は79.9%、「他の異性との会話を許さない」「交友関係等を細かく監視する」「無視する」といった精神的暴力は58.0%が暴力と認識するにとどまっている。

DVの認識(問11)

配偶者等や交際相手の間で行われる行為について、「暴力にあたると思う」と回答した割合は、「他の異性との会話を許さない」が最も低く46.9%、次いで「交友関係や行き先、電話・メールなどを細かく監視する」が50.8%となっている。

「暴力にあたる」と回答した割合について、身体的暴力は94.5%であるのに対し、「他の異性との会話を許さない」「交友関係等を細かく監視する」「無視する」といった精神的暴力は58.0%、「嫌がっているのに性的な行為を強要」「避妊に協力しない」などの性的暴力は79.9%にとどまっている。

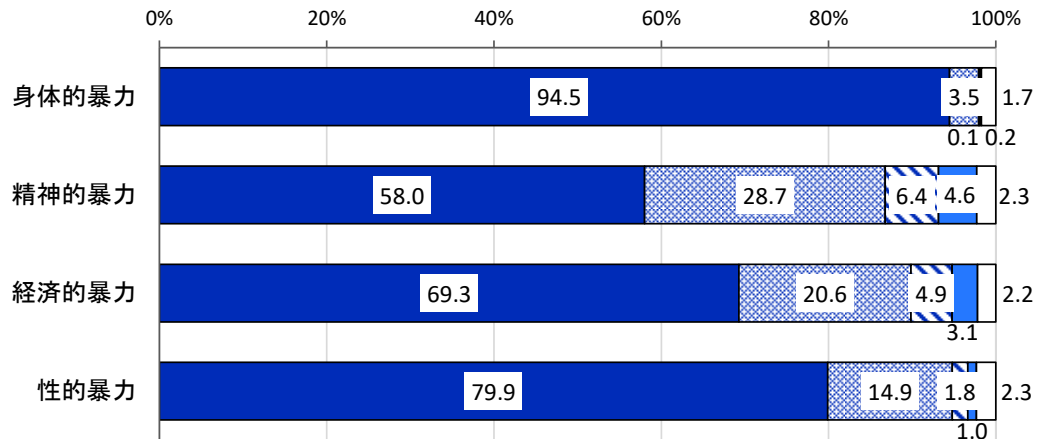


DVの認識(問 11)大分類

配偶者等や交際相手の間で行われるそれぞれの行為について分類ごとにみると、「暴力にあたると思う」割合は、「身体的暴力」は94.5%となっている一方、「精神的暴力」は58.0%と6割を下回っている。

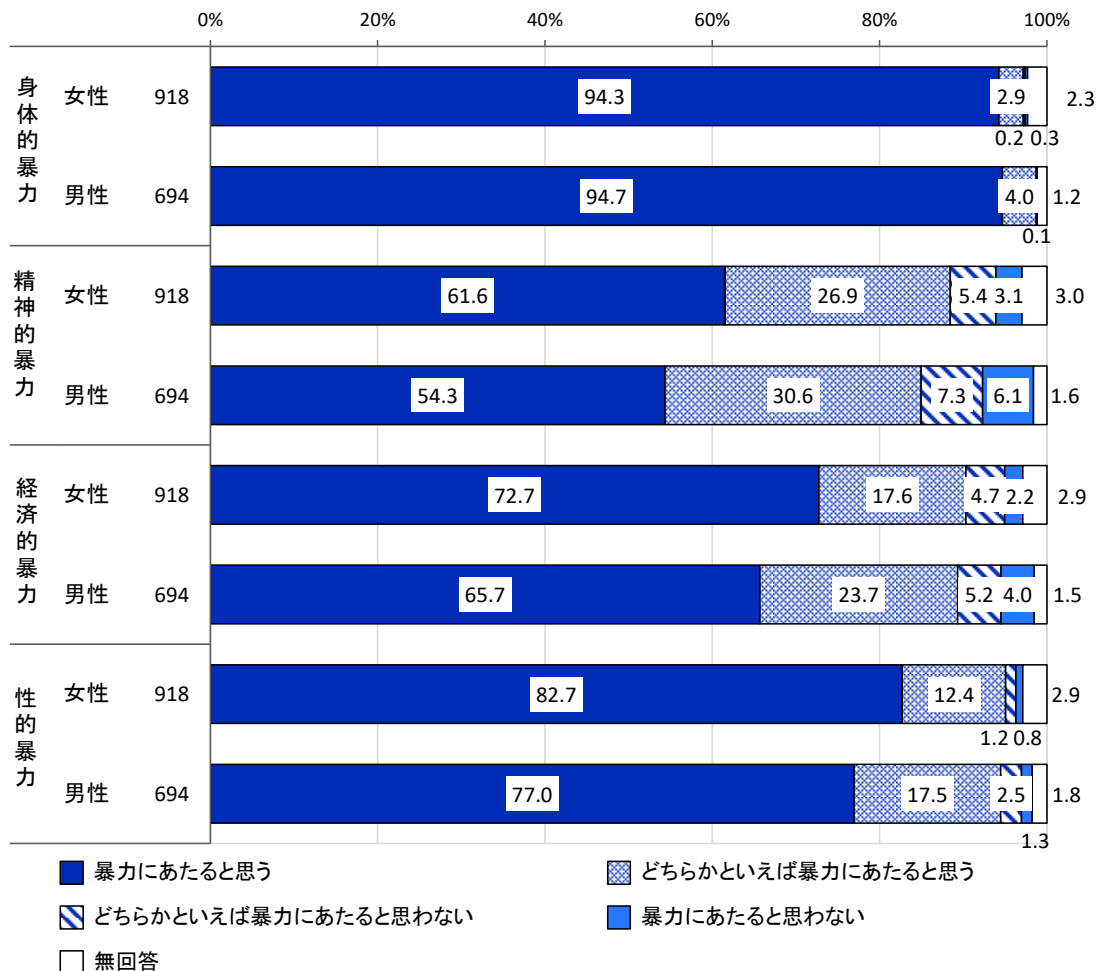
【大分類】

回答者数=1,667



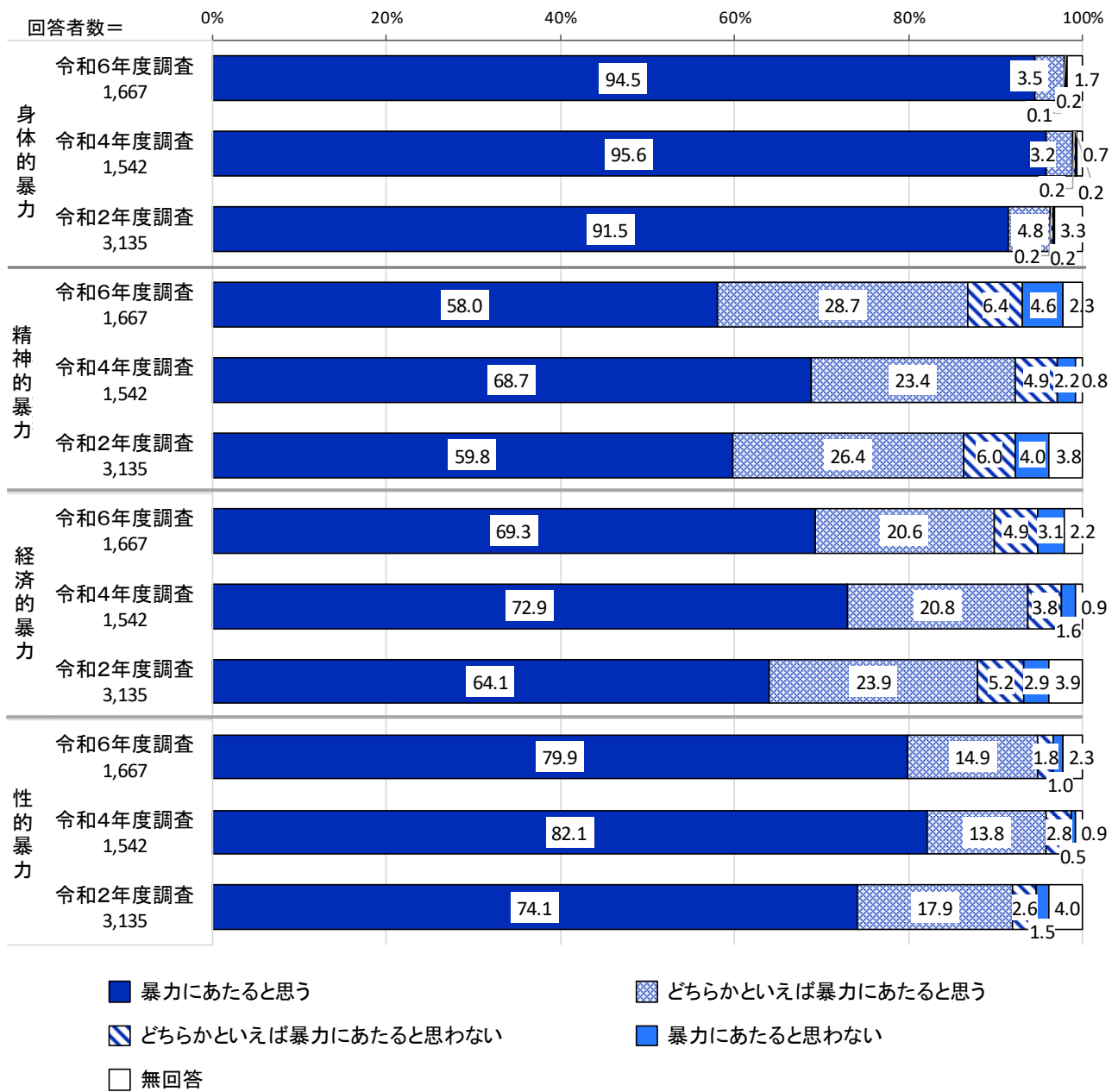
【大分類・性別】

回答者数=



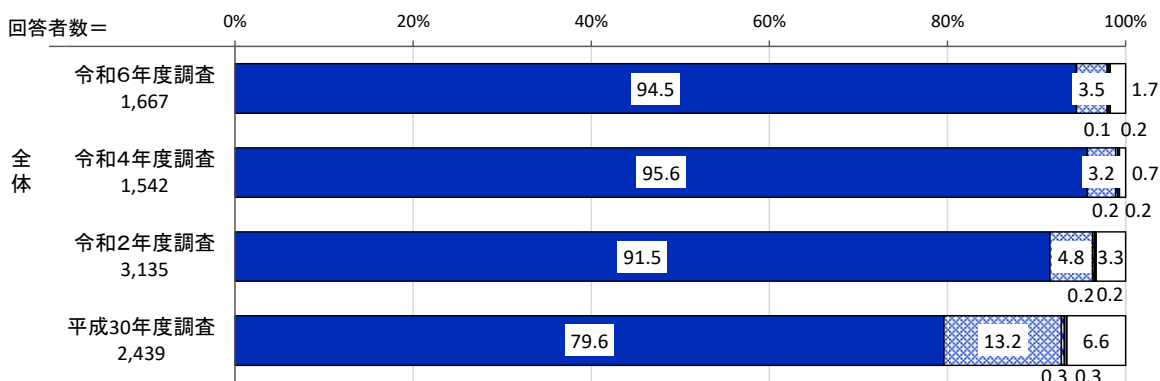
※「精神的暴力」、「性的暴力」は小分類の平均の割合で集計している。

【大分類・経年比較】

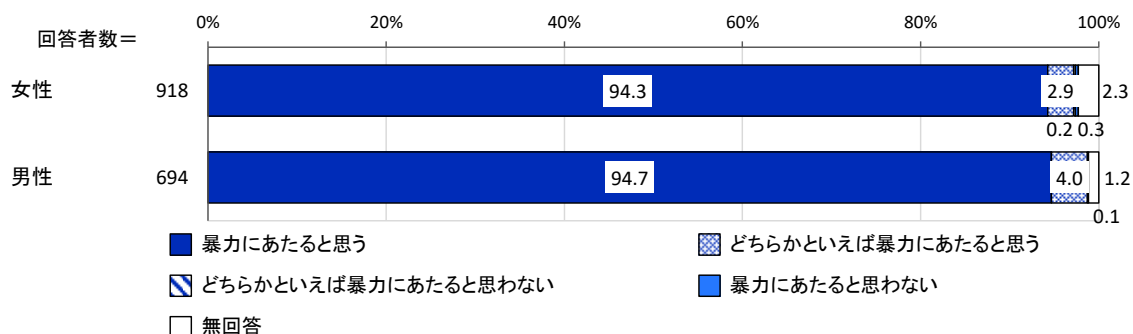


DVの認識【打つ・蹴る・殴る】（問11(1)）

【経年比較】



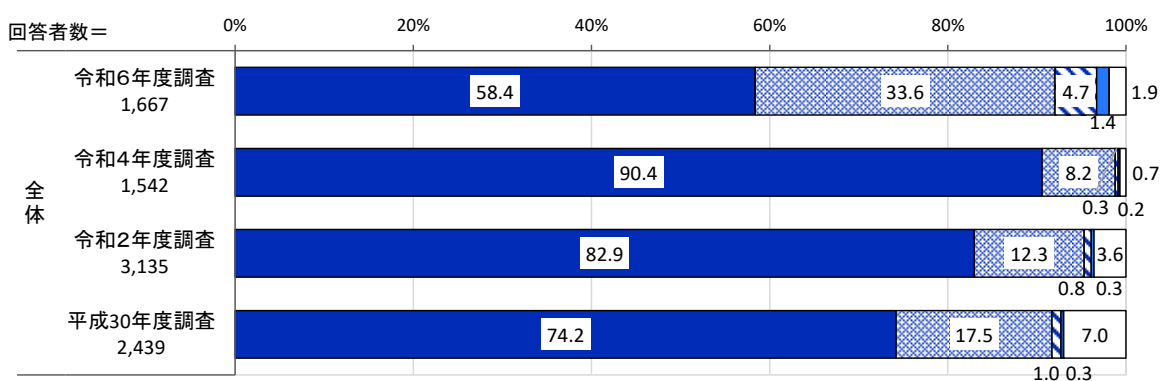
【性別】



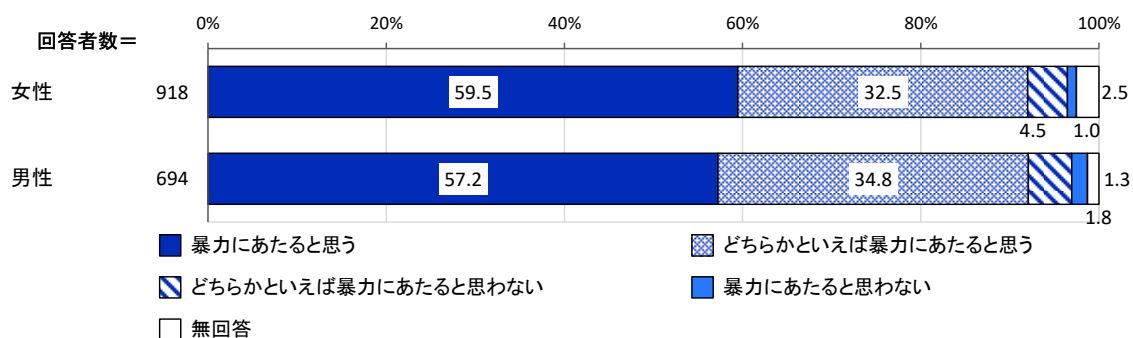
DVの認識【殴るふりをして脅す】（問11(2)）

【経年比較】

※令和4年度までの設問は「殴るふりをして脅す、刃物などを突き付けて脅す」としていたが、参考のために経年比較している。

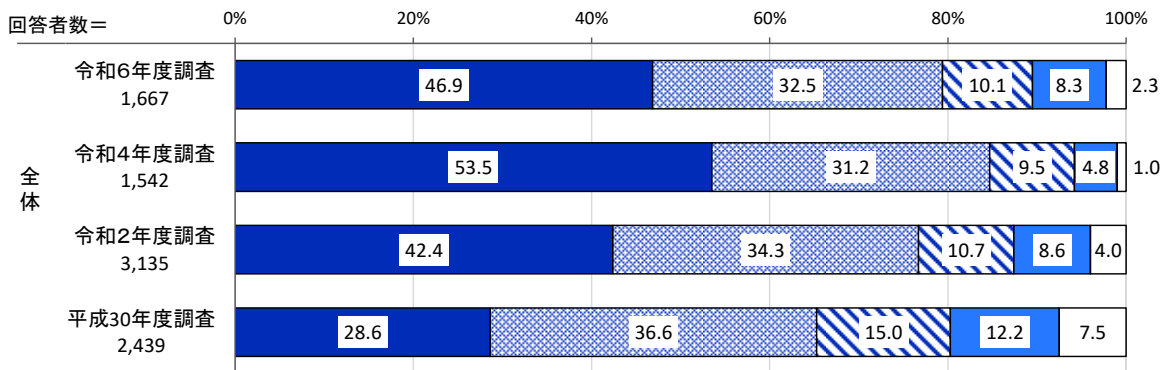


【性別】

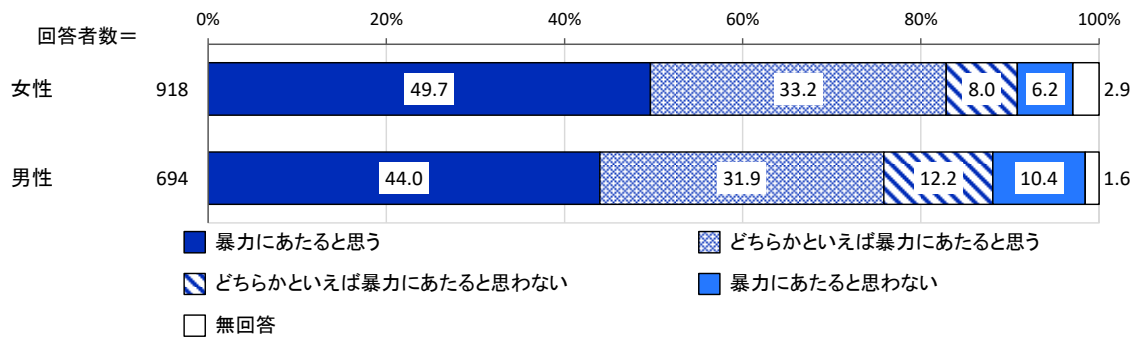


DVの認識【異性との会話を許さない】（問11(3)）

【経年比較】

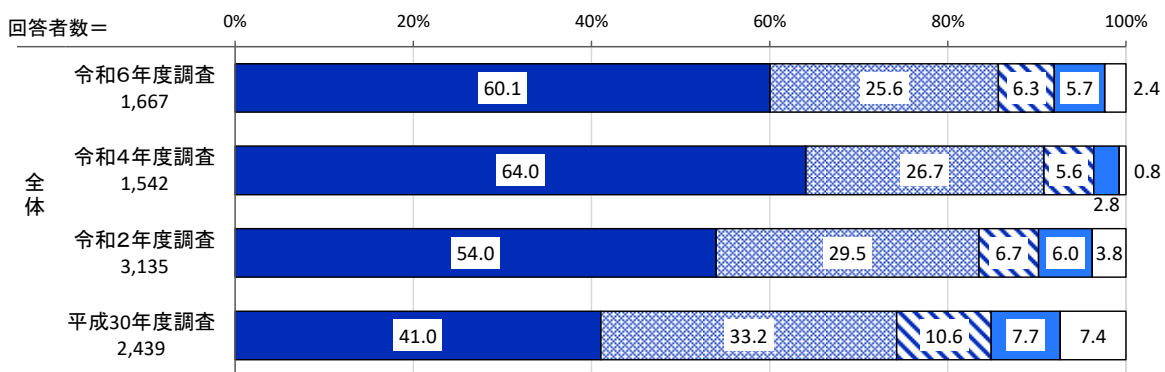


【性別】

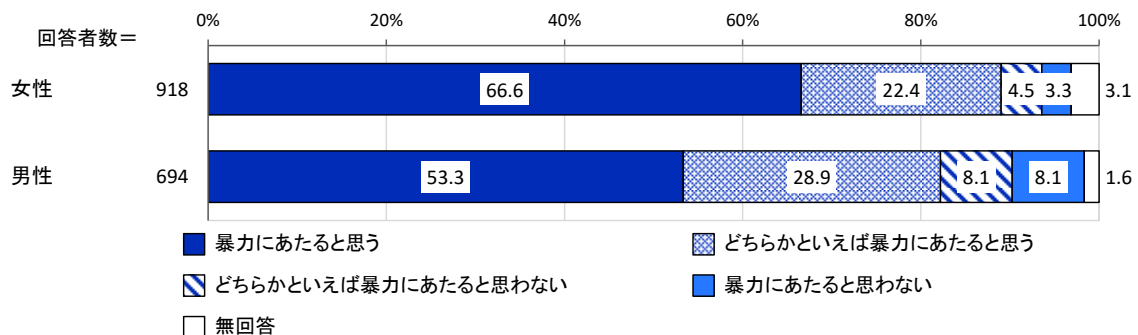


DVの認識【家族や友人との関わりを持たせない】（問11(4)）

【経年比較】

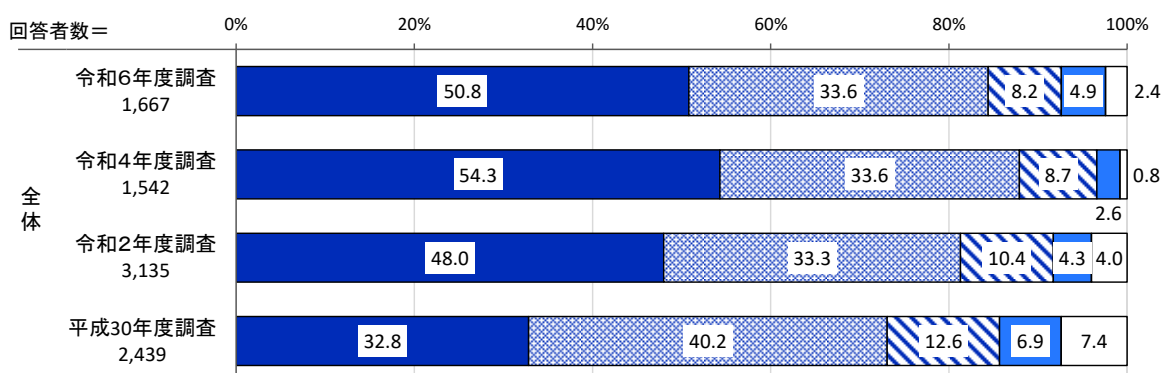


【性別】

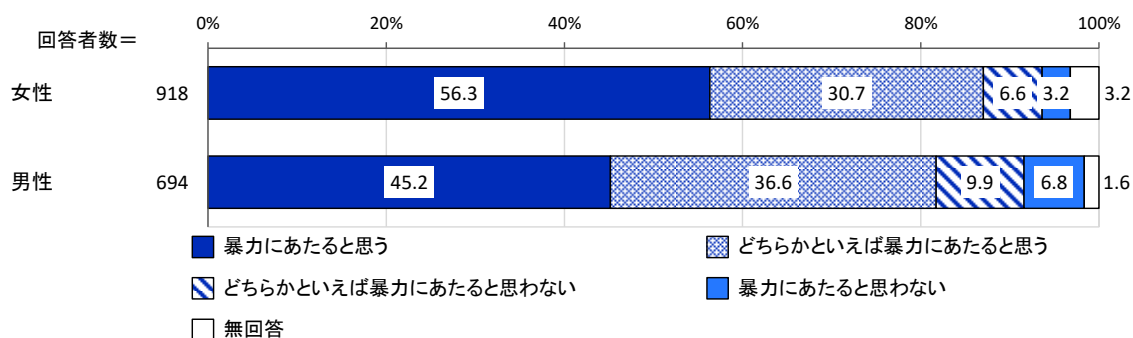


DVの認識【交友関係や行き先、電話・メールなどを細かく監視】(問11(5))

【経年比較】

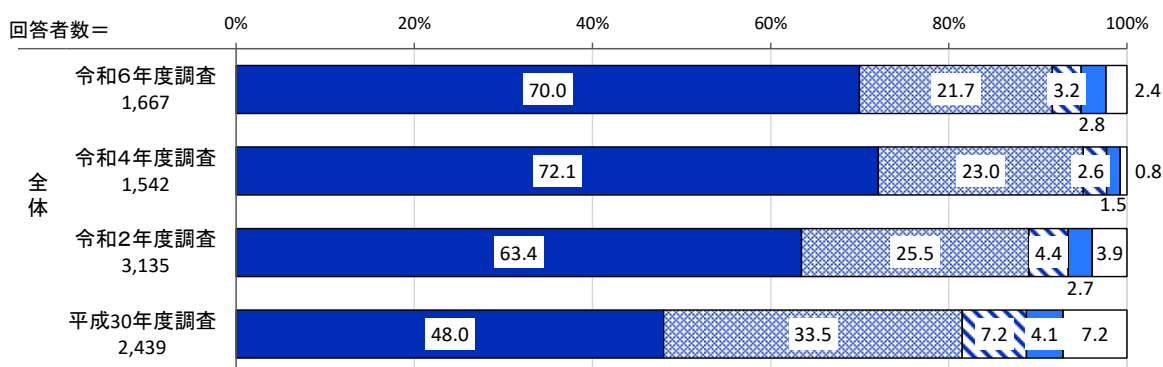


【性別】

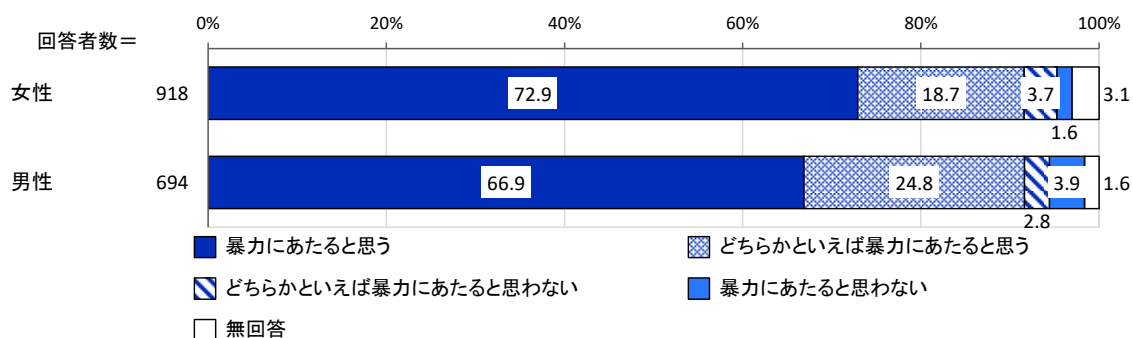


DVの認識【職場に行くことを妨害・外出先を制限】(問11(6))

【経年比較】

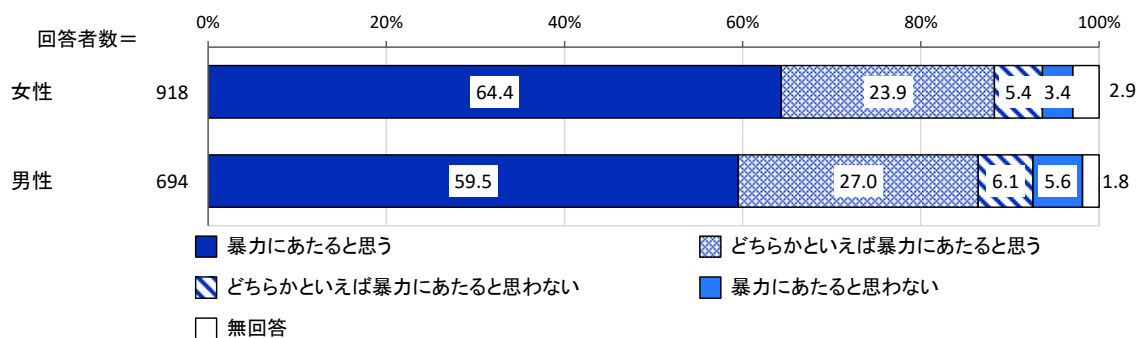


【性別】



DVの認識【何を言っても無視し続ける】(問11(7))

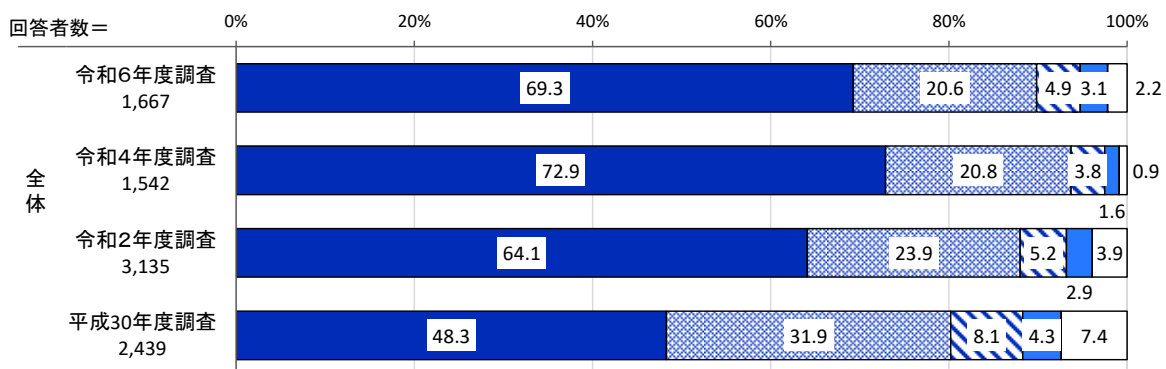
【性別】



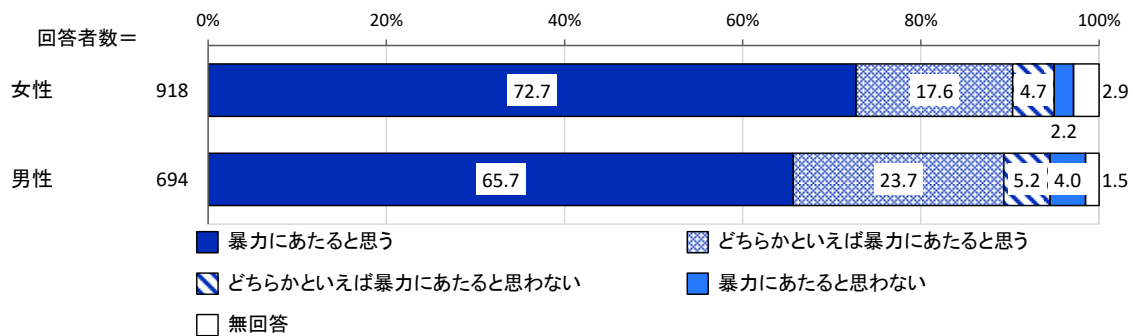
(注) 今回新たに追加した項目であり、経年比較はしていない。

DVの認識【生活費を渡さない】(問11(8))

【経年比較】

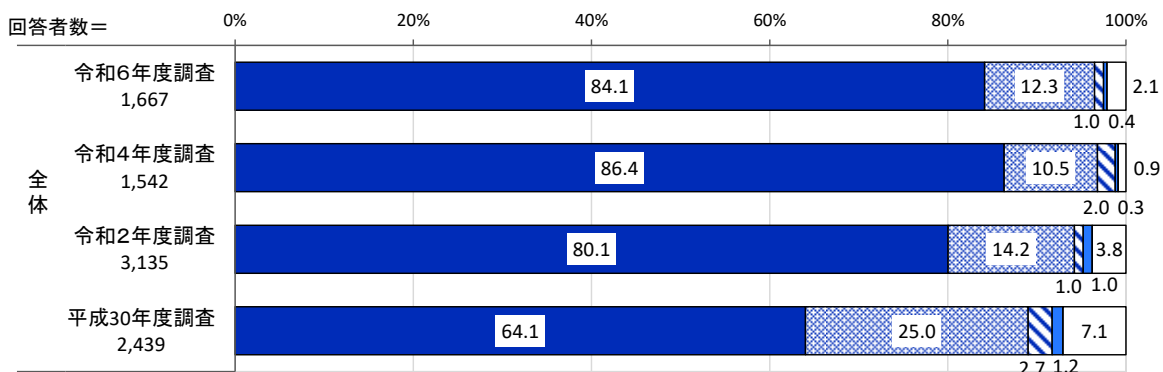


【性別】

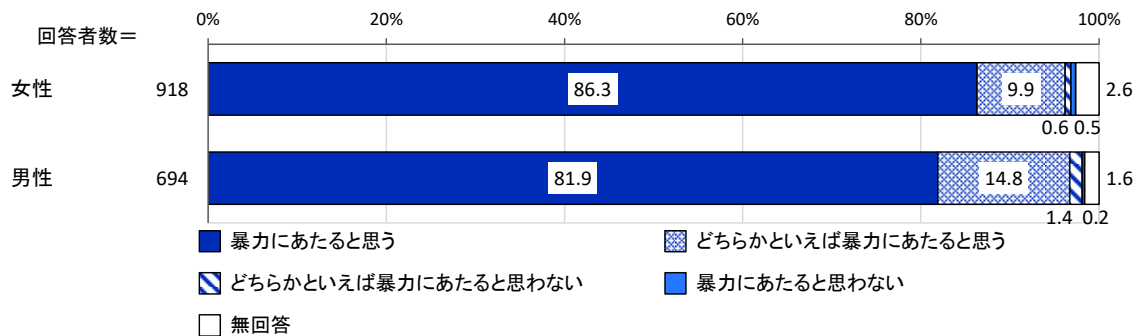


DVの認識【嫌がっているのに性的な行為を強要】（問11(9)）

【経年比較】

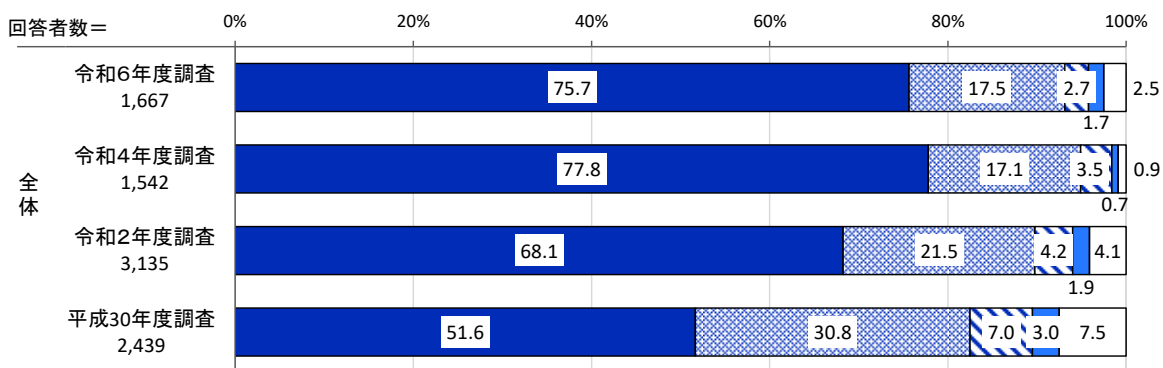


【性別】

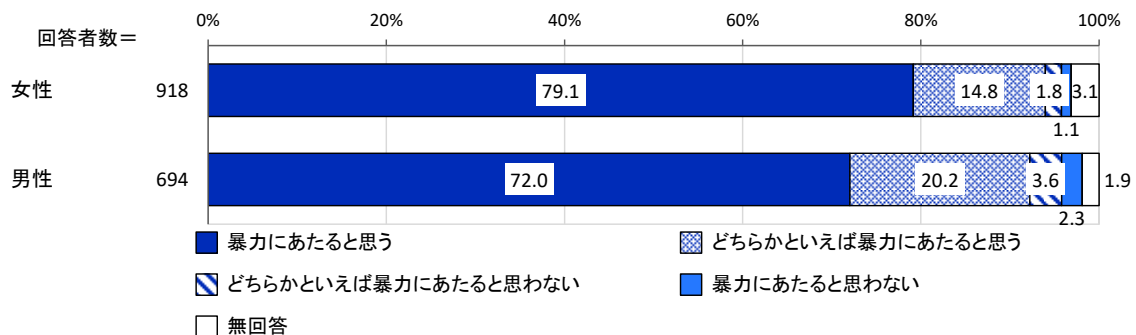


DVの認識【避妊に協力しない】（問11(10)）

【経年比較】



【性別】

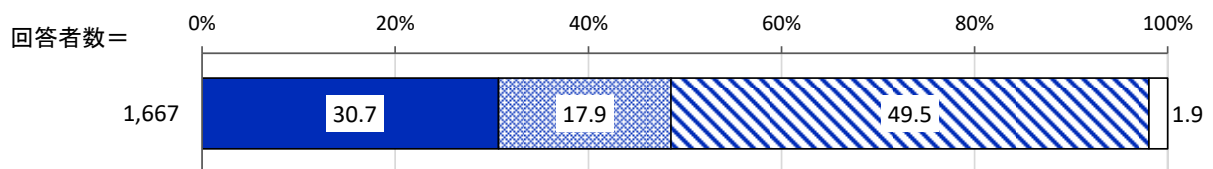


(11) デートDVの認知度

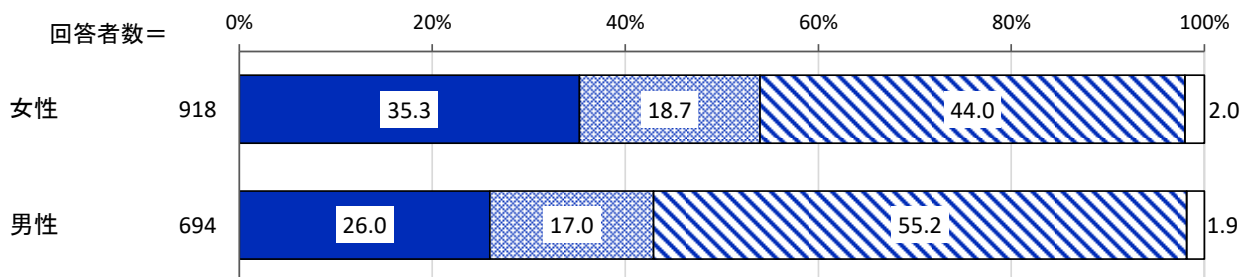
- ・「デートDV」について、「言葉を聞いたことがあり、内容も知っている」と回答したのは約3割で、約5割は「言葉を聞いたことはなく、内容も知らない」と回答している。
- ・年齢別にみると、男女ともに年齢が低くなるほど認知度が高くなる傾向にある。

デートDVの認知度（問12）

「デートDV」という言葉の認知度について、全体では「言葉を聞いたことはなく、内容も知らない」が49.5%で最も多く、次いで「言葉を聞いたことがあり、内容も知っている」(30.7%)、「言葉を聞いたことがあるが、内容は知らない」(17.9%)となっている。性別でみると「言葉を聞いたことがあり、内容も知っている」は女性(35.3%)が男性(26.0%)を9.3ポイント上回っている。



【性別】



言葉を聞いたことがあり、内容も知っている

言葉を聞いたことがあるが、内容は知らない

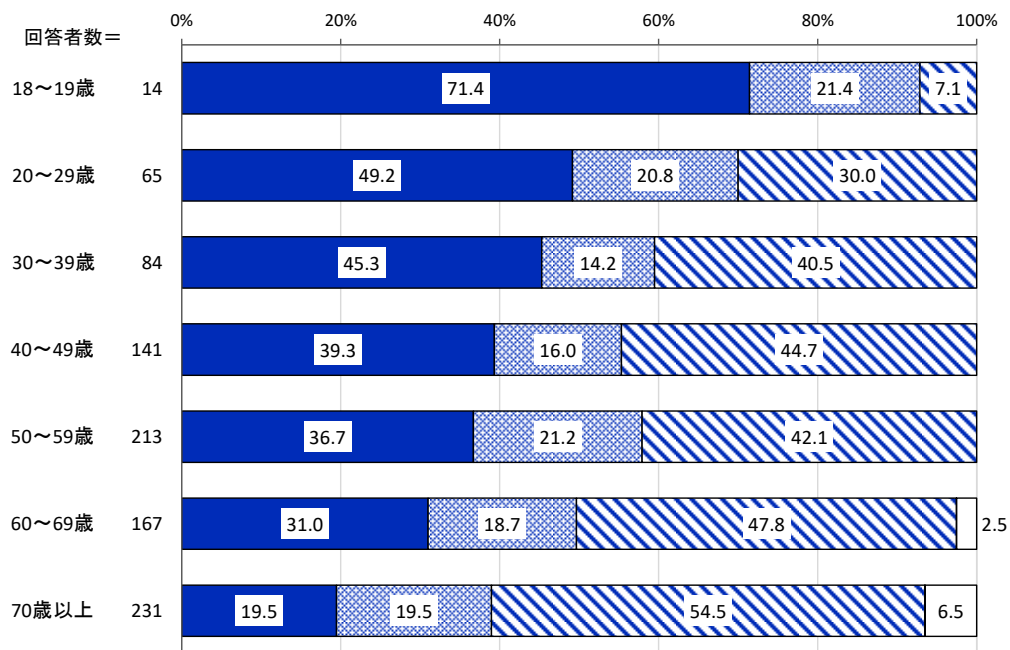
言葉を聞いたことはなく、内容も知らない

無回答

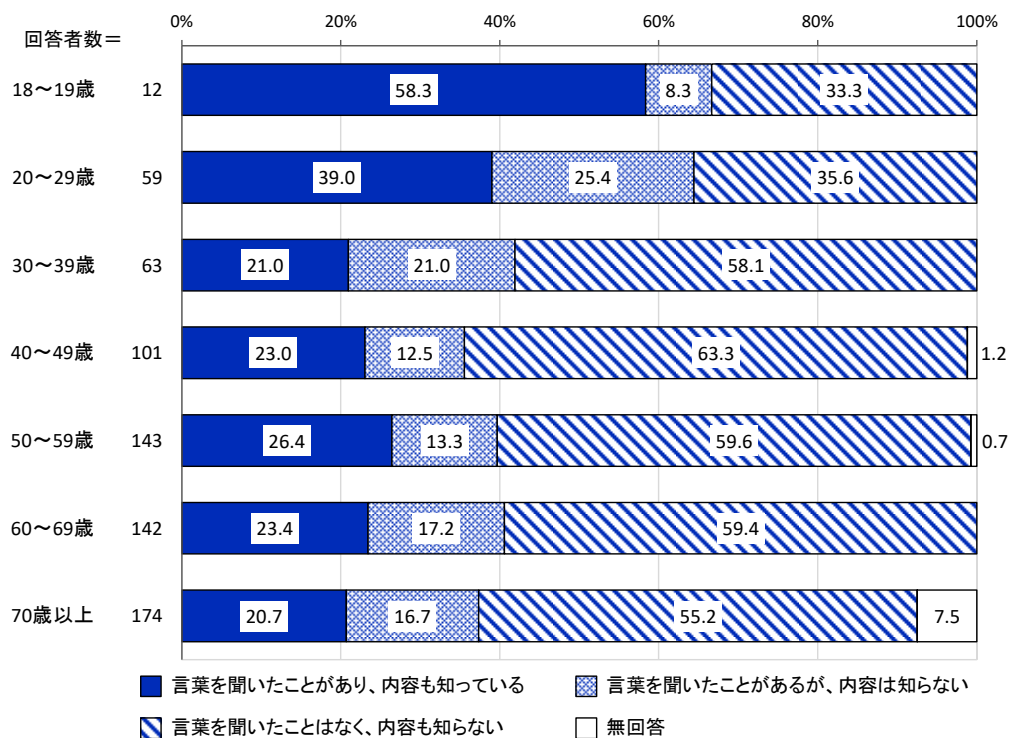
デートDVの認知度（問12）性・年齢別

「デートDV」という言葉の認知度について、性・年齢別でみると、男女ともに10代で「言葉を聞いたことがあり、内容も知っている」割合が多く、年齢が上がるにつれ「言葉を聞いたことはなく、内容も知らない」の割合が高くなる傾向にある。また、30代以上の男性では「言葉を聞いたことがあり、内容も知っている」のは2割程度にとどまっている。

【性・年齢別／女性】



【性・年齢別／男性】



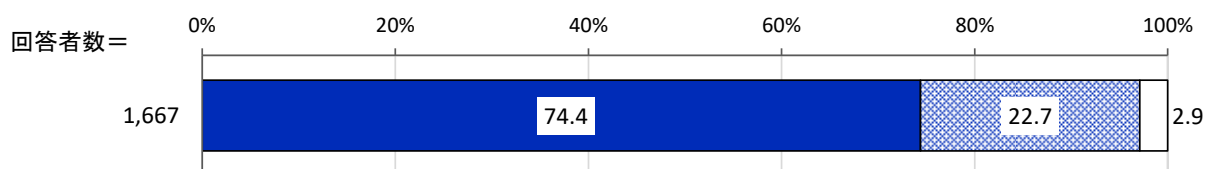
(12) DVやデートDVを受けた場合の相談意思、相談先、必要な相談体制

- ・DVなどを受けた場合、誰かに相談しようと思う割合は全体のおよそ4分の3で、女性では8割を超えている。
- ・相談先としては、「友人・知人」が51.4%で最も多く、次いで「警察」が50.0%となっている。
- ・DVなどを受けた場合に相談しない理由として、「誰（どこ）に相談してよいのかわからないから」が34.0%で最も多くなっている。
- ・相談しやすくするための体制として、半数以上が「相談窓口や利用できる支援について、もっとPRする」「安全でプライバシーの確保された場所で相談できるようにする」と回答している。

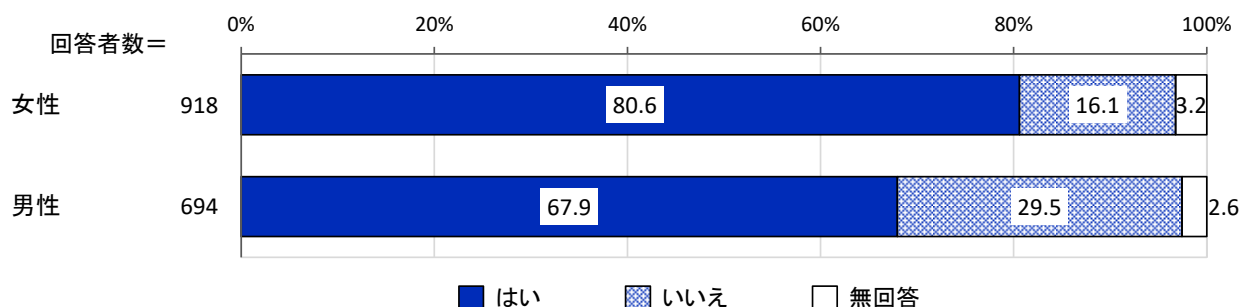
DVやデートDVを受けた場合の相談意思（問13）

配偶者やパートナーからDVやデートDVを受けた場合、誰かに相談しようと思うかとの設問に「はい」と回答した割合は全体の74.4%となっている。

「はい」と回答した割合を性別にみると、女性が80.6%、男性が67.9%と、女性のほうが12.7ポイント上回っている。



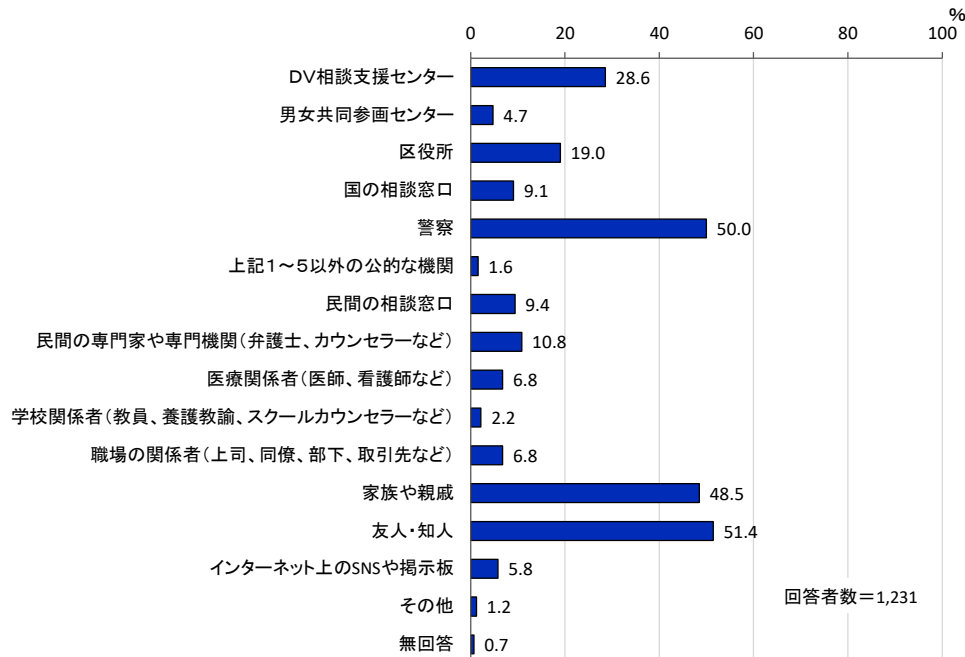
【性別】



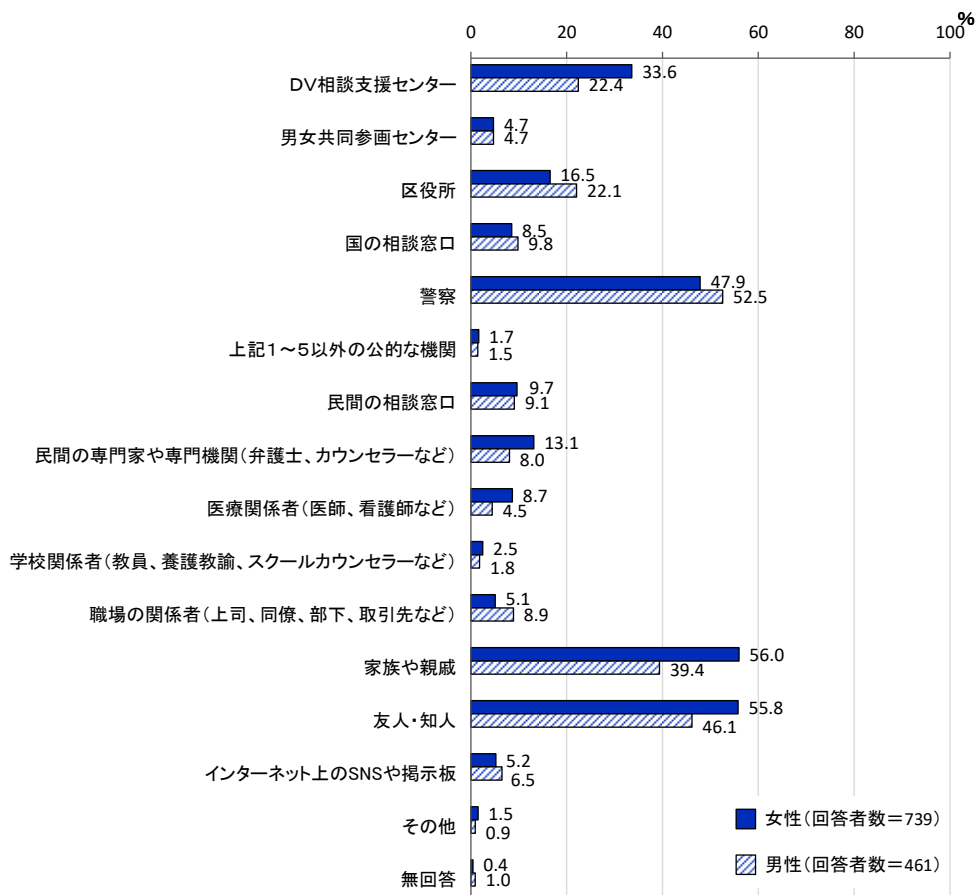
※ 今回新たに追加した設問のため、経年比較はしていない。

DVやデートDVを受けた場合の相談先（問13-1）

配偶者やパートナーからDVやデートDVを受けた場合の相談先について、全体では「友人・知人」の割合が51.4%と最も多く、次いで「警察」が50.0%となっている。性別でみると、「家族や親戚」、「友人・知人」に相談すると回答した女性の割合が高く、いずれも5割を超えている。

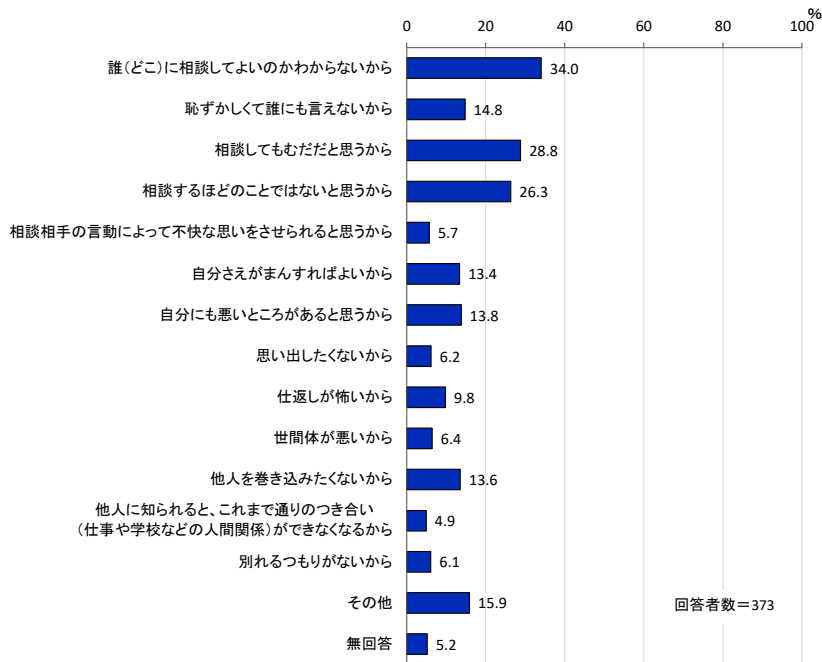


【性別】

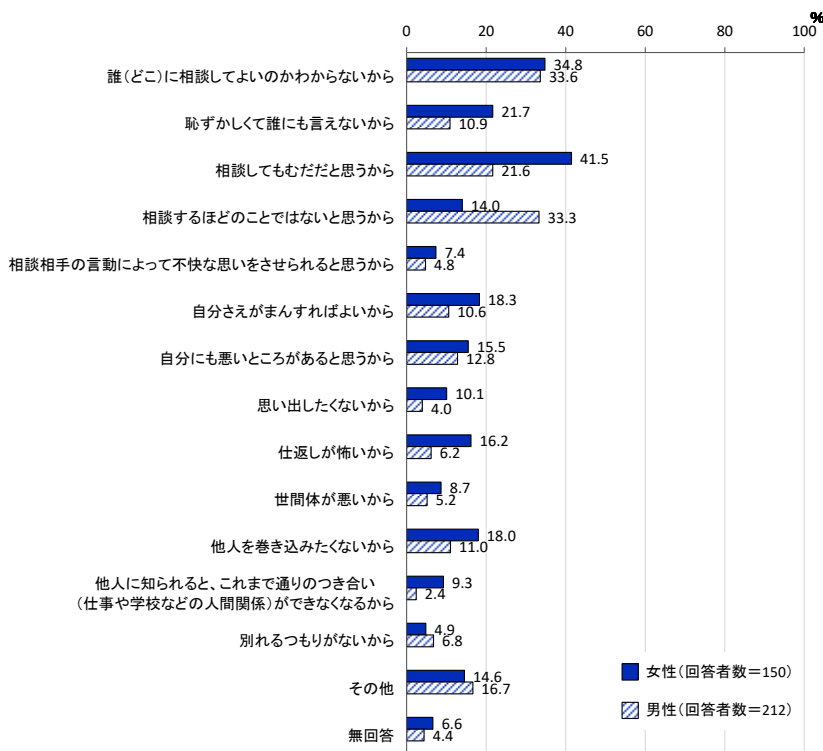


DVやデートDVを受けた場合に相談しない理由（問13-2）

DVやデートDVを受けた場合に、誰かに相談しようと思わない理由について、全体では「誰（どこ）に相談してよいのかわからないから」が34.0%と最も多く、次いで「相談してもむだだと思ふから」が28.8%、「相談するほどのことではないと思うから」が26.3%となっている。性別でみると「相談してもむだだと思ふから」は、女性（41.5%）が男性（21.6%）を19.9ポイント上回っている。一方、「相談するほどのことではないと思うから」は、男性（33.3%）が女性（14.0%）を19.3ポイント上回っている。

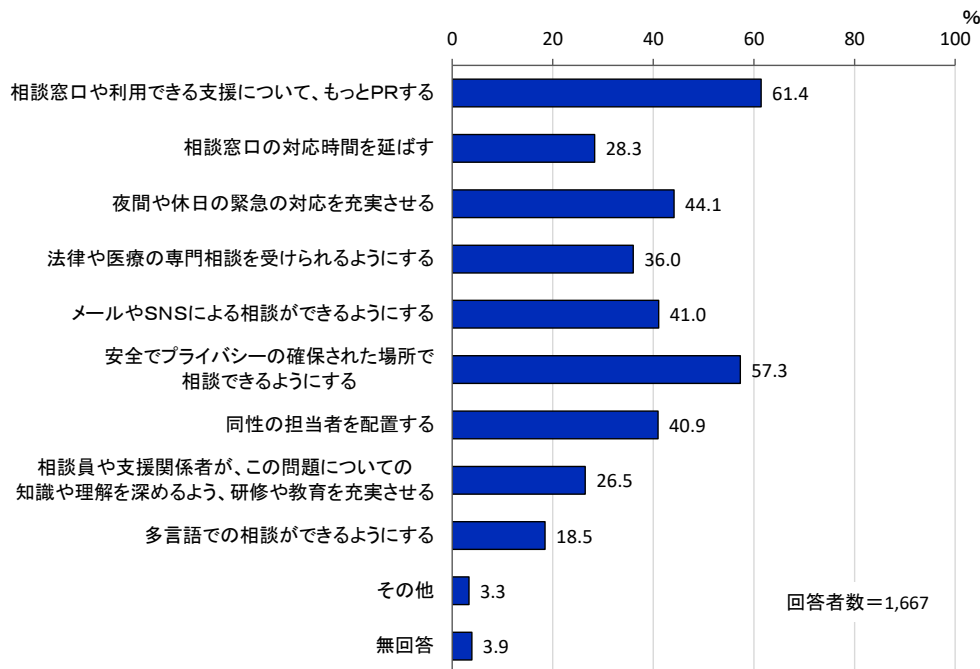


【性別】

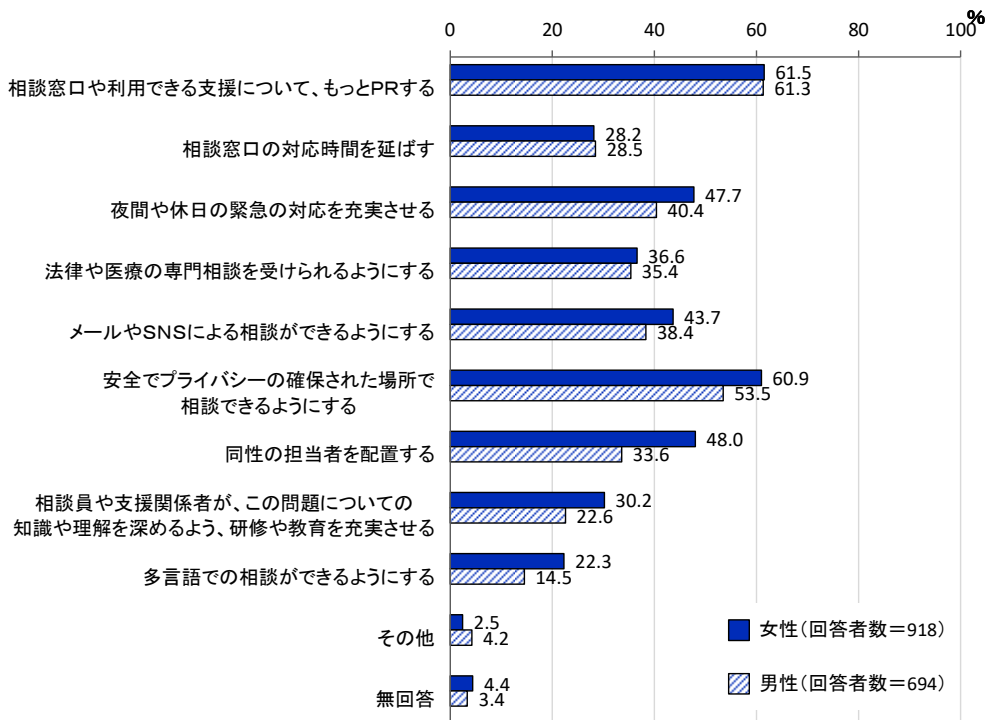


DV被害の相談をしやすくするために必要な相談体制（問 14）

DVを受けた方が相談をしやすくするために必要な相談体制について、「相談窓口や利用できる支援について、もっとPRする」が61.4%と最も多く、次いで「安全でプライバシーの確保された場所で相談できるようにする」(57.3%)、「夜間や休日の緊急の対応を充実させる」(44.1%)となっている。性別で見ると「同性の担当者を配置する」は、女性(48.0%)が男性(33.6%)を14.4ポイント上回っている。



【性別】



IV 困難な問題を抱える 女性への支援について

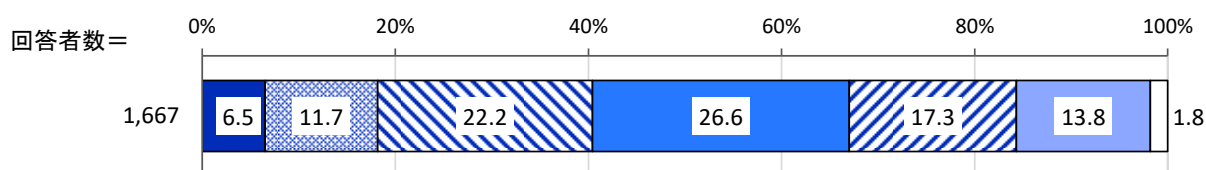
(13) 困難な問題を抱える女性への支援に対する意識

- ・悩みや課題を抱える女性を社会全体で支援できていると思うと回答した割合は18.2%、できていると思わないと回答した割合は43.9%となっている。
- ・悩みや課題を抱える女性のための窓口について知っているかとの設問に対して、「区役所（福祉保健センター）」と回答した割合は3割と最も多くなっている。一方で、5割以上が「相談できる窓口は知らない」と回答している。

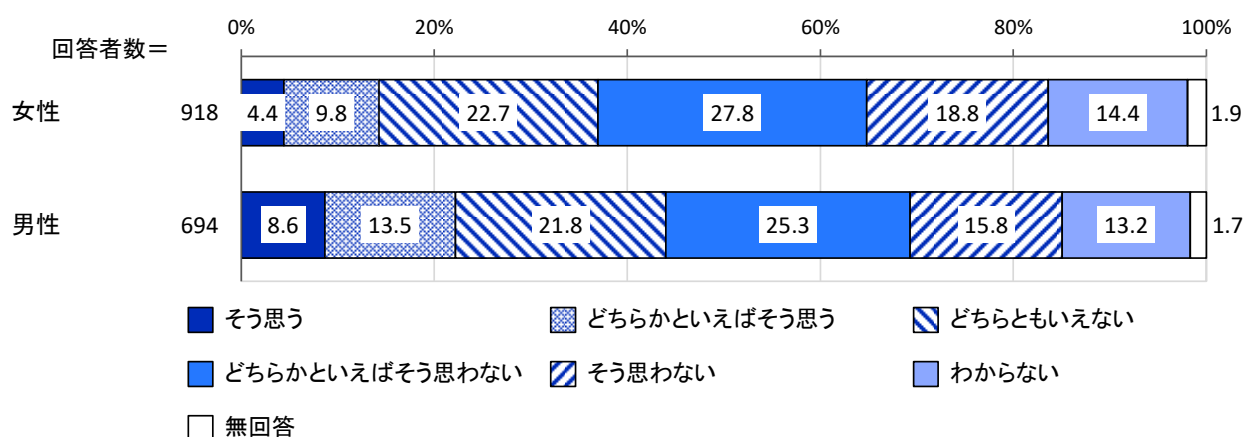
社会全体での支援ができているか（問15）】

「悩みや課題を抱える女性を社会全体で支援できていると思うか」という設問に対して、全体では“そう思う”（「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計）と回答したのは18.2%、“そう思わない”（「どちらかといえばそう思わない」と「そう思わない」の合計）と回答したのは43.9%となっている。

性別でみると、“そう思う”は男性（22.1%）が女性（14.2%）を7.9ポイント上回っており、“そう思わない”は女性（46.6%）が男性（41.1%）を5.5ポイント上回っている。



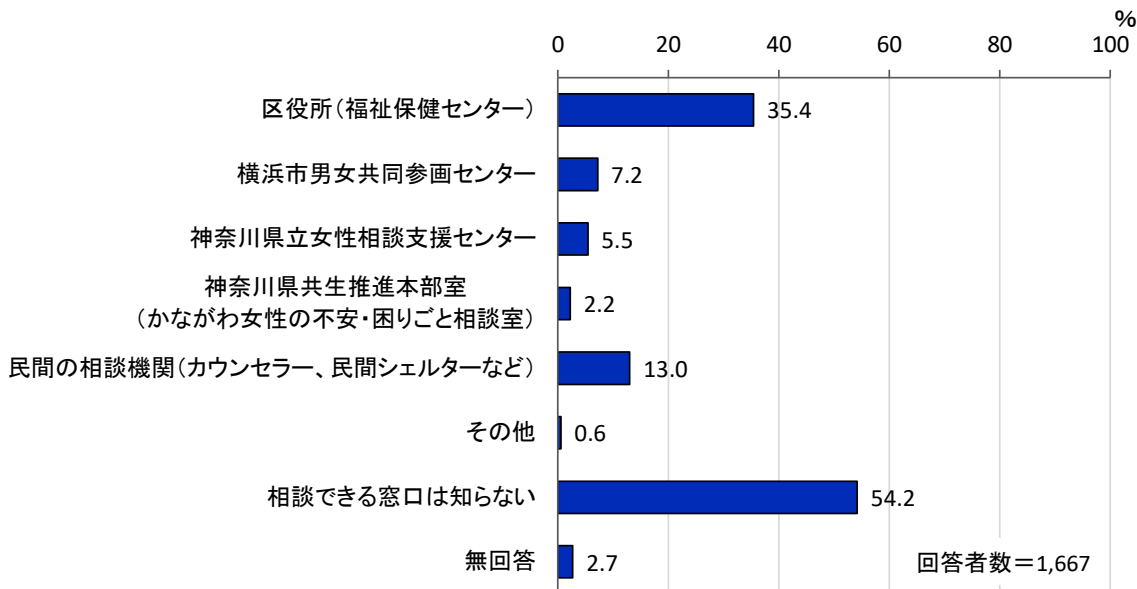
【性別】



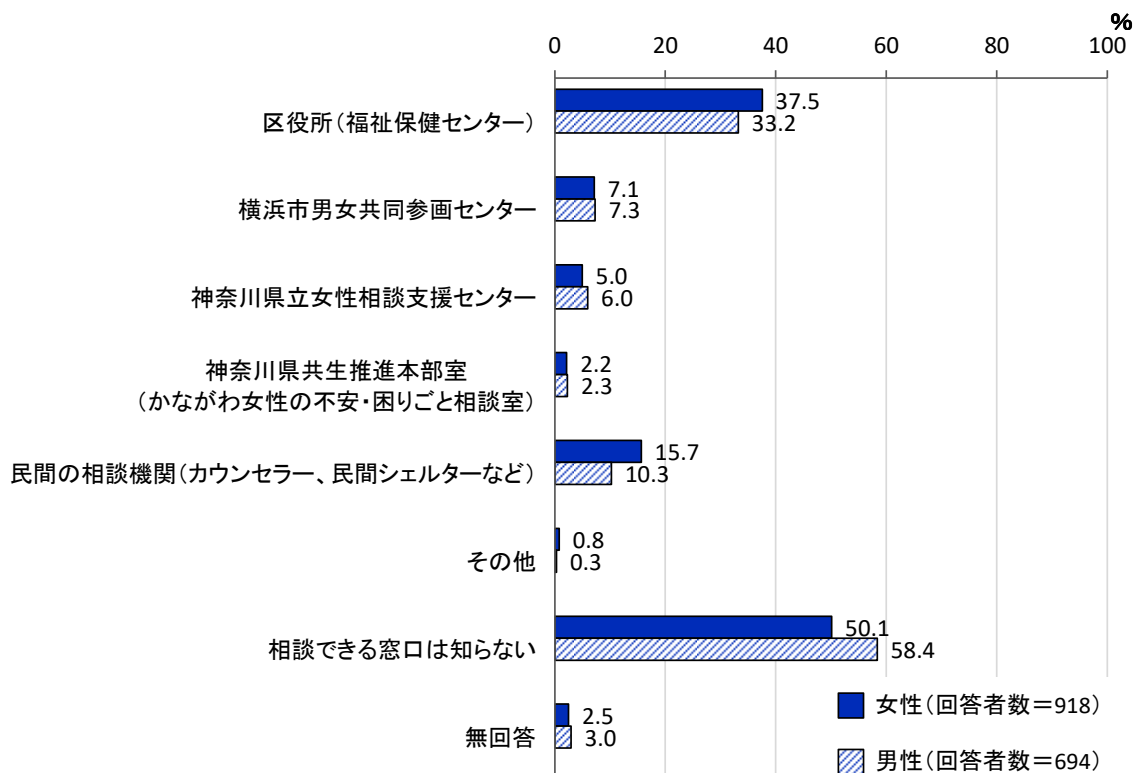
※ 今回新たに追加した設問のため、経年比較はしていない。

困難な問題を抱える女性のための相談窓口の認知度（問 16）

悩みや課題を抱える女性のための窓口について、全体では「相談できる窓口は知らない」が 54.2%と最も多く、次いで「区役所（福祉保健センター）」が 35.4%となっている。



【性別】



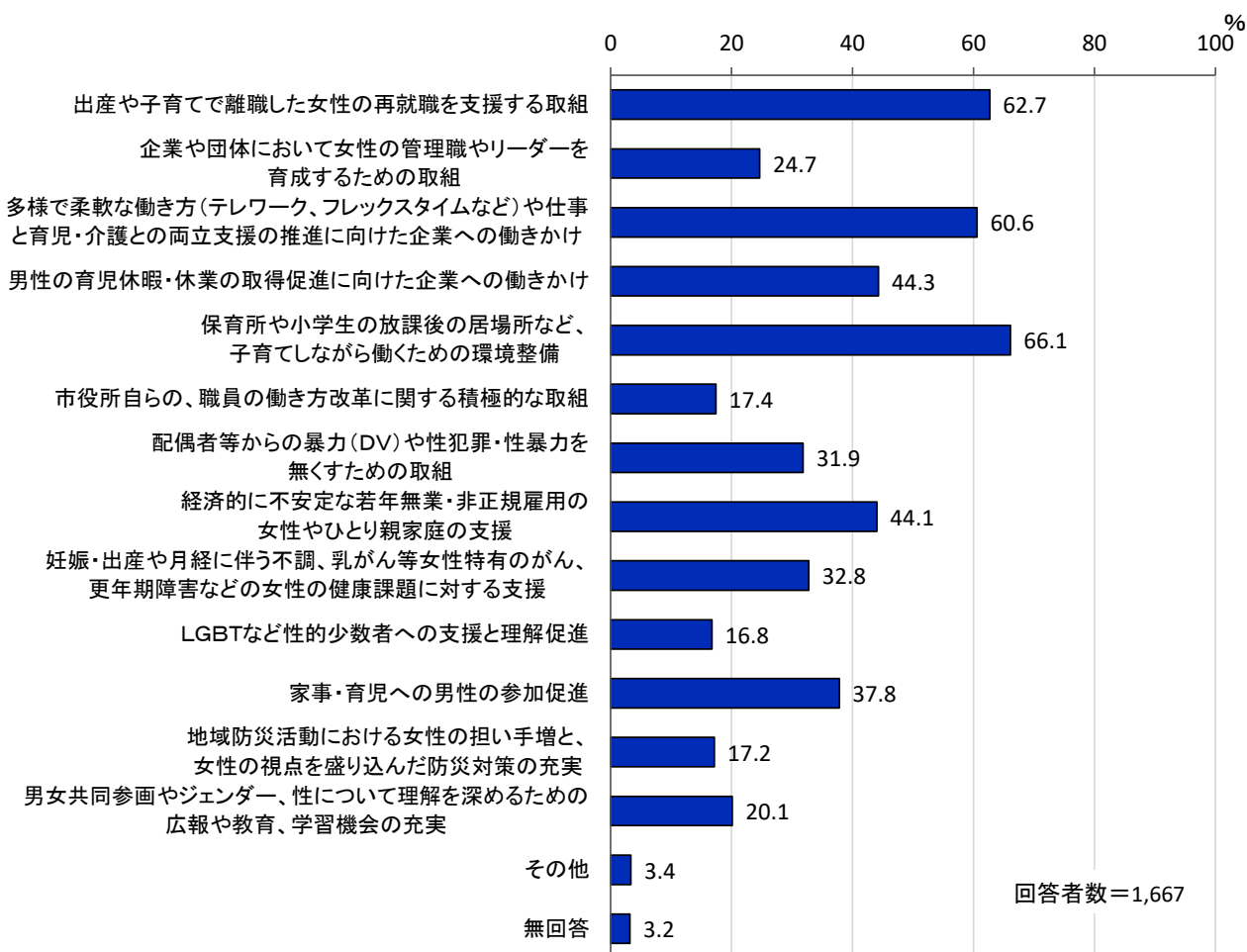
※ 今回新たに追加した設問のため、経年比較はしていない。

V 男女共同参画について

(14) 男女共同参画社会の実現に向けて横浜市が重点的に取り組むべきこと

男女共同参画社会の実現に向けて横浜市が重点的に取り組むべきこと（問 17）

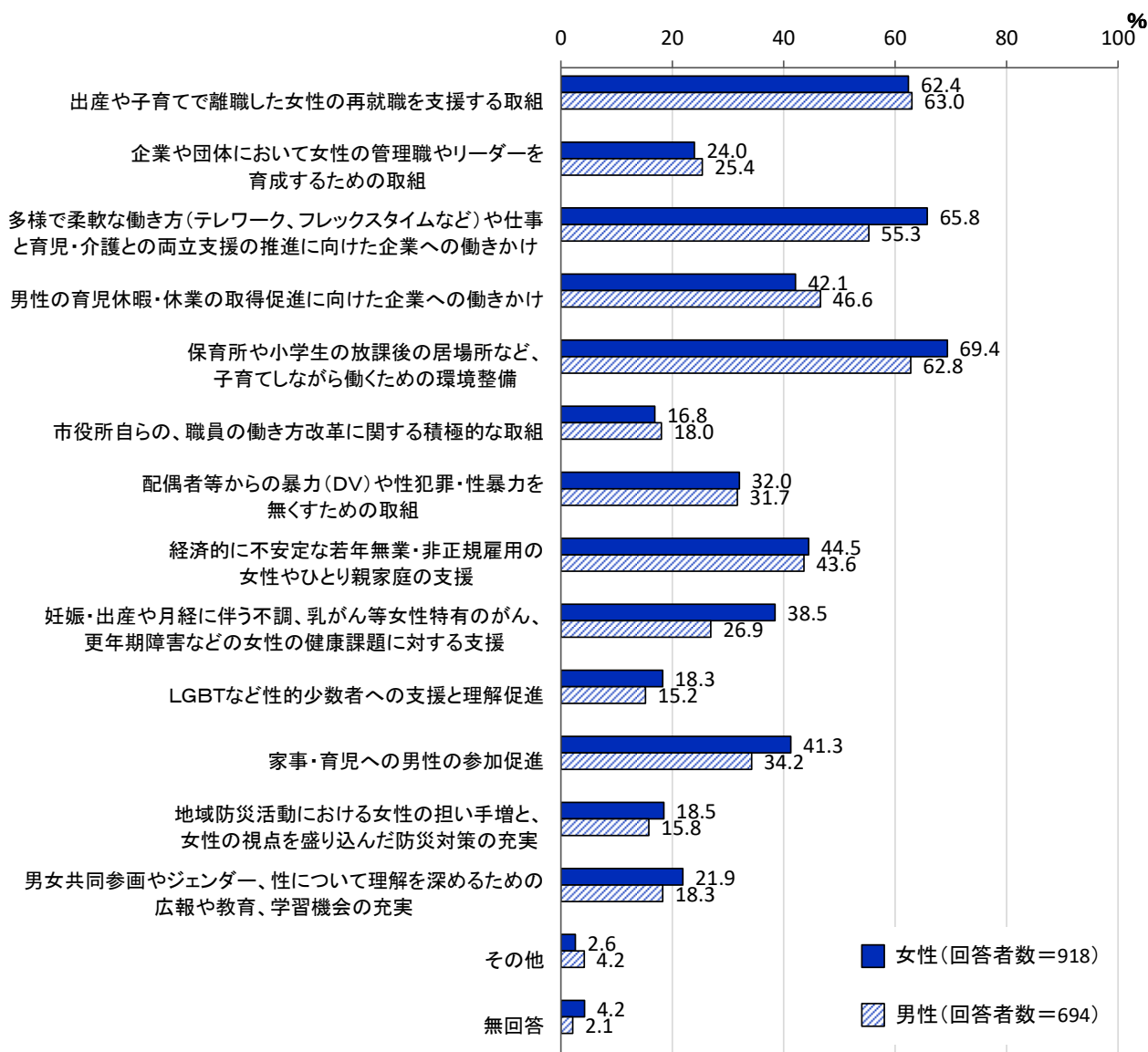
男女共同参画社会の実現に向けて横浜市が重点的に取り組むべきことについて、全体では「保育所や小学生の放課後の居場所など、子育てしながら働くための環境整備」が66.1%と最も多く、次いで「出産や子育てで離職した女性の再就職を支援する取組」（62.7%）、「多様で柔軟な働き方や仕事と育児・介護との両立支援の推進に向けた企業への働きかけ」（60.6%）となっている。



男女共同参画社会の実現に向けて横浜市が重点的に取り組むべきこと（問 17）性別

男女共同参画社会の実現に向けて横浜市が重点的に取り組むべきことについて、性別でみると、「妊娠・出産や月経に伴う不調、乳がん等女性特有のがん、更年期障害などの女性の健康課題に対する支援」は、女性（38.5%）が男性（26.9%）を 11.6 ポイント上回り、「多様で柔軟な働き方や仕事と育児・介護との両立支援の推進に向けた企業への働きかけ」は、女性（65.8%）が男性（55.3%）を 10.5 ポイント上回っている。

【性別】



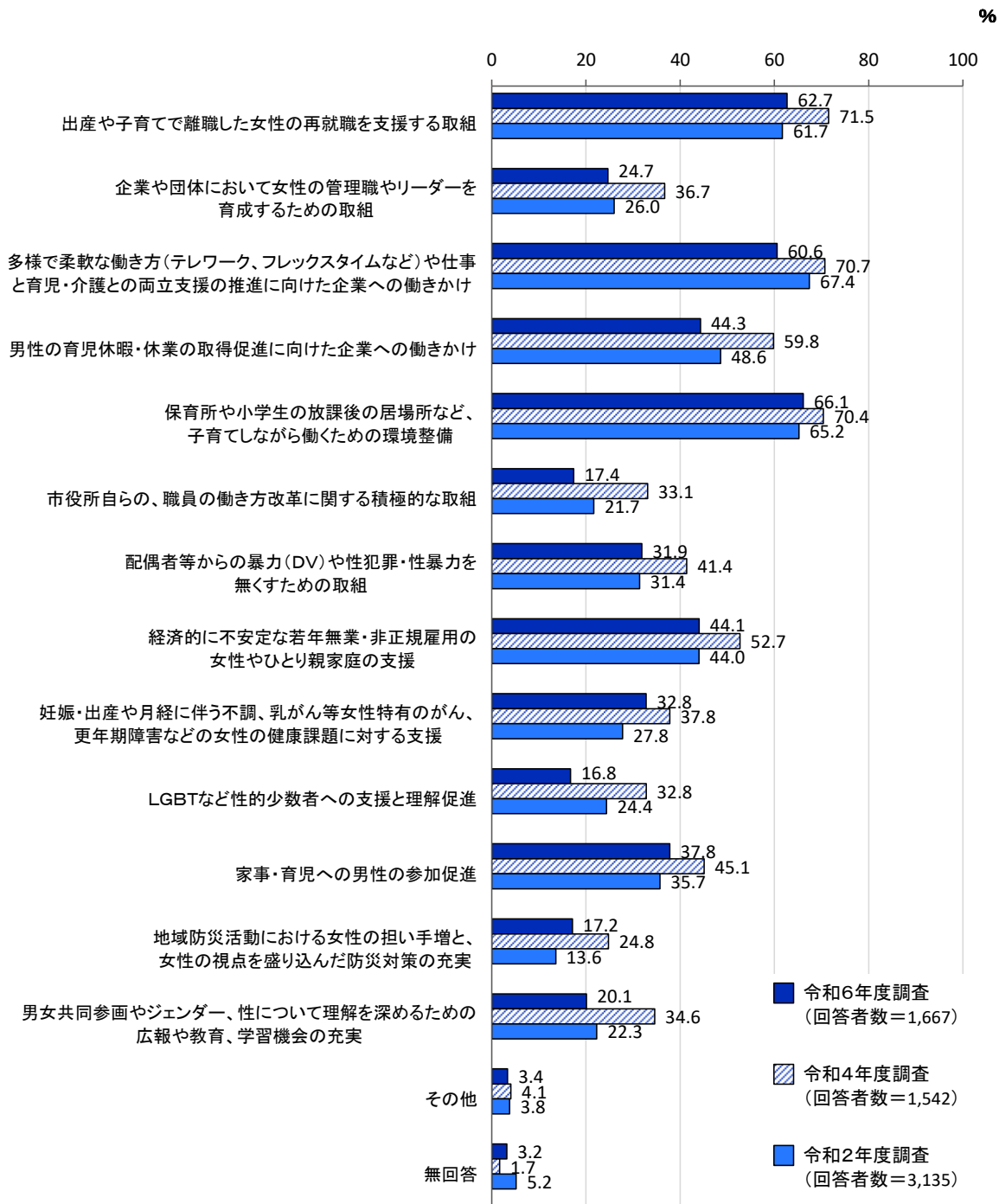
男女共同参画社会の実現に向けて横浜市が重点的に取り組むべきこと（問17）経年比較／全体

【経年比較／全体】

※本設問を設定した令和2年度以降の結果を比較している。

※今回から内容を変更した選択肢は、参考に前回（令和4年度）調査の選択肢で、内容が近いものと比較している。

- ・「妊娠・出産や月経に伴う不調、乳がん等女性特有のがん、更年期障害などの女性の健康課題に対する支援」については、前回までの選択肢「産前産後支援や女性特有のがん対策など、ライフステージに応じた女性の健康支援」と比較している。
- ・「家事・育児への男性の参加促進」については、前回までの選択肢「男性が家事・育児に積極的に関わる機会づくり」と比較している。



令和6年度 横浜市男女共同参画に関する市民意識調査 調査票

横浜市では、「横浜市男女共同参画行動計画」に基づき、男女共同参画社会の実現に向けた施策の推進に取り組んでいます。

この調査は、男女共同参画に関する市民の皆様の考えをお伺いし、横浜市の施策をさらに進めるための基礎資料とすることを目的に実施するものです。

調査の趣旨をご理解いただき、ご協力くださいますようお願い申し上げます。

以下のいずれかの方法で回答してください。回答に要する時間は10分程度です。

① インターネットから回答



1 右の二次元コードから回答フォームにアクセス
(または「横浜市電子申請・届出システム」キーワード検索で「男女共同参画」と検索)

2 フォームに次の「整理番号」を入力して、ご回答をお願いいたします

整理番号

ご回答は、10月8日(火)まで をお願いいたします。

② 調査票に記入してポストに投函

調査票に記入

同封の返信用封筒
(切手不要)に入れる

ポストに投函
(10/8まで)



【お問合せ先】

株式会社ジャンボ (調査受託会社)
電話：0120-122-689 (平日10:00~17:00)
メール：survey-yokohama@jmba.jp

【調査企画】

横浜市政策経営局男女共同参画推進課
電話：045-671-2017 (平日8:45~17:15)
メール：ss-danjo@city.yokohama.lg.jp

よくあるご質問

■個人情報の取扱いについて

Q 調査依頼が自分に届いたのはなぜですか？

A 今回の調査にご協力をお願いしているのは、横浜市にお住まいの18歳以上の方5,000人です。住民基本台帳から無作為に抽出した皆様に調査票をお送りしています。

Q 回答することで自分の情報が漏えいすることはありませんか？

A 調査票には「質問に対する回答」と「性別や年代など分析に必要な項目」のみを記入していただきます。調査票を返送することで、個人が特定されることはありません。調査票や返信用封筒には、名前や住所などの情報は一切書かずにご返送ください。

Q 整理番号を入力することで、個人が特定されませんか？

A 整理番号は、重複回答を避けるためのものです。個人情報とは紐づけられていないため、整理番号により個人が特定されることはありません。

■その他

Q 回答した結果はどう使われるのですか？

A いただいた回答は、すべて数値に置き換え、統計的に処理した上で、集計結果を公表します。調査結果から分かる市民の皆様の意識・お考えを、今後の横浜市の施策に役立ててまいります。

Q 回答しなくてもいいですか？

A 今回の調査は任意でご協力いただくものですが、より充実した意識調査とするために、1人でも多くの方にご回答いただきたいと考えております。調査の趣旨をご理解いただき、ご協力くださいますようお願い申し上げます。

- ・この調査は、あなた（あて名の方）ご自身のお考えでご記入ください。
- ・回答は、特に説明のない限り、あてはまる項目を選び、番号を○で囲んでください。
- ・一部の方だけにお答えいただく設問もありますので、その場合は【 】内の注意書きにしたがってお答えください。

I 男女の役割・地位に関する意識について

問1 あなたは、次の（１）～（８）の各分野で、男女の地位は平等になっていると思いますか。

（１）～（８）それぞれについて、あてはまる選択肢に１つだけ○をつけてください。

分野	選択肢						
	男性の方が優遇されている	どちらかといえば男性の方が優遇されている	ほぼ平等になっている	完全に平等になっている	どちらかといえば女性の方が優遇されている	女性の方が優遇されている	わからない
（１）家庭生活で	1	2	3	4	5	6	7
（２）就職活動の場で	1	2	3	4	5	6	7
（３）職場で	1	2	3	4	5	6	7
（４）学校教育の場で	1	2	3	4	5	6	7
（５）自治会や PTA などの地域活動の場で	1	2	3	4	5	6	7
（６）政治の場で	1	2	3	4	5	6	7
（７）法律や制度の上で	1	2	3	4	5	6	7
（８）社会通念・慣習・しきたりなどで	1	2	3	4	5	6	7

問2 あなたは、「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という意見についてどのように思いますか。（○は1つ）

- | | |
|---------------|----------|
| 1. 賛成 | 4. 反対 |
| 2. どちらかといえば賛成 | 5. わからない |
| 3. どちらかといえば反対 | |

【問2で「賛成」「どちらかといえば賛成」とお答えの方に伺います。】

問2-1 そう考えるのはどのような理由ですか。（○はいくつでも）

- | |
|----------------------------------|
| 1. 日本の伝統的な家族の在り方だと思うから |
| 2. 自分の両親も役割分担をしていたから |
| 3. 夫が外で働いていた方が、多くの収入を得られると思うから |
| 4. 妻が家庭を守った方が、子供の成長などにとって良いと思うから |
| 5. 家事・育児・介護と両立して働き続けることは大変だと思うから |
| 6. 特にない |
| 7. わからない |
| 8. その他（ ） |

【問2で「どちらかといえば反対」「反対」とお答えの方に伺います。】

問2-2 そう考えるのはどのような理由ですか。（○はいくつでも）

- | |
|------------------------------------|
| 1. 男女平等に反すると思うから |
| 2. 自分の両親も外で働いていたから |
| 3. 夫も妻も働いた方が、多くの収入が得られると思うから |
| 4. 妻が働いて能力を発揮した方が、個人や社会にとって良いと思うから |
| 5. 家事・育児・介護と両立して働き続けることは可能だと思うから |
| 6. 固定的な夫と妻の役割分担の意識を押しつけるべきではないから |
| 7. 特にない |
| 8. わからない |
| 9. その他（ ） |

問3 日常生活で、「女らしさ／男らしさ」や「女性／男性の役割」などを言われたり期待されたりすることはありますか。または、これまでにありましたか。（○は1つ）

- | | | |
|----------------|----------------------|-------------|
| 1. よくある（よくあった） | 2. たまにある
（たまにあった） | 3. ない（なかった） |
|----------------|----------------------|-------------|

【問3で「1.よくある（よくあった）」「2.たまにある（たまにあった）」と
お答えの方に伺います。】

問3-1 言われたり期待されたりしたのはどのような場ですか。（○はいくつでも）

- | | | |
|-------|----------|--------------|
| 1. 家庭 | 4. 友人関係 | 7. メディアや広告など |
| 2. 職場 | 5. 地域・近隣 | 8. その他 |
| 3. 学校 | 6. 親族関係 | （ ） |

問3-2 それはどのような内容ですか。（○はいくつでも）

- | | |
|---------------------|---------------------|
| 1. 言葉づかい | 8. 趣味やスポーツ |
| 2. 容姿（顔立ち、体つきなど） | 9. 家事・育児・介護 |
| 3. 服装や身だしなみ | 10. 働き方や仕事内容 |
| 4. 行動の仕方 | 11. お金（収入や支出に関すること） |
| 5. 感情表現（泣く、怒るなど） | 12. その他 |
| 6. 進学、進路選択 | （ ） |
| 7. ライフイベント（結婚、出産など） | |

問3-3 「女らしさ／男らしさ」や「女性／男性の役割」などを言われたり期待されたりすることに、不都合さや不快感、生きづらさを感じますか。（○は1つ）

- | | |
|-----------|------------|
| 1. 感じる | 3. あまり感じない |
| 2. たまに感じる | 4. 感じない |

問3-4 「女の子／男の子らしさ」や「女性／男性の役割」を言われたことが、あなたの生き方に影響していると思いますか。（○は1つ）

- | | |
|-----------|---------------|
| 1. 影響した | 3. あまり影響しなかった |
| 2. 少し影響した | 4. 影響しなかった |

Ⅱ 家庭生活・仕事における男女共同参画について

問4 日頃の生活の中で各活動に費やしている時間はどのくらいですか。(1)～(3)の合計が24時間になるように、□の中に数字を記入してください。

※該当がない項目には「0」を記入してください。

	仕事や学校のある日				休みの日・仕事や学校のない日			
(1) 仕事・学校 (通勤・通学時間を含む)	□	時間	□	分				
(2) 家事・育児・介護	□	時間	□	分				
(3) その他 (個人の時間、睡眠時間等)	□	時間	□	分	□	時間	□	分
合計	24	時間	00	分	24	時間	00	分

問5 家事、育児、介護などの家庭における役割の分担について伺います。

(1) 配偶者やパートナーの有無や、家事、育児、介護などをしている、していないに関わらず、あなたが理想とする分担をお答えください。(○は1つ)

1. 配偶者等がすべて担う
2. 配偶者の方がかなり多く担う(あなたが1～2割、配偶者等が8～9割)
3. 配偶者の方がやや多く担う(あなたが3～4割、配偶者等が6～7割)
4. あなたと配偶者が同じ割合で担う(あなたが5割、配偶者等が5割)
5. あなたの方がやや多く担う(あなたが6～7割、配偶者等が3～4割)
6. あなたの方がかなり多く担う(あなたが8～9割、配偶者等が1～2割)
7. あなたがすべて担う

(2) 【配偶者やパートナーと同居している方に伺います。】

実際に、どのように家事、育児、介護などを分担していますか。(○は1つ)

なお、同居親族や外部の支援サービスが担う役割は含まずにお答えください。

1. 配偶者等がすべて担っている
2. 配偶者の方がかなり多く担っている(あなたが1～2割、配偶者等が8～9割)
3. 配偶者の方がやや多く担っている(あなたが3～4割、配偶者等が6～7割)
4. あなたと配偶者が同じ割合で担っている(あなたが5割、配偶者等が5割)
5. あなたの方がやや多く担っている(あなたが6～7割、配偶者等が3～4割)
6. あなたの方がかなり多く担っている(あなたが8～9割、配偶者等が1～2割)
7. あなたがすべて担っている

(○はいくつでも)

1. 本人・配偶者等の父または母	4. 外部支援サービス（家事育児代行、介護サービス等、民間を含む）
2. 本人・配偶者等の兄弟姉妹	5. その他（ ）
3. 上記1・2以外の親族	6. 本人・配偶者等以外にいない

1. 賛成	4. 反対
2. どちらかというと賛成	5. わからない
3. どちらかというと反対	

1. 社会全体の理解が進むと思うから
2. 少子化対策のために必要だと思うから
3. 配偶者等の家事・育児・介護の負担を軽減できると思うから
4. 就業継続を希望する女性が働き続けられると思うから
5. 子どもの成長に良い影響を与えると思うから
6. 企業が組織改革をするために必要だと思うから
7. 育休等を取得後、（男性の）働き方に好影響を与えると思うから
8. その他（ ）

1. 代替要員の確保が難しいから
2. 育休を取得する従業員以外の負担が大きくなるから
3. 企業の生産性が低下するから
4. 男性の仕事の評価や配属に影響するから
5. 男性より女性が取べきであるから
6. 育児は女性の方が向いているから
7. その他（ ）

問7 2人以上が勤務する職場で働く方に伺います。

あなたの職場で女性の登用を進める上で、どのような課題がありますか。課題だと思われるものを選択してください。（○はいくつでも）

1. 昇進を望んでいない女性が多い
2. 必要な知識や経験、判断力等を有する女性がいらない
3. 女性のキャリアアップに関する管理職の意欲や理解が足りない
4. 既に女性管理職が十分在職している
5. ワーク・ライフ・バランスに取り組む職場づくりが進んでいない
6. 職場が男性中心の組織風土である
7. 男性の家事・育児参画を進めるための後押しが不十分である
8. 女性を登用するためのキャリア形成支援が不十分である
9. 課題はない
10. その他（ ）

問8 あなたは、この3年の間に職場で、セクシュアル・ハラスメントやマタニティ・ハラスメントと思う行為を受けた経験がありますか。（○は1つ）

- | | |
|-------------|-------------|
| 1. 受けたことがある | 2. 受けたことはない |
|-------------|-------------|

【問8で「1.受けたことがある」とお答えの方に伺います。】

問8-1 それはどのような行為ですか。すべてお答えください。（○はいくつでも）

1. 「女のくせに」「女だから」または「男のくせに」「男だから」などと言われた
2. 酒席などでお酌等を強要された
3. 異性との交際、結婚や出産など、プライベートについて不必要に聞かれた
4. 容姿や年齢について不必要に話題にされた
5. 性的な話や冗談を聞かされた
6. 性的な噂を立てられた
7. 不必要に身体を触られた
8. 性的な内容の手紙やメール、電話、SNSでのメッセージ等を受けた
9. 交際・性的な関係を強要された
10. 性別を理由として不本意な服装等を強制された
11. 妊娠・出産・育児休業等に関して否定的なことを言われた
12. 妊娠・出産・育児休業等を理由として不当な扱いを受けた
13. その他（ ）

問9 地域活動において、リーダーや役員にもっと女性の参画が必要だと思いますか。
(○は1つ)

1. そう思う

2. そう思わない

【問9で「1. そう思う」とお答えの方に伺います。】

問9-1 そう考える地域活動は何ですか。(○はいくつでも)

1. まちづくり (例: 地域の課題解決や魅力づくり、コミュニティ活性化)
2. 健康福祉 (例: 高齢者・障害者支援、健康づくり)
3. こども・青少年 (例: 子育て支援、青少年支援、遊び場・居場所づくり)
4. 文化・スポーツ (例: 文化・芸術・スポーツ振興)
5. 防災活動 (例: 防災訓練、災害対策)
6. 防犯活動 (例: 防犯パトロール)
7. 環境 (例: 清掃、緑地保存、温暖化対策)
8. その他 ()

Ⅲ DV（配偶者等からの暴力）について

問10 あなたは、配偶者等からの暴力について相談できる窓口を知っていますか。
次の中で知っているものに○を付けてください。（○はいくつでも）

1. 横浜市DV相談支援センター	6. 横浜市男女共同参画センター
2. 神奈川県配偶者暴力相談支援センター	7. 民間の相談機関（カウンセラー、民間シェルターなど）
3. 国の相談窓口（DV相談＋（プラス））	8. 法務局（女性の人権ホットライン）
4. 警察	9. その他（ ）
5. 区役所（こども家庭支援課）	10. 相談できる窓口は知らない

問11 あなたは、次のようなことが配偶者等や交際相手の間で行われた場合、それを暴力だと思いますか。（1）～（10）それぞれについてお答えください。（それぞれ○は1つ）

	暴力にあたると思う	どちらかといえば暴力にあたると思う	どちらかといえば暴力にあたると思わない	暴力にあたると思わない
（1）平手で打つ、足で蹴る、身体を傷つける可能性のある物で殴る	1	2	3	4
（2）殴るふりをして脅す	1	2	3	4
（3）他の異性との会話を許さない	1	2	3	4
（4）家族や友人との関わりを持たせない	1	2	3	4
（5）交友関係や行き先、電話・メールなどを細かく監視する	1	2	3	4
（6）職場に行くことを妨害したり、外出先を制限する	1	2	3	4
（7）何を言っても無視し続ける	1	2	3	4
（8）家計に必要な生活費を渡さない	1	2	3	4
（9）嫌がっているのに性的な行為を強要する	1	2	3	4
（10）避妊に協力しない	1	2	3	4

あなたはこの言葉をご存知でしたか。(○は1つ)

1. 言葉を聞いたことがあり、内容も知っている
2. 言葉を聞いたことがあるが、内容は知らない
3. 言葉を聞いたことはなく、内容も知らない

1. はい 2. いいえ

【問 13 で「1. はい」とお答えの方に伺います】

(○はいくつでも)

- | | |
|----------------------------------|-------------------------------------|
| 1. DV相談支援センター | 9. 医療関係者（医師、看護師など） |
| 2. 男女共同参画センター | 10. 学校関係者（教員、養護教諭、
スクールカウンセラーなど） |
| 3. 区役所 | 11. 職場の関係者（上司、同僚、部下、
取引先など） |
| 4. 国の相談窓口 | 12. 家族や親戚 |
| 5. 警察 | 13. 友人・知人 |
| 6. 上記1～5以外の公的な機関 | 14. インターネット上の SNS や掲示板 |
| 7. 民間の相談窓口 | 15. その他（ ） |
| 8. 民間の専門家や専門機関
（弁護士、カウンセラーなど） | |

【問13で「2.いいえ」とお答えの方に伺います】

問13-2 誰（どこ）にも相談しないのはなぜですか。（〇はいくつでも）

1. 誰（どこ）に相談してよいのかわからないから
2. 恥ずかしくて誰にも言えないから
3. 相談してもむだだと思うから
4. 相談するほどのことではないと思うから
5. 相談相手の言動によって不快な思いをさせられると思うから
6. 自分さえがまんすればよいから
7. 自分にも悪いところがあると思うから
8. 思い出したくないから
9. 仕返しが怖いから
10. 世間体が悪いから
11. 他人を巻き込みたくないから
12. 他人に知られると、これまで通りの付き合い（仕事や学校などの人間関係）ができなくなるから
13. 別れるつもりがないから
14. その他（ ）

問14 配偶者等から暴力の被害を受けた方が、暴力についての相談をしやすいするためには、どんな相談体制が必要だと思いますか。（〇はいくつでも）

1. 相談窓口や利用できる支援について、もっとPRする
2. 相談窓口の対応時間を延ばす
3. 夜間や休日の緊急の対応を充実させる
4. 法律や医療の専門相談を受けられるようにする
5. メールやSNSによる相談ができるようにする
6. 安全でプライバシーの確保された場所で相談できるようにする
7. 同性の担当者を配置する
8. 相談員や支援関係者が、この問題についての知識や理解を深めるよう、研修や教育を充実させる
9. 多言語での相談ができるようにする
10. その他（ ）

IV 困難な問題を抱える女性への支援について

問 15 日々の生活に悩みや課題を抱える女性を、社会全体で支援できていると思いますか。（○は1つ）

- | | |
|-----------------|-------------------|
| 1. そう思う | 4. どちらかといえばそう思わない |
| 2. どちらかといえばそう思う | 5. そう思わない |
| 3. どちらともいえない | 6. わからない |

問 16 あなたは、日々の生活に悩みや課題を抱える女性のための窓口を知っていますか。次の中で知っているものに○を付けてください。（○はいくつでも）

- | |
|-----------------------------------|
| 1. 区役所（福祉保健センター） |
| 2. 横浜市男女共同参画センター |
| 3. 神奈川県立女性相談支援センター |
| 4. 神奈川県共生推進本部室（かながわ女性の不安・困りごと相談室） |
| 5. 民間の相談機関（カウンセラー、民間シェルターなど） |
| 6. その他（ ） |
| 7. 相談できる窓口は知らない |

V 男女共同参画について

問 17 あなたが、男女共同参画社会※の実現に向けて、横浜市が重点をおいて取り組むべきと思うものは、どのようなことですか。（〇はいくつでも）

※男女が、社会の対等な構成員として、自らの意思によって社会のあらゆる分野における活動に参画する機会が確保され、もって男女が均等に政治的、経済的、社会的及び文化的利益を享受することができ、かつ、共に責任を担うべき社会（男女共同参画社会基本法抜粋）

1. 出産や子育てで離職した女性の再就職を支援する取組
2. 企業や団体において女性の管理職やリーダーを育成するための取組
3. 多様で柔軟な働き方（テレワーク、フレックスタイムなど）や仕事と育児・介護との両立支援の推進に向けた企業への働きかけ
4. 男性の育児休暇・休業の取得促進に向けた企業への働きかけ
5. 保育所や小学生の放課後の居場所など、子育てしながら働くための環境整備
6. 市役所自らの、職員の働き方改革に関する積極的な取組
7. 配偶者等からの暴力（DV）や性犯罪・性暴力を無くすための取組
8. 経済的に不安定な若年無業・非正規雇用の女性やひとり親家庭の支援
9. 妊娠・出産や月経に伴う不調、乳がん等女性特有のがん、更年期障害などの女性の健康課題に対する支援
10. L G B T などの性的少数者への支援と理解促進
11. 家事・育児への男性の参加促進
12. 地域防災活動における女性の担い手増と、女性の視点を盛り込んだ防災対策の充実
13. 男女共同参画やジェンダー、性について理解を深めるための広報や教育、学習機会の充実
14. その他（ ）

問 17-1 そう考えるのはどのような理由ですか。理由をお書きください。

--

あなた自身のことについて

回答を統計的に分析するために、あなたご自身のことをお伺いします。

F 1 あなたの性別（○は1つ）

1. 女性	2. 男性	3. 回答しない
-------	-------	----------

F2 あなたの年齢 (○は1つ)

1. 18~19歲	5. 35~39歲	9. 55~59歲
2. 20~24歲	6. 40~44歲	10. 60~64 歲
3. 25~29歲	7. 45~49歲	11. 65~69 歲
4. 30~34 歲	8. 50~54歲	12. 70歲以上

F3 あなたの就業状況、勤務形態（○は1つ）

1. 正規の社員・職員でフルタイム※勤務
2. 正規の社員・職員で短時間勤務
3. パート・アルバイト
4. 派遣・嘱託・契約・非常勤などの社員・職員でフルタイム※勤務
5. 派遣・嘱託・契約・非常勤などの社員・職員で短時間勤務
6. 会社役員・経営者
7. 自営業・家族従業（法人以外）
8. 家事専業
9. 学生
10. 無職
11. その他（ ）

※フルタイム…概ね週5日、1日8時間程度

F 4 あなたは結婚（事実婚も含む）していच्छいますか。（○は1つ）

1. 結婚している（配偶者等と同居）
2. 結婚している（配偶者等と同居していない）
3. 結婚（事実婚含む）はしていない（離別後、死別後を含む）

【F 4で「1. 結婚している（配偶者等と同居）」とお答えの方に伺います。】

F 4-1 あなたの配偶者等の就業状況、勤務形態は次のうちどれですか。（○は1つ）

1. 正規の社員・職員でフルタイム勤務
2. 正規の社員・職員で短時間勤務
3. パート・アルバイト
4. 派遣・嘱託・契約・非常勤などの社員・職員でフルタイム勤務
5. 派遣・嘱託・契約・非常勤などの社員・職員で短時間勤務
6. 会社役員・経営者
7. 自営業・家族従業（法人以外）
8. 家事専業
9. 学生
10. 無職
11. その他（ ）

**F 5 あなたには子どもがいますか。（○はあてはまるものすべて）
同居の有無に関わらずお答えください。**

1. 子どもはいない
2. 就学前の子どもがいる
3. 小学生の子どもがいる
4. 中学生の子どもがいる
5. 高校生以上の子どもがいる

調査はこれで終了です。ご協力ありがとうございました。
ご記入いただきました調査票は同封の返信用封筒に入れ、
10月8日（火）までにポストに投函してください。

参考 横浜市男女共同参画に関する市民意識調査の実施概要

(令和6年度、令和4年度、令和2年度、平成30年度)

	令和 6 年度調査 （今回調査）	令和 4 年度調査	令和 2 年度調査	平成 30 年度調査
調査時期	令和 6 年 9 月 14 日 ～10 月 8 日	令和 4 年 6 月 21 日 ～ 7 月 11 日	令和 2 年 5 月 23 日 ～ 6 月 12 日	平成 30 年 5 月 7 日 ～ 5 月 31 日
調査対象者	市内在住の 18 歳以上の男女 （外国籍市民を含む） 5,000 人	市内在住の 18 歳以上の男女（外国籍市民を含む） 8,000 人		
抽出方法	住民基本台帳による無作為抽出			
調査方法	郵送配布 郵送または WEB 回答	郵送配布 WEB 回答	郵送配布 郵送回答	
有効回収数 （回収率）	1,667 件 （33.3%）	1,542 件 （19.3%）	3,135 件 （39.2%）	2,439 件 （30.5%）